

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1155

「NEWSな濟生人」
健康管理センターオープン
フロアが3倍に



9

September 2025

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



憂慮される子どもの世界

衝撃的な数字だった。7月31日、文科省が発表した2024年度実施の小中学生の学力調査の結果では、国語、算数、数学、英語すべての教科で3年前の前

回を大きく下回った。難易度などを加味して算出された各教科の平均スコアは、小

6国語489・9(21年度505・8)、中3国語499・0(5

11・7)、小6算数486・3(507・2)、中3数学503・0(511・0)、中3英語478・2(501・1)と芳しくな

かった。天然資源の乏しい日本の国力の源は、教育水準の高さである。幕末期に列強に侵略されず、明治維新後、近代国家建設に成功した最大の原因は、日本人の教育水準の高さだった。江戸時代は各藩が藩校で藩士の子弟を教育し、庶民は寺小屋で学んだ。

しかし、これが揺らぎ始めたのだ。日本の未来に暗雲が立ち込めたという歴史的な事件だと認識すべきではないか。全国紙では新型コロナウイルスの影響を挙げているものが多かったが、朝日新聞(8月1日付)で耳塚寛明・お茶の水女子大学名誉教授が次の四つの要因を指摘していたのに注目した。

①勉強時間の不足②学習指導要領にある「知識・技能」の定着不足③家庭の経済的な背景④SNSやテレビゲームなどデジタル環境の影響

私はこの四つの要因いずれにも合点がいく。それらはすべて

近年の日本の経済、社会の構造的変化と言える。新型コロナウイルスのような一時的な要因だけでない子どもはSNSやテレビゲームに使う時間が増大する反面で勉強時間が減少している。全面的なデジタル依存は思考力や知識の蓄積に悪い影響を与えないだろうか。教育先進国のフィンランドでは、デジタル重視から紙の教科書に戻す動きが伝えられる。

☆ ☆

近年、日本では貧困家庭の割合は高い。ことにひとり親家庭の貧困率は約半分である。家庭の所有書籍数と子どもの学力は、正の相関関係があるように貧困家庭の子どもの教育面で不利となる。貧困の承継につながってしまう。

済生会ではソーシャルインクルージョンの視点から埼玉県春日部市の特養「彩光苑」や「済生会長崎病院」で、ひとり親の家庭の子どもに地元の大学生の協力を得て学習指導を行なっている。子どもたちの明日への飛躍に役立てていきたいものだ。

不易流行(ふえきりゅうこう): 不易は永遠性、流行はその時々々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適切に対応していかなければならない。

HITACHI
 Inspire the Next

人事給与システムが変われば、どうなる。



日立システムズはニッセイコム社製人事給与システムをご提案致します。

特長1	給与計算時のexcel管理を削減!	特長2	人事情報からの自動計算!	特長3	様々な支給形態に対応!
GrowOne 人事SX GrowOne 給与SX	各種手当や退職金の計算をシステム内で完結することで、給与計算にかかる時間数や計算ミスリスクを削減できます。	家族情報から扶養手当や年末調整を自動計算し、介護保険等の年齢による控除や手当も自動化できます。	正職員、非常勤職員や日給・時給など様々な雇用契約に応じた支給形態に対応し、職員情報から自動判定できます。		

◎ 株式会社 日立システムズ

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー
 福祉の森担当: 山本
 フリーダイヤル: 0120-055-294

Human * IT

topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する
記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事を
ご紹介します。

病院探検ツアー、看護体験、スイ
カ割りなど、子どもからお年寄り
までみんなが楽しんだ夏休みイベ
ントが各地の済生会で開かれまし
た。鹿児島病院は地元小学生の錦
江湾横断遠泳に救護班として職員
が同行、父兄や地元漁協などと子
どもたちのがんばっている姿を応
援しました。

The latter half of this magazine is
covered with a rich forest of
treasurable articles.
What will you discover there?



表紙のことば

悠久の時を旅する世界最古の果物

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

神が創造した最初の人、アダムとイブは知恵の実を
食べ、身につけたのはイチジクの葉。神話の昔から
愛され大切にされてきた“世界最古の果物”イチジ
クです。エジプトやギリシャの神話にも登場します。

日本では無花果と書きますが、イチジクのたくさん
の花は果実の中。私たちが、4000年前の人も美味し
いと感じたイチジクを味わう瞬間、遙かな時と空間
を超え神話や神々と繋がっているのかもしれない。



済生

SAISEI

CONTENTS
SEPTEMBER, 2025

NEWSな済生人

健康管理センターオープン
フロアが3倍に
富山病院 院長

亀山智樹さん 06

済生会交差点

《施設間・地域の連携強化》「ほちよけびの
会」でグループの長所を強化する!／《院内
訓練でベイハラ対策》暴言・暴力から医療
従事者を守る。ペイシェントハラスメント
対策訓練／《アートでつなぐ》障害者福祉と
地域がつながるアートワークショップ

10

連載 機関誌「済生」が
創刊100年! 20

巻頭コラム 済生会の不易流行論

憂慮される子どもの世界 理事長 炭谷 茂

03

topics★コンシェル

表紙のことば 久保田真由美

05

ソーシャルインクルージョン

17

この人 田中彩子 22

口福にっぽん 吉井省一 24

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ 26

TOPICS

28

載々、大雑報

89

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

正しい情報を住民に提供、一緒になって健康リテラシーを高めたい

富山病院は予防医療をさらに推し進めようと、4月に従来の健診センターの規模を拡大する形で新たに健康管理センターを増築しました。昨今の厳しい病院経営は保険診療だけに依存しない収益確保の対策として健診センターも重要な役割を担っています。経営の安定は患者や住民に信頼される医療機関として機能を充実、発展させてい

くことで可能になります。院長の亀山智樹さんに、同センターの特徴や富山病院が地域で果たす役割について聞きました。
(福井県済生会病院 健診センター 細井貴寿彦)

富山病院 院長

亀山智樹さん

※写真撮影時のみマスクを外しています

築したのはどうしてでしょうか。
亀山 病気の発症後に介入が始まるのがこれまでの医療でした。しかし、医学の進歩とともに病気のメカニズムが明らかになるにつれ、予防医学の重要性が認識されるようになってきました。火事になってから消火するのではなく、火災報知器で煙を感じ、炎が上がる前に消す。さらには煙さえも立たないように対策をとるのが予防医学です。今後ますます重要になると考え、健診センターの規模拡大に踏み切りました。

細井 分かりやすい例えです。

亀山 具体例の一つとして、日本人に多かった胃がんは遺伝子異常が原因とされてきましたが、近年、ヘリコバクター・ピロリ、



富山病院本館(左)と健診センター。受け入れ人数は1.5倍の年間1万3000人を見込んでいる



左はインタビューの細井さん

いわゆるピロリ菌の長期感染により炎症が引き起こされることが分かっています。ところが、このピロリ菌は感染しても自覚症状がほとんどありません。健診などでピロリ菌検査をして、早期に除菌治療を行うことで、将来の胃がん発症を予防できるのです。

細井 病気を治す以前に、病気になるのを予防することが健康を保つために重要になってくるんですね。

亀山 さらに、年をとっても元気であるためには、病気の予防に加え体力の維持が必要です。栄養管理や運動指導など、医師以外の医療者も加わって、より早期から適切に介入することが求められています。そうしたことも積極的にこなすようになっていこうと、地域住民向け講座などの実施に適したセミナー



“ゆとりと温もり”のある空間をコンセプトにしており内装は富山県産の木材を取り入れ温かみのあるデザインとなっている

ー室も設けました。

受診しやすさ、安心感を追求

細井 健康管理センターのサービス内容について教えてください。

亀山 法定健診やがん・心臓・脳などの専門ドックを中心に、受診指導、健康増進啓発などを行っています。電子カルテシステム、胸部X線、超音波診断装置、心電計のほか、眼科関連や聴力、腹囲などの検査機器を新たに導入し、病院に備わっているマンモグラフィー、スパイロメーターを健診受診者も利用できるような動線を整備し



FMとやまで毎週金曜日午後1時に放送されている「気ままプラン」という番組のコーナー「教えて! 済生会病院」では富山病院の紹介や、元気で長生きするためのヒントなどを話している

誰もが安心して利用できる施設として
動線を重視し、ゆとりと温もりの空間づくり

伝子検査を導入して、自分の体質を知ること
で病気を予防するオーダーメイドの健診
ができるようになることを期待しています。

「健康リテラシー」向上を期待

細井 地域に済生会をもっと知ってもらう
ためにどのような活動をしていますか。
亀山 病院や医療者をもっと身近に感じて
もらうためには、病院側から地域にアプ
ローチしていく必要があります。当院では、
毎年「人生100年時代 健康寿命を伸ば
そう」(看護支援週間)や「高校生の1
日看護見学」などのイベントを院内で開催
しています。



富山交通との連携協定では互いの強みを生かした取り組みを実施、職
員が働きやすい職場づくりを一緒になって目指している【上】2023年
2月の協定調印式【下】連携の一環として、富山交通社員が講師となって、
富山病院の職員向けに安全運転研修が行なわれた



市民公開講座では脳卒中や心臓病の予防法
の解説や、多職種による健康相談、血管年齢
測定などを実施している



高校生の看護体験。医療に対する理解を深めるだけでなく、思いやり
や命の大切さも実感することができる

ています。また、近隣のホテルの協力を得
て一泊ドックも可能になりました。

細井 充実した設備・サービスですね。
亀山 スタッフは医師5人、保健師3人、
看護師4人、臨床検査技師4人、事務員10

人。医師は内科医3人、乳腺外科医1人、
脳外科医1人で、病院の専門科とも連携し
ています。

細井 玄関から一歩中に入ると、柔らかな
空気に囲まれ、木の椅子やテーブルなど、
とても居心地の良い雰囲気があります。

亀山 富山は立山連峰、富山湾など雄大な
自然に囲まれ、また、広大な農地に民家が
散在する散居村などもあるユニークな土地
柄です。富山の自然がもたらしてくれる恩
恵を生かし、ゆとりと温もりを大切にした
空間にするためにイン
テリアには県産の木材
を随所に使っています。

細井 なるほど、この
地域ならではのおお
かさの演出でもあるの
ですね。

亀山 健診センターに
は健康な人が検査を受
けに来ますが、健診で
病気が見つかるのではないかと心配する方
もいます。また、採血、胃カメラなど苦痛
を伴う検査もあります。そういった不安を
少しでも和らげることができるのではない
かと思っています。

細井 設計の上で特にこだわったことはあ
りますか。
亀山 受診者の動線には気を配りました。
受診者が各検査室に行き来する負担を軽減
するために、胸部X線、眼底、眼圧、乳腺、
腹部エコー、マンモグラフィなどの各検



査を1階と2階に集めて効率良く検査が受
けられるようにしました。また、女性に安
心して検査を受けてもらうために、婦人科
検診や大腸内視鏡といった検査は看護師
臨床検査技師などスタッフをすべて女性に
するという体制を整えています。

細井 福井県済生会病院でも、女性検診は
女性しか入れないような場を設けています。
亀山 女性にとってデリケートな検査など
に、受診しやすい環境づくりは大切です。

細井 ゆとりと温もりがコンセプトの同セ
ンターは、スタッフに
とっても働きやすいの
では。

亀山 4階の職員用休
憩スペースは、アロマ
が漂い、気持ち落ち
着く空間です。ひとと
きリラックスできるよ
うに、コーヒーマシン
も設置しました。男女
別の仮眠室は木造で、短時間横になるだけ
でもリフレッシュできるように工夫してあ
ります。

細井 日頃患者さんを診察していて、もっ
と早く健診を受けてもらっていたらと感じ
ることはありますか。
亀山 よくあります。健診を受けたことで
病気が早く見つかった、あるいは病気の芽
を摘んで健康を維持できたケースを多くの
人に知ってもらい、健康な人が健診を受け
る動機づけになればと思います。将来は遺

細井 日頃から住民との距離感を縮め、気
軽に来てもらえる関係づくりを構築するこ
とは大切ですね。

亀山 院外の活動では、例えば、県内のタ
クシー会社と「健康増進にかかる連携協定」
を結んでいます。当院がタクシー乗務員を
対象にした定期健診、各種専門ドックによ
る病気の早期発見・治療の促進、さらに健
康増進のためのセミナーなど各種イベント
を開催し、タクシー会社には、当院のマイ
カー通勤者向けに交通安全セミナー研修や、
新入職員向けに社会人としての自覚や安全
運転の意識を高めるための研修などを開催
してもらっています。

細井 それぞれの専門
分野を生かした連携は、
双方にとってのメリッ
トを感じます。

亀山 セミナーや講演
会には私も循環器内科
の医師として足を運び、
高血圧や心臓病の話
をします。最近、注目されている病気の一つ
に睡眠時無呼吸症候群がありますが、病
気に気づくためのポイントを解説したり、検
査や治療について紹介したりして、ドライ
バーの安全運転の支援に努めています。

【取材を終えて】

取材を通じて、新施設が地域や組織にも
たらす大きな可能性を実感しました。充実
したサービス、受診者の動線、職員の働く
環境、富山の魅力、全て兼ね備えていること



細井 健診や健康増進のための情報発信を
積極的に行なうことで、最近よく言われる
「健康リテラシー」の向上が期待できますね。
亀山 「生兵法は大怪我のもと(中途半端な
知識に頼ると失敗する)」ということわざ
がありますが、それを教訓とするのか、何
事も専門家に任せようが安全と考える、治
療方針や健康管理を医者まかせにする人が
まだまだ多いように感じます。その結果、
健康に関する知識の習得、自己管理に後ろ
向きになります。これを改善するには「生
兵法」ではなく正しい兵法(情報)を提供
する必要があります。

細井 病院だけでなく、
地域でも、インターネ
ット上でも、正しい知
識を提供していくこと
が重要だと思います。
亀山 その通りです。
住民の健康リテラシー
が向上すれば、同セン
ターの受診者数も増加
していくと思います。今後はこれまで健診
を受ける機会が少なかった若年層、女性が
自らの判断で自分に合った健診を受けられ
るような仕組みをつくっていきたいと考え
ています。

に感激しました。現場の皆さんの熱意や取
り組みが記事を通じて多くの方に届き、自
然溢れる富山の魅力がより広がり、親しま
れることを期待しています。(細井貴寿奈)



【②】【老健ケアホーム三条】相談員が介護度認定調査において市の調査員と入所者家族と面談



【③】【特養長和園】入所者の血圧を測定する看護師



【④】【三条訪問看護ステーション】スタッフが集まり、カードゲームを使い人生会議（ACP）を行なう

これらの活動を通じて相互の
内情が分かるようになり、また
顔見知りもできたことで、当院
職員は入院や外来受診の際に相
談しやすくなりました。

ほちよけびから 地域全体の連携推進へ

認定看護師による施設への定期
訪問指導、レスパイトやショ
ーステイ利用を促進するための
4施設合同パンフレットの作成
皮膚科開業医による老人性皮膚
疾患に関する勉強会などにも取
り組みました。

前。転んでからどうやって自分
で起き上がるかという視点で
ケアをしている」という発言か
ら、食事・排泄等の日常生活支

援や患者・利用者への向き合い
方がそもそも病院と施設間で大
きく異なっていることが分かり
相互の役割や機能を理解するこ
とから始める必要があることを
認識するに至りました。

その一環として、昨年10月12
月に「その人らしさを繋ぐため
の情報共有」をテーマに、リ

ダークの
看護師、
介護士、
MSW計
10人によ
る3回の
意見交換
会、今年
1月に結
果報告会
を実施。参加した看護師・丸山
紗奈江さんからは「このような
内容で話し合う機会がこれまで
全くなかったので、他施設との

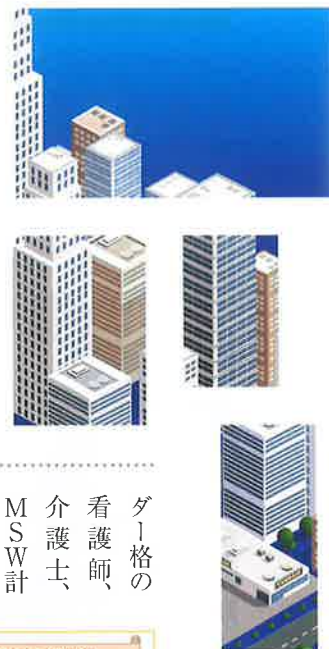
相互理解につながりました」と
の声がかれました。

その他、入院患者の施設入所
の可能性を検討する「入所者
選定カンファレンス」、病院の
認定看護師による施設への定期
訪問指導、レスパイトやショ
ーステイ利用を促進するための
4施設合同パンフレットの作成
皮膚科開業医による老人性皮膚
疾患に関する勉強会などにも取
り組みました。

新潟県済生会三条グループではそれぞれの施設で
介護を必要とされている方への支援を行っています

レスパイトやショートステイ利用を促
進するために4施設合同で制作した「ほ
ちよけびの会」パンフレット

済生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で変わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。



「ほちよけびの会」メンバーが集まって毎月の会議を実施



「ほちよけびの会」メンバー

「ほちよけびの会」で グループの 長所を強化する！

施設間・地域の
連携強化
〈新潟〉三条病院
看護部長
池 穂波



筆者の池さん

新潟県済生会三条グル
ープには医療・保健・福祉の
機能がそろっており、そう
した済生会の存在は、地域
住民の安心感につながり、
また関係機関からは地域包
括ケアシステムの中心的役
割を期待されています。し
かし、患者・利用者の連携
においては、例えば病院か
ら老健入所への受け入れ要
件が厳しく、また入所するま
でかなりの時間を要するなど、決
してスムーズとは言えない状況

では、
そこで202
0年8月、当時
の看護部長が
「グループ内の
連携を強化する
には「顔の見え
る関係」を構築
することが必
要」と考え、グ
ループ内の4施
設が参加する
「ほちよけびの
会」を発足。会
の名称は、当院
と同一敷地内に
ある三条訪問
看護ステーション
の「ほ」、特養
和園の「ちよ」、
老健ケアホーム
三条の「け」、三
条病院の「び」
をとり「ほ・ち
よ・け・び」で
す。

発足当初の2年間は入院患者
がスムーズに施設へ入所するた
めの課題を、3年目からは視点
を変えて「在宅復帰」するため
の課題について話し合いました。
この過程で、訪問看護や施設の
メンバーの「入院中は転倒転落
しないケアを大事にしているけ
れど、在宅では転ぶのは当たり

施設利用者のために…… まずは施設間の相互理解を



【「ほちよけびの会」各施設の活動①】【三条病院】地域医療支援センターで、ほちよけびの会メンバーの看護師（左から4人目）とMSW（奥右）が、他スタッフとカンファレンスを実施

院内訓練で ペイハラ対策

福井県済生会病院

済生記者

橋本来林

暴言・暴力から医療従事者を守る ペイシエントハラスメント対策訓練

ペイシエントハラスメントは、患者やその家族が医療従事者に対して行なう暴行、脅迫、不当な要求、著しい迷惑行為などを指し、医療現場におけるカスタマーハラスメントの一種です。2019年6月に改正された「労働施策総合推進法」では、



筆者の橋本さん

事業主に対し、職場におけるパワーハラスメント防止のための雇用の管理上の措置を講じることが義務付けられています。当院の職員は、高い使命感を持って職務に当たっていますが、病



訓練で、興奮する患者に対して複数人でなだめる様子

気による苦痛から患者さんから厳しい言葉を受けることがあります。また、認知機能の低下に起因する認知症患者



昨年11月の防犯保安研修会では「身体防護訓練の実技」などを実施

各施設からもその効果を実感する声が聞かれます。訪問看護ステーションの管理者・阿部育子さんが「この会は各施設に訪問看護の現状を知ってもらえる貴重な場所となっています」と会のメリットを口にすれば、特

さんは「他施設との連絡が取りやすくなり、また感染管理認定看護師とのつながりができ、職員

円滑になりました」と施設間の連携強化を実感しています。会が発足して約5年。入院患者のスムーズな施設入所を目的に始めた会でしたが、他施設の状況が分かると同時に地域包括ケアシステムにおける病院の役割を改めて考える機会にもなり、

手ごたえを感じています。今年度からは「認知症の方への対応」をテーマに、次世代リーダーを対象とした研修会を予定しています。また、今後はグループ内だけでなく地域全体に施設間連携の推進活動を広げていきたいと考えています。



訓練前に内容や対応手順を最終確認

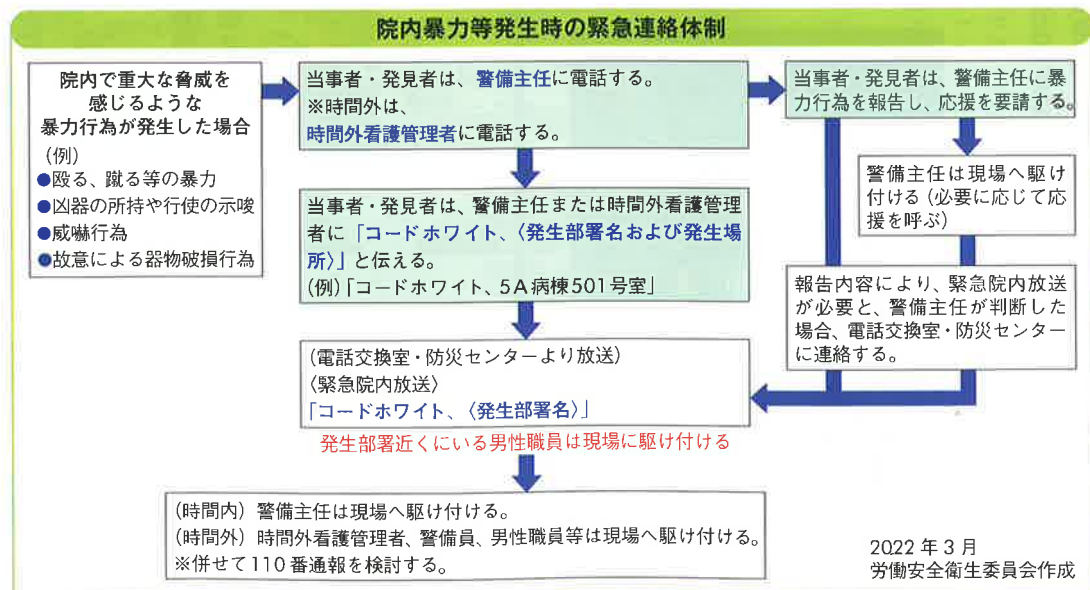


周囲の患者の安全に配慮しながら援護する看護師

る基本的な対応例を記載しています。また、職員が不当な要求や身体的・精神的暴力を受けた場合は「被害状況報告書」を提出することとしており、労働安全衛生委員会と患者サポート会議が連携して対応策を検討する体制を整えています。

書」が提出されるようになり、報告件数は増加傾向を示しています。暴れる患者にどう対応？警察と連携して院内訓練

イト研修としてペイシエントハラスメント対策訓練を実施。医師や看護師、メ



職員間の連携体制など。今年度は初めて福井警察署の協力を得て、警察との連携のもと、緊急対応の流れを再現し、職員が迅速かつ安全に対応できる体制を

確認しました。参加者からは「集まった職員への指示役を担当したが、実際に患者対応を行っていると周囲の状況把握が困難だった。各



アートで つなぐ

ひまわり事業団
それいゆ・さにい

障害者福祉と地域がつながる アートワークショップ

2026年済生会手帳の表紙は静岡市駿河区・NPO法人ひまわり事業団の利用者さんが描いた作品を採用します。同法人が運営する「それいゆ・さにい」では毎年、地域住民を施設に招き利用者・職員と一緒にアートで交流するイベントを実施

施。笑顔あふれるワークショップを取材しました。

（本部広報課 杉山菜央）

ひまわり事業団は静岡済生会総合病院のすぐ東側に位置しています。同法人は40年以上、静岡済生会総合病院の患者用駐車場の

ある方の自立や社会参加を支援します。

同じ空間での表現活動 人との関わりを知る

それいゆ・さにいでは利用者さんの「やりたいこと」を大切

職員の役割と動きについて事前に理解を深める必要がある「訓練後の警察からの助言（酔った者は頭を前後に振って攻撃したり、噛みついていたりする可能性があるため十分な距離を保つことなど）は大変参考になった。訓練に参加していない全職員にも共有すべき」といった意見が寄せられました。

訓練で対応力の向上と 啓発で未然防止を

実際に患者さんが暴れた場合、職員はまず自身の安全を確保しつつ、他の患者さんへの危害防止にも十分に配慮し、危険が及びそうな状況では安全な場所に誘導するなどの対応をします。自ら制圧しようとせず、速やかに警察へ通報することが重要です。

同時に、職員間の役割分担の明確化や情報伝達体制の強化といった課題も浮き彫りに。また、全職員が共通認識を持ち、突発的な状況にも適切に対応できる力をさらに高めていくことが求められます。

今回の訓練で得られたこのような気づきこそが、最大の成果だったと言えます。今後も訓練を継続的に実施するとともに、ペイシエントハラスメントを未然に防止するために患者さんご家族に対しても啓発活動を行なっていきたいと考えています。



暴れる患者役を演じた警察官（右から2人目）や警備主任からの講話などで訓練を振り返った



誘導や駐車料金回収等の業務を受託しています。

そのひまわり事業団では7月31日にアートワークショップ「7.31 in Wonderland 日常」を開催。就労継続支援B型事業所「それいゆ」と生活介護「さにい」の利用者さん35人、地域の子どもなど約30人が参加しました。

にしたアート活動を2018年から実施。施設の活動を地域住民に知ってもらうため、毎年冬にワークショップを実施していますが、今回は初めての夏に開催しました。

福祉施設に地域の人たちが足を運び、同じ空間の中で表現活動を楽しむこと。参加者は子どもだけでなく、地元大学の学生・教授などさまざまです。それいゆ・さにいの利用者さんは表現活動を通じて幅広い年齢・属

地域住民の生活園を訪問し無料健診 アウトリーチの大切さを実感



〈三重〉松阪総合病院

6月21日、飯南ふれあいセンターで「飯南地区住民健診」を開催し、地域住民36人が来場しました。この健診は、医療を受けにくい状況にある地域住民を対象に無料で実施しています。当日は医師や看護師など総勢20人のスタッフが訪問。循環器

内科・澤井俊樹部長が心疾患について健康講座を行いました。また、腹部超音波検査等の検査、清水敦哉・当時院長（現緩和ケア科センター長）など医師4人による総合診療のほか、医師・看護師・管理栄養士による健康相談が行なわれました。

地域住民の方々の生活園を訪問したことで、近い距離感の中で話しやすい関係を築くことができ、また健康相談も多岐にわたる内容になりました。地域に出向くアウトリーチの大切さを実感できました。

（医療相談室主任 社会福祉士 牛場智也）

山口市中央地域包括支援センター

生活再建に向けた協働支援 ふくまる相談室が新聞で紹介

山口市からの受託事業「まちの相談室（通称、ふくまる相談

室）」の活動が、7月11日付の朝日新聞で紹介されました。今回取材を受けたのは、相談員の岡村僚太さんです。記事では、A 刑務所から事前に相談のあったBさんへの支援について取り上げられました。Bさんは家族とも疎遠になり、将来への不安から窃盗を繰り返すなどの問題に加え、住まいにはごみを溜め込んでしまうなど、複雑な課題を抱えていました。

こうした状況を受けて、通常の支援の枠組みだけでは解決が



岡村僚太さん

難しいと判断。済生会地域包括ケア連携士も支援に加わり、生活再建に向けた協働支援を行なっています。

記事は、参議院選挙を前に「地域の声」に焦点を当てたもので、こうした取材を通じて、暮らしの現場の声が候補者や政党に届き、国の政策に反映されること

（センター長 光永聡子）

ソーシャルインクルージョン

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。だれも排除されないまちづくりを目指し、全支部・施設が1800の事業を展開します。



静岡済生会総合病院の済生会フェアで開催したワークショップの様子

性の人と出会い、人と関わって生きていくことを知ることができ、自身の作品にも影響されます。参加した子どもたちは、学校での図画工作や美術の授業とは違う表現の場を楽しむことができました。参加者皆で段ボールに大きな絵を描いたり、クレヨンやマジック、筆等を使って造形遊びに挑戦。紙だけでなく、空き箱や木材、茶筒等さまざまな素材にも絵を描き、色彩や形の新たな可能性に触れる時間となりました。また、模様づくりぬかれた版を用いて、布や段ボールに直接インクを刷り込むシルクスクリーンプリントの体験コーナーも設置され、子どもたちは普段とは異なる技法での表現活動に夢中になっていました。

デザインเนอร์のウエダトモミさんと摺師のホシノマサルさんによるアーティストユニットBOB FLOWが協力し、子ども・利用者さん一人ひとりの発想に寄り添ってサポートしました。

生活介護にいた職員鈴木梨可さんは「今後も利用者さんが、他者との関わり合いの中で自分らしく表現できる場づくりを大切にしたい」と語り、ウエダトモミさんは「地域のの人に見てもらえる展覧会など、発表の機会を増やしていきたい」と絵具だらけの手とエプロン姿で嬉しそうに話していました。アートを通じて、地域と福祉がつながる新しい可能性が広がっています。

来年度の済生会手帳もコラボ!!

済生会本部は職員向けの手帳を毎年製作しています。2026年版の手帳は「それいゆ」と「ふに」の利用者が描いた作品をBOB flowがデザインしたアート作品を表紙に採用しました。表紙に描かれたGrazie infinite（無限にありがとう）の言葉にそれいゆ・ふにの利用者さんから済生会へのメッセージも込められています。

あなたの写真が カレンダーに!!!

【4年目に突入。大好評のため、今年も実施します】
11月号までに掲載された記事の中で、良い表情をとらえた写真が対象

機関誌「済生」に載った写真の中から編集部が厳選、カレンダーにしてプレゼント！
【撮影】大きく引き延ばすので正確なピントと露出に【構図】横。
画面に撮影の日付が入っているものは審査対象外
【写真の規格】写真はデジタルデータに限り、サイズは1MB以上
【参加資格】本会支部・施設の職員
各支部・施設の済生記者を通じて、ぜひご寄稿よろしくお願いします!!

支援活動補助員養成講座で講義 性暴力被害者支援への理解を深める

〈栃木〉宇都宮病院



7月1日に公益社団法人被害者支援センターとちぎで、支援活動補助員養成講座の一環として稲見一美地域連携課長（MSW）が講義を行ないました。本講座は今後被害者支援に携わる人を対象に実施され、当日は7人が参加しました。

稲見課長は、同センターとちぎ性暴力被害者サポートセンター「とちエール」の日頃の連携・協働による取り組みに触れ

第3回栃木連携士会交流会に18人 会の名称は「つながっぺ」に

栃木県済生会

7月29日、第3回栃木連携士会交流会をオンラインで開催し、18人が参加しました。この交流会は昨年度、栃木県済生会で実施した済生会地域包括ケア連携士養成研修会の修了者を対象として行います。

当日は、各自の活動報告や地域ごとの課題を共有。また、連携士会の名称を「つながっぺ」と決定しました。さらに、SNS上に情報交換の場を開設したことも共有しました。

連携士会の参加者からは「困りごとを発信すると多職種の方から反応があり、支援



者である自分自身の安心や自信につながっている」との声も寄せられています。

稲見一美地域連携課長（MSW）は「今後も『つながっぺ』を言葉に多職種連携の力を高め、地域課題の解決に向けて実践と学びを重ねていきます」と話しています。

（栃木・宇都宮病院
地域連携課 川田綾香）

性暴力被害者の状況は外から見えにくく、関わる側の言動によっては2次被害を招く可能性があります。講義の最後に、稲見課長はこうした課題に対する社会全体の理解の重要性を改めて強調しました。

（地域連携課
川田綾香）

誰一人取り残さない社会の実現に向けて ソーシャルインクルージョンの講演会

〈岩手〉北上済生会病院



7月15日、「100年暮らしたいソーシャルインクルージョンなまちづくり」をテーマに、講演会をハイブリッド形式で開催しました。当院は昨年度から北海道済生会が代表を務める「済生会コンソーシアム」に参画し、ソーシャルインクルージョン事業の推進と地域に根差したまちづくりに取り組んでいます。本講演はこの活動の一環です。

岩手県済生会の各施設にも広く案内し、当日は約100人が参加。



が参加。北海道済生会の櫛引久丸常務理事を講師に迎え、医療・福祉・介護を通じた地域貢献の枠を越え、地域課題の解決と新たな価値創造に挑む北海道済生会の実践について、経営への波及効果も含めてご講演いただきました。

参加者からは「ソーシャルインクルージョンの考え方

「やってみたい」がカタチになる！ 地域とつながる笑顔のお菓子

〈岩手〉北上済生会病院

7月7日、NPO法人わらわばと協働し、皆にハッピーを届けるお菓子作り「SWEETS PROJECT」がスタートしました。

同法人は、北上市を中心にフ



や取り組みを初めて知った」という声もあり、理解の裾野を広げる好機となりました。

（済生記者 掛川千恵子）



う高校生たちの「お菓子作りがしたい」という声を形にし、製菓技術を通じて職業選択の幅を広げ、地域との交流を深める目的でプロジェクトを立ち上げました。

当日は約15人の参加者が、製菓のプロ・栄養士の昆野美穂さんの指導の下、オートミールクッキーやマフィンなどの試作に初挑戦。小さなハブニングも笑顔で乗り越え、見た目も味も大満足！ 次回はシフォンケーキに挑戦予定です。

当院で開催する11月16日の「済生会フェア2025」で素材にもこだわったお菓子と笑顔をお届けすることが目標です。お楽しみに！

（済生記者 掛川千恵子）



機関誌「濟生」が 創刊100年!



創刊の「濟生」が発行100年を迎えました。「濟生」のあゆみを紹介します。
今年も着々と出場チームが決まりつつある全国済生会親善ソフトボール大会。
済生会人諸氏がグラウンドで汗を流していた記録を集めました。
(株)白橋 西林美美・本部広報課 河内淳史

済生会ソフトボール大会草創期

ソフトボールにける情熱 愛媛県済生会

前号では戦前の試合・本部対
神奈川を紹介しました。その後、
1960年代、当会でいちはや

済生会ソフトボール事始め

「ソフトボール大会が始まるまで」
新山昭一郎 (愛媛県済生会事務局長)

ソフトボール

栄冠は松山病院の頭に

愛媛県済生会親善球技大会



昭和45年11月、愛媛県済生会親善球技大会が、松山市の松山病院グラウンドで開催された。この大会は、愛媛県済生会が主催する初めてのソフトボール大会であり、松山病院の選手たちが優勝した。この大会は、愛媛県済生会親善球技大会の始まりとなった。

[左] 愛媛県済生会親善球技大会の様子を伝える1970(昭和45)年11月号。記事は、応援団の
声援も聞こえてくるかのような熱のこもったもの [右] 2000(平成12)年11月号のソフト
ボール大会大特集では、〈愛媛〉老健にぎたつ苑元事務局長・新山昭一郎氏が、1960年代、有志
が集まって徐々に活動が始まった状況を語っている

新山昭一郎氏の回顧録に当時の
様子が紹介されています。

1964年には既に松山病
院と今治病院で親善試合をして
いたそうです。しかし新山氏所
属の松山病院は連敗。打倒今治
を目指した新山氏は一日200
球の投球練習に明け暮れ、腱鞘
炎になったこともあったとか。
朝な夕なに病院横の空き地のプ
ロック塀にボールを投げ続けて
いたそうで、その姿はまるでス
ポ根アニメの主人公のようです。
その他、「昼休みが休憩どころ
か仕事より厳しく、猛ノックに
耐えられず反吐を吐く者も出る
始末」など記録され、昭和の「モ
ーレツ」さが伝わってきます。

第1回済生会関東ブロック 親善ソフトボール大会

当時、白球を追いかけていた
のは、愛媛県済生会や中・四国
支部だけでなく、他支部でも
徐々にソフトボール人口は増加
また、1960・70年代は、先
日惜しくも逝去された長嶋茂雄
氏が王貞治氏と共に「ON砲」
で野球界を席巻していた時代で
した。
そして遂に1978(昭和53)

年、第1回全国済生会ソフトボ
ール大会が開催。優勝戦は前評
判のとおりに九州対中・四国の
対決となり、熱戦の末13対8
で九州チームが優勝。日向病院
を主力とする九州代表チームは
総裁高松宮杯を獲得し、監督を
胴上げて喜び合いました。
全国大会以上に詳細が記録さ
れていたのが、第1回関東ブロ
ック大会です。本部をはじめ宇

都宮、前橋、東京中央、向島
船橋、川口、鴻巣、神奈川、若草
静岡の11チーム、300人を超
える人々が参加したそうです。
この大会では「男女混合チー
ム」「各試合初回には必ず院長
や師長、事務長などを登板させ
る」などの済生会特別ルールは
現在と同様です。
第1試合がデッドボールから
始まるなど波乱を感じさせる幕
開けながらも大会は和気
藹々と進行。コールドゲ
ーム、多数のホームラン
等白熱した試合が続いた
末、栄冠は静岡チームへ。
当時の犬丸理事長は
「就任以来熱望していた
大会が開催できた」と喜
びの言葉を残しています。

済生会人の連帯

1978(昭和53)年1月号掲載、第1回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会。懇親会
は会場に入りきれないほどの人で溢れ、隠し芸や合唱でにぎわった

現在もソフトボール大
会開催目的には「レクリ
エーション活動を通じて
済生会の連帯感を高め、
役・職員の親睦と心身の
健全育成を図る」と明記
されています。半世紀前
の大会開始時から「済生
会の連帯」は強く求めら
れていました。

プロや学生団体以外で、全国
規模のスポーツ大会が催される
組織は現代日本ではそう多くは
ありません。業務とは別の領域
で得られる連帯感、済生会人
としての意識を高める助けにな
っているかと思えます。

さて、今年、済生会ソフトボ
ール大会の覇者として歴史に名
を刻むのは一体どのチームにな
るのでしょうか。
決戦の11月、福井に爽やかな
秋晴れと好試合が引き寄せられ
ることを祈ります。



29ページにも渡るソフトボール大会大特集が掲載された2000(平成12)年11月号

世界的にも珍しいハイ・コロラトゥーラ（ソプラノの中でも

さらに高音域の超絶技巧）を操る田中彩子さん。

ウィーンをはじめロンドン、

パリ、ブエノスアイレスなど

世界で活躍の場を広げています。

この秋から始まる日本ツアーの前に、

音楽家として変容を遂げた

デビュー当時の思い出を語っていただきました。

「天使の声」と称されるソプラノ歌手

透き通る歌声が持つ魔法の響きを心の記憶に

Text：みやじまなおみ

Photos：安友康博

3歳からピアノを続け、18歳で声楽に転向した田中さん。「私は手が小さくて、プロになるのは難しいとあきらめたんです。ところが、試みに歌の先生にみていただくと、『この声（コロラトゥーラ）を出せるのは非常に珍しい！』と。だったら芽が出るかもしれないと、高校卒業後ウィーンに留学することにしました」

最初はドイツ語ができないことに加えて、ヨーロッパの歌手たちのダイナミックな動きや自信満々な感情表現をまねするだけの自分に劣等感を感じてしまふ。しかし4年後、オペラ『フィガロの結婚』でデビューが決

まり、周囲からの賞賛を受けたとき、その違和感が一変したという。「私の中にある控えめさや謙虚な日本人らしさは、マイナスではないのかもしれないと気づいたんです。歌舞伎や能といった西洋とは真逆の繊細な美も研究し、自分にできる最善を尽くすことが唯一無二のスタイルにつながる」と信じて進んでいた矢先に日本デビューも決まり、驚きました」



田中彩子 コロラトゥーラ・ソプラノ歌手。1984年生まれ、京都府出身。声楽を始めた18歳でウィーンに留学。わずか4年後の22歳のとき、スイス・ベルン州立歌劇場にて『フィガロの結婚』のソリスト・デビューを飾る。同劇場日本人初、かつ最年少での歌劇場デビューで大きな話題を集め、6カ月のロングラン公演を代役なしでやり遂げる。2014年に日本デビュー。ウィーンを拠点としながら、日本でも春と秋にツアーを行なうなど活動の幅を広げている。社会貢献活動も積極的に行なう。2019年Newsweek誌「世界が尊敬する日本人100」に選ばれる。

「好きな仕事を続けさせてもらっている身として、できる範囲で人の力になれたら。これから誰かの心に音の記憶を残していけたらうれしいです」

田中彩子ソプラノ・リサイタル2025 Fantasy of Coloratura ～コロラトゥーラ・ファンタジー公演日程

幼少期、木の上で「ファンタジーな物語」を読むのが好きだったという田中彩子さん。9月から日本各地で行なわれるリサイタルでは、自身が心を奪われた物語を思い出しながら、聴衆を「魔法のように心ときめく瞬間」へと導く、幻想的で色彩豊かな音楽の世界へ誘う。

公式ホームページ：

<https://www.ayakotanakaofficial.com>

田中彩子 ソプラノ・リサイタル2025 Fantasy of Coloratura	
9月19日(金) 18:30開演	(会場) 本音文化公園 文化ホール
9月27日(土) 14:00開演	(会場) 福岡シンフォニーホール
10月12日(日) 14:00開演	(会場) サラマカホール
10月26日(日) 15:00開演	(会場) 八ヶ岳高原音楽堂
11月21日(日) 14:00開演	(会場) 所沢市民文化センターミュージック・マリーホール(旧ホール)
11月28日(土) 14:00開演	(会場) 住友生命いずみホール
11月15日(土) 15:00開演	(会場) 豊田市民コンサートホール
12月7日(日) 14:00開演	(会場) 第一生命ホール

田中彩子
Ayako Tanaka



Vol. 184

口福につぽん

吉井省一

と4年で百周年を迎える下町の老舗です。とろろの原料は山芋。東洋医学では「山薬」と呼ばれ、漢方薬として珍重されてきた歴史があります。この山芋の中でも、特に粘りが強くてアクが少ない「大和芋」を主に使っているのがこだわりのひとつ。しかも土壌が良い千葉県の畑で約1年かけて丹念に育てられたものだけを選び抜いています。加えてこだわっているのが、とろろをのばして味を付ける秘伝の出汁。創業時から受け継が



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

よいい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

とろろ三昧セット 《浅草むぎとろ》 東京都台東区

百年の伝統を味わうこれぞとろろ三昧。今回の「とろろ三昧」をついているのは、隅田川の畔に店を構える昭和4年創業のとろろ懐石料理店「浅草むぎとろ」。あ



古くから滋養強壮食として人気のとろろ。麦飯に合わせた、茶そばでも楽しんでも、どちらも美味

れてきた鰯節と昆布の出汁をベースに、宗田節と鯖節を加えて、コクのある味に仕上げられています。「とろろ三昧」に入っているとろろは、この「味付とろろ」と、茶そばに合わせて大和芋と長芋をブレンドした「とろろ」の2種類。とろろはすり鉢ですりおろすのが家庭では大変な作業ですが、すりおろしたものを急速冷凍しているのもとても便利。とろろと相性がいいのは「むぎごはん」。重要なのは麦と米の比率。「浅草むぎとろ」では、国産押麦と国産米を使い、炊いた時に麦の食感を感じ取れるよ



江戸の“粋”を感じさせる瀟洒な店構え

うに、麦を多めに入れています。もうひとつ、とろろと相性がいいのが「茶そば」。とろろそばの茶そばバージョン、こちらがかなり期待できます。

むぎごはんはもちろん、茶そばとも相性ぴったり

それでは、まず「味付とろろ」と「むぎごはん」の組み合わせからいただきます。味付とろろは魚介の出汁がきいていて、とても上品な味。滑らかなので越しの良いとろろとプチプチした麦飯の食感も絶妙。鰻や穴子の蒲焼きなどをトッピングすれば豪華な一品になります。麦飯でその相性の良さを堪能してしまおうと、いつもの白米のご飯ではどこか物足りなく感じ



季節の彩りを鮮やかに映す「秋懐石」



浅草むぎとろの三つのこだわり。粘りが強くてアクが少ない「大和芋」を使用（左上）。米と麦を独特の割合で調合したむぎごはん（左中）。深いコクと味わい深い秘伝の出汁（左下）



主に千葉県の畑で丹念に育てられた「大和芋」は、精がつくことから「山うなぎ」の異名もある

てしまいます。麦飯ととろろは、やはり相思相愛かも知れません。次に、「とろろ」を「茶そば」にのせて。ふんわりしたとろろの食感、濃厚なのに後味もさっぱり。茶そばはコシがあつて、つるつとしたのと越しも本格派。粘り気の強い大和芋と水分が多い長芋をブレンドしてあるので、麺にもしっかりとからみ、ほのかに香る抹茶も食欲をそそります。肉料理や魚料理と違って、名脇役のイメージがあるところですが、とんでもない。こちらは堂々たる主役の存在感。麦飯と茶そばが脇役に回り、これまたいい仕事をしています。猛暑で乱れかけた体調を、昔ながらの滋養食「とろろ」で、整えてみてはいかがでしょうか。



とろろ三昧セット
[とろろ茶そば（乾麺、つゆ、とろろ 各4袋）、味付とろろ4パック、むぎごはん4パック]
5,616円（税込・送料別）
賞味期限……冷凍1年
お取り寄せ・お問い合わせは
浅草むぎとろオンラインショップ
〒111-0034 東京都台東区雷門2-2-4
フリーダイヤル：0120-00-1066
ホームページ：https://www.mugitoro.shop

ハロウィーン 子ネコちゃん

作品 いまいみさ



顔



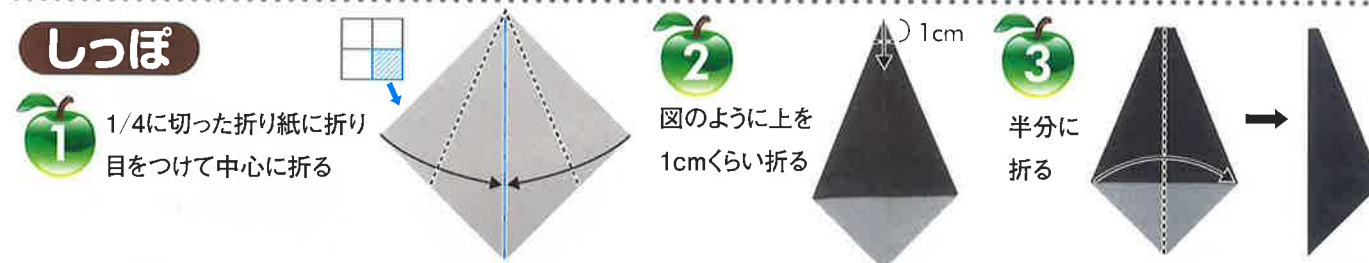
顔(アレンジ)



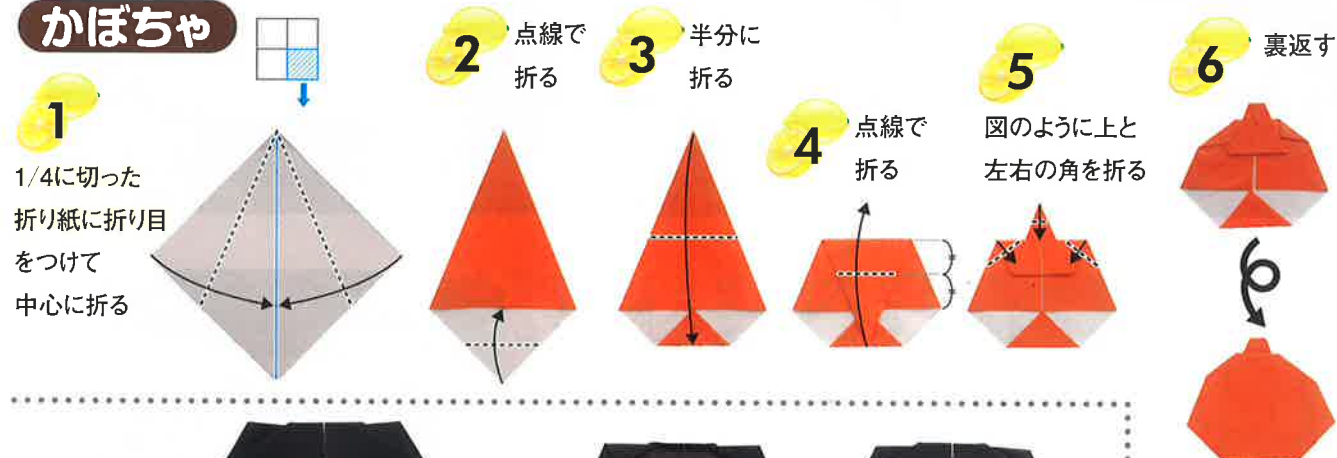
体



しっぽ



かぼちゃ



組み方

体に顔とかぼちゃを 貼り、うしろのポケット にしっぽを入れてのり で貼り合わせる



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日のしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



山口地域ケアセンターのラン＆ウォーク部が全国でも数少ない「鳴き砂」である清ヶ浜の清掃活動に参加しました。詳細はP72をご覧ください

topics

長年の活動が評価され 済生丸が特別賞を受賞

〈岡山〉瀬戸内海巡回診療事業推進事務所

瀬戸内海巡回診療船「済生丸」は7月24日、山縣勝見賞特別賞を受賞し、表彰式に森本尚俊所長が出席しました。この賞は一般財団法人山縣記念財団が創設し、海運を中心とする海事交通文化の研究や普及発展に貢献した人を表彰しています。済生丸の累計活動実績は、

瀬戸内海巡回診療船「済生丸」は7月24日、山縣勝見賞特別賞を受賞し、表彰式に森本尚俊所長が出席しました。この賞は一般財団法人山縣記念財団が創設し、海運を中心とする海事交通文化の研究や普及発展に貢献した人を表彰しています。済生丸の累計活動実績は、1962年12月から2024年3月まで、診療島嶼延べ数1万3249島、受診延べ人員62万7441人。地域への貢献や海事交通文化を体現し、長期にわたり社会に貢献したとして特別賞に選出されました。受賞に際して森本所長は「瀬戸内海巡回診療という地域に根差した取り組みに光を当てていただき、大変光栄に思います。これを励みに、島民が安心して暮らせるように医療を届け続けたいと思います」とコメントしました。

（事務員 原田佳子）

★国内唯一の診療船である済生丸、島の方々の頼れる存在ですね。これからも多くの人の健康を支えることでしょう。

（本部広報課 杉山菜央）

〈広島〉坂町地域包括支援センター

地域と小学校の共同授業で 学びとつながりづくり

町内初の試みとして、6月26日に地域と小学校の共同授業を行ないました。

今までは地域と小学校それぞれで認知症の理解を深める認知

楽しい時間になりました。

（社会福祉士 平本沙知）

〈大阪〉健都健康管理センター

横のつながりを目指して 「健診連絡会」発足

7月10日、〈大阪〉中津病院南棟講堂で第1回大阪府済生会健診連絡会を開催しました。

この連絡会は、済生会のスケールメリットを生かし、健診施設の横のつながり構築を推進する目的で発足。今回の主なテ

マは「協会けんぽ保健事業補助制度改定への対応」で、多職種22人が参加しました。

第1部では、人間ドック導入意向や導入に向けた検討、実施されている対策や取り組み、課題などについて情報共有・情報交換。第2部では、医師・保健師・事務の3グループに分かれてデ

イスカッションを行ないました。ますます激しくなる健診受診者の獲得競争を有利に運ぶために、この連絡会を通じて共通の課題解決や健診サービスの向上や収益アップにつなげていきたいと思っています。

（済生記者 武内三恵）

香川県済生会病院 献血功労で銀色有功章

8月4日、香川県庁で開催された伝達式において、当院は日本赤十字社から「銀色有功章」を受章しました。

銀色有功章は、15年以上にわたり継続的に献血協力を行ってきた団体に対して贈られる、楯形式の名誉ある表彰です。

当院では職員による定期的な献血参加に加え、患者さんや一般の方々への周

知など、協力体制の構築にも力を入れてきました。今回の受章は当院の長年にわたる継続的な献血推進活動が認められたものであり、大変光栄です。

今後も医療機関、医療従事者として積極的に献血活動に取り組みたいと考えています。

（済生記者 長尾美甫）



症サポーター養成講座を実施していただきました。今回、地域住民からの「孫もないし、小学校に入らないうちに……」との声をきっかけに、認知症について学ぶ地域公開授業を小屋浦小学校と共同で実施することに。講師は当センター職員が務めました。

当日は5・6年生と教職員合わせて23人、住民17人が参加。厚生労働省や多くの専門機関からも視察の方が訪れ、認知症の基本を学ぶ授業と、認知機能を維持・向上させる体操を行いました。

住民からは「小学校に入れてうれしかった」「子どもたちと一緒に学べてよかった」と喜ぶ声がたくさん届き、

〔福岡〕 飯塚嘉穂病院 同期との絆を深める 新人交流会

7月29日、看護部・臨床心理室・総務課の共催で、今年度入職した新人職員10人を対象とした「新人交流会」を開催しました。はじめに研修会として、3グループに分かれてグループワークを実施。参加者は与えられたテーマの中で自分の意見に最も近いグループに参加し、活発な



意見交換が行なわれました。

続くフリートークでは「私のプチストレス解消法」について、参加者同士が自由に語り合う時間を設けました。普段は各部署で業務に励む新人職員にとって、同期と交流する貴重な機会となりました。

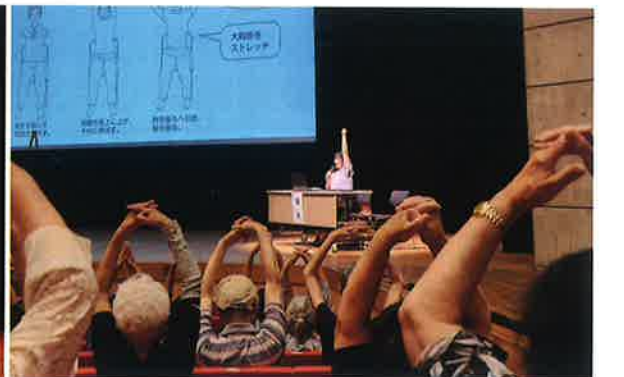
参加者からは「4月の入職時からなかなか会うことがなく、皆ががんばっていることが分かって前向きになった」「話したことがない人とも話すことができてよかった」などの声がありました。

（経営企画室長 春口勇介）

龍ヶ崎済生会病院 長寿の秘訣は食べて動く

龍ヶ崎市長寿会連合会主催の「長寿大学」7月講座が7月17日、大昭ホール龍ヶ崎で開催され、市民250人が参加しました。

長寿大学は、参加者が学びと交流を深め、新たな生きがいづくりを広げることを目的としています。今回のテーマは「食」で、当院の稲永栄養管理栄養士が健康的な食事の取り方について講演しました。



1食で摂取するタンパク質の量の目安や、コンビニエンスストアの商品での組み合わせなど、バランス良く食べるためのポイントを話しました。また、講演

中にはストレッチや参加者へ質問を行ない、活動的な学びの場となりました。

（済生記者 堀越琴美）

〔神奈川〕 湘南平塚病院 親子で病院探検ツアー

8月9日、当院で「親子で病院探検ツアー2025」を開催しました。本イベントは小学生とその家族を対象とし、病院の役割や医療への理解を深めることが目的。当日は16組の子どもと保護者が参加しました。院内各部門を巡りながら、各検査の疑似体験や手術室のガウン試着など、医療現場に直接触れるさまざまな体験を行ないました。

今回は参加者に配布している「探検ノート」をリニューアル。情報を整理して絵本調にし、子どもたちが病院の役割や意味をより分かりやすく学べるよう工夫しました。

参加者からは「車椅子体験や病院の服を着せてもらったこと

〔鳥取〕 境港総合病院 支援を必要とする人へ 備蓄食を寄付

6月27日、境港市社会福祉協議会が行なうフードエイド事業に協力し、備蓄食品を寄付しました。

（済生記者 川崎菜美）



親子で病院探検ツアー2025
イラストは生成AIを活用して
柔らかい色調に

当日は、医師である岡野淳一地域医療総合支援センター長とソーシャルワーカーである船本幸秀医療連携課長が、境港

市社会福祉協議会を訪問。当院で備蓄しているサンマの缶詰90缶を、岡野センター長から社会福祉協議会の佐藤邦雄会長にお渡ししました。

佐藤会長からは「あたたかい寄付をありがとうございます。支援を要する人たちに提供させていただきます」との感謝の言葉をいただきました。

この活動を通じて、支援を必要とする方々が安心して暮らせる一助となれば幸いです。

（済生記者 亀尾美子）



〈福岡〉二日市病院
四季の花を支える
日々の取り組み

当院では、正面玄関前の花壇に季節の花々を植え、来院される皆さんを優しく迎え入れています。

この花壇の管理は、総務課の加来憲明さんが中心になり、3人の職員で毎日朝夕2回の水や



りと季節ごとの植え替えを欠かさず行なってくれています。写真撮影を行なった7月31日も加来さんが水やりを行なうと、虹が出現。病院の顔ともいえるこの場所を丁寧に整えてくれる姿はまさに緑の下力持ちです！色とりどりの花々は、ただの装飾ではなく、「大きな癒やしになれば」との思いが込められています。現在はマリーゴールドが見ごろとなっていますが、今後も四季の移ろいに合わせて花壇を彩ってまいります。

〈企画情報課・情報システム室
山田怜奈

〈大阪〉茨木病院
新実医師がせきをテーマに
NHK出演

当院の呼吸器内科部長、新実彰男医師がNHK・Eテレの番組「きょうの健康」に出演します。新実医師の深い専門知識を生かした貴重な情報を、4日間にわたり放送します。

初回放送日は9月8～11日、午後8時30分から15分間。「長引くせき」をテーマに、せきの原因や慢性的なせき、知らない間に進行するCOPDなど

について解説します。また、最終日は「みんなの『知りたい！』」と題して、「一般の人がせきに関して気になっていることや疑問などについて答えていきます。

再放送や見逃し配信もありますので、ぜひご視聴ください。

〈済生記者 中村友香

〈長野〉佐久市特養シルバー
ランドきしの
世代間交流を楽しむ夏休み

8月5～8日に毎年恒例の「きしの夏休み」を開催し、延べ32人が参加しました。夏休みを過ごす子どもたちの居場所づくりの一環として、期間中は中高生向けに学習室の開放、8



に招き、折り紙でくす玉作り。それぞれ好きな色の折り紙を選び、12個のパーツを仕上げていきました。昼食後は多肉植物で鉢植えを作り、最後は皆でスイカ割り！

ほとんどの子が暑い中でも元気いっぱい「来年も来るよ」と言ってくれました。

〈済生記者 輿水由里子

月5・6日は小学生を対象とした催しを行ないました。6日は毎月開催している地域の高齢者対象の健康教室「およりなんしきのし」とのコラボイベント。小学生13人、「およりなんしきのし」から10人が参加し、世代間交流をしました。

午前中は武藤尚子さんを講師



静岡に済生丸が現れる！？
静岡済生会総合病院

6月7日に開催された済生会フェアでは、小児科スタッフの企画として、職員が手作りした「済生丸」の模型を展示し、子どもたちにも自由に遊んでもらいました。

この模型は、当院HPS（ホスピタル・ブレイ・スペシャリスト）の望月ます美さんが、今年2月に参加した済生丸見学ツアーでその活動に感銘を受け、「多くの人に



「働き手」の視点で医療業界を深く知る場に夏真っ盛りの8月2日、近隣の中学生を対象にした外科医体験イベント「ブラックジャックセミナー」を開催しました。

コロナ禍もあり4年ぶりに開催した昨年度は想定を大幅に超える人気でしたが、今年度もその人気は健在。定員の30人を大きく上回る応募があり、職業体験イベントの需要の高さを実感しました。



イベント終了後のアンケートでは、参加生徒全員が期待通り「期待以上だった」と回答。「医療業界を目指していなかったが、この体験で興味を持てました」「医師の仕事の大変さを実感し、感謝の気持ちが高まった」といった声が寄せられました。

〈済生記者 南川茉悠

topics



隔病理解断手術の見学、特定行為実習、放射線科、薬剤部での体験などさまざまな体験実習を行いました。

多職種座談会や夜のバーベキ

将来の希望の星と 働ける日を楽しみに

ふれあい看護体験を7月29・30日に開催。近隣の学校へ募集を行ない、医療に興味や関心が

山口総合病院

(済生記者 西田千鶴)

ユーでは、若手医師や看護師、薬剤師に対し実際の現場に関する質問が活発に飛び交っていました。

参加学生からは「現場のリアルな雰囲気を感じた」「机上でしか習っていなかった地域医療の実際が分かった」「この地域で働きたいと思った」といった声が聞かれました。



ある8人の高校生の応募がありました。

日頃看護師が行なっている業務の体験、他部署への院内ツアー、現場看護師のオリジナル短編動画の視聴など、医療や看護を身近に感じてもらえるようプログラムを工夫しました。

今回は初の試みとしてBLS（一次救命処置）や気管挿管、血管確保などの手技をデモ機を使用し体験してもらったことで、医療への関心がさらに高くなったようです。近年の医療ドラマの影響は大きく、憧れの声も多く聞かれました。

半日と短い時間でしたが、看護師への質問が飛び交うなど、参加学生にとって有意義な時間だったようです。看護師になりたいと語ってくれた学生たちと将来働ける日が楽しみです。

(ふれあい看護担当主任 政崎由美子)



〈愛媛〉松山老健にきたつ苑 破竹の3試合完封で優勝

6月29日に山口県下関市で、第46回済生会中・四国ブロック親善ソフトボール大会が開催されました。

当苑は併設する松山病院のチームに所属しており、今年の大いには当苑から3人が参加。日頃の練習の成果を発揮すべく初夏の炎天下、試合に挑んできました。

全国大会につながるAリーグには5チーム（松山、今治、西条、広島、岡山）が出場。トーナメント戦のため、負ければそこで全国大会への切符が途絶えてしまう中、松山病院チームは怒とりの快進撃を繰り広げ、



3試合完封勝利で見事優勝することができました。

強豪揃いの全国大会でも持ち前のチームワークを発揮し、全国制覇ができるよう頑張りたいです。

(リハビリ課 理学療法士 林田直也)

〈愛媛〉小田診療所

無料低額診療事業を 民生委員と共に呼びかけ

7月18日、内子町林業センターで開催された小田地区民生委員協議会定例会で、当診療所の黒田良文係長が、無料低額診療事業についての啓蒙活動を行いました。

当日は、各小学校長や民生委員、行政担当者など20人が参加。済生会の成り立ちから無料低額診療事業、済生丸について詳しく説明しました。小田地域の高齢者や独居老人の生活を見守る民生委員の皆さんからは熱心な質問が寄せられ、済生会の事業に対する関心の高さがうかがえました。

一人でも多くの人にこの制度を知っていただき、民生委員の皆さんと共に、必要な人が適切



な医療を受けられる社会を目指していきなしたいと思います。

(済生記者 福岡博実)

〈山口〉豊浦病院 地域医療の現場を 大学生10人が体験

8月7日、県主催の「やまぐち地域医療セミナー2025」の一環で大学生10人を当院で受け入れました。

同セミナーは、これからの県の医療を担う医学生・看護学生・薬学部生が「地域を通じて医療を、また医療を通じて地域を感じる・考えること」を目的に開催されています。

当日はICTを活用した遠

topics

〈愛媛〉小田特養緑風荘 夏の風物詩といえは……

8月8日、今年も夏の風物詩「スイカ割り」を楽しみました。大きなスイカを囲んで集まった利用者さん34人は、まるで昔懐かしい夏のひとときを思い出すかのように目を輝かせていま



す。

スイカが登場すると「このスイカは栄養がようけ入ってるなあ」「大きいのは甘くて美味いんよ」と、あちこちから弾んだ声飛び交いました。

いざ、スイカ割り開始！新聞紙と割り箸、ビニールテープで職員が手作りのスイカ割り棒で挑みますが、「こりゃ割れん」「固いのお」と悪戦苦闘。そこで登場したのが、竹を使った特製スイカ割り棒。力いっぱい振り下ろすと、ついにスイカにヒビが入りました。

切り分けた真っ赤なスイカを、利用者の皆さんでお腹いっぱい味わいながら、夏のひとときを満喫しました。

（済生記者 富岡優衣）



〈愛媛〉松山病院 献血運動に感謝状

当院の日頃の献血運動に対する功績が認められ、中村時広愛媛県知事から感謝状が授与されました。7月30日に愛媛県庁で行なわれた「令和7年度献血運動推進協力団体等に対する厚生労働大臣表彰状及び感謝状伝達式並びに愛媛県知事感謝状贈呈式」には渡辺浩毅院長と後藤道



洋事務長が出席しました。

当院には年2回、赤十字献血センターから献血バスが来ます。事前に院内ウェブやポスター掲示で日程を職員等に周知し、協力をお願いしています。

献血は病気やけがで輸血を必要とする患者さんを救うために、また医療を支えるためにもとても大切な活動です。これからもできる範囲で献血に協力できるよう職員に呼び掛けていきます。

（総務課 木本薫子）

鹿児島病院

小学生の遠泳大会に 救護班として同行

8月2日、当院近くの松原小学校の水泳同好会が主催する錦江湾（鹿児島湾）横断遠泳に、久保園高明院長と山田愛生看護師が救護班として同行しました。当初は7月31日の実施予定でしたが、カムチャツカ半島地震による津波警報・注意報を受け2日間延期。緊張感の中での支援となりました。

桜島小池海岸から対岸の磯海水浴場までの4・2キロメートルのコースに、4～6年生37人と同好会のOB・OG21人が参加。地元漁協の船など11隻に父兄らが分乗し、子どもたちを見守りました。

久保園院長と山田看護師は遠泳開始直前に参加者の健康診断を実施した後、救護船で随伴し、

不慮の事態に備えました。参加者全員が完泳し、磯で出

迎えた父兄からは感動の涙も。無事救護班としての任務を果たしました。

（医事課長心得 宮脇 恵）

新潟病院

夏休み 子ども病院見学会

地域や職員の子どものために医療の現場を知ってもらうことを目的に、小学4～6年生を対象にした「子ども病院見学会」を7月31日に開催しました。

当日は午前・午後合わせて26人が参加。「病院ってどんなところ？」のお話に始まり、施設見学・医療体験ラリーでは薬剤部での調剤、栄養科での栄養指導、検査科での肺機能検査、病院救急車への乗車、妊婦体験など、さまざまな見学・体験をしてもらいました。

子どもたちはどの内容にも興味

津々で、特に妊婦体験ではあまりの重さにふらつく子どもも多く、印象に残ったようです。

（A6病棟師長 齊藤 和）



身近な自然を美しく保つ
清掃活動で地域と交流

奈良病院

奈良県と奈良市の主催による「夏季佐保川・菰川・菩提川清掃」が7月21日に実施されました。2008年7月に奈良県で「山の日・川の日」が制定されて以降、毎年7月第3月曜日に奈良県各地で河川等の清掃活動が行なわれています。

当日は総勢80人程度、当院からは15人が参加し、大安寺西小学校からゴルフ練習場付近まで



約1・5キロの範囲を1時間にわたり清掃しました。
参加した当院職員からは「朝からいい汗を流せて気持ち良かったし、病院職員の職種を超えた団結力も感じられた」との感想が寄せられました。
済生会が果たすべき役割を意識し、引き続き地域活動に積極的に参加していきたいと考えています。

(済生記者 西川崇宣)

和歌山病院

登録医総会に60人
ともに医療DXを学ぶ

7月26日、和歌山市内のホテルで第17回済生会和歌山病院登録医総会を開催し、院外から24人、院内から36人の計60人が参加しました。

特別講演では和歌山県立医科大学附属病院・医療情報部の西川彰則教授に「医療のデジタル化とこれからの診療現場」スマートフォンのつながる患者情報」をテーマに、医療DXや救急受診患者さんの迅速な情報提供などを講演していただきました。

一般演題では、当院呼吸器外



科医長・房本安矢医師が「胸腔鏡下手術の概要と気胸に対する手術例」、整形外科医長・藤木貴顕医師が「その肩の痛みは五十肩!?」当院の肩痛の治療戦略」を発表。実際の手術動画などを用いての発表で、会場からもたくさんの質問がありました。

総会終了後には情報交換会も行ない、親睦を深めました。

(済生記者 松元靖寿)

岡山済生会外来センター病院

未来のナース誕生!
小学生と楽しむ看護体験

8月2日、岡山コンベンションセンターで「フクシラボおか

己注射体験、聴診器体験を実施。命を守る仕事」に触れてもらいました。

子どもたちは真剣に話を聞き、メモや質問をする姿も。保護者からは「普段できない体験ができてうれしい」との声が寄せられました。「とても楽しかつ



やま2025」が開催されました。小学生が介護福祉士・管理栄養士・保育士・看護師の4職種を順番に体験するイベントで、看護師ブースを当院が担当。筆者2人が運営にあたりました。
当日は小学生や保護者など90人が来場し、注射パッドを使用したインスリンやエビペンの自



104歳の誕生日会!

〈滋賀〉特養淡海荘

7月15日で104歳となった村瀬なつさんの誕生日会を、ご家族と職員10人で行ないました。

なつさんが「誕生日に上等なアイスクリームが食べたい!」とご家族にリクエストをされていて、当日はおいしそうなアイスを食べられてとてもうれしそうでした。松並睦美施設長や嘱託医の中村隆志医師も誕生日会に参加し、大勢でお祝いすることができました。

長男ご夫婦からは「淡海荘で元気に過ごしてくれてありがたいです」と職員へうれしいお言葉をいただきました。「ケーキより鯛が食べたい!」と来年の誕生日も心待ちにしているなつさんの姿に、職員一同元気ももらいました。

(生活相談員 遠藤百虹)

障がいのある無にかかわらず
誰もが働ける世の中に

〈東京〉中央病院

6月26日、大分県別府市・社会福祉法人太陽の家とオムロン太陽株式会社を見学しに行きました。太陽の家の日本ソーシヤルインクルージョンの先駆けである聞き、興味を持ったことがきっかけです。

同施設は1965年に日本パラスポーツの生みの親、中村裕医師が創設。また、本年6月まで炭谷茂済生会理事長が評議員を務めていました。当日は大変温かく迎えていただき、パラスポーツや障がい者雇用の歴史を体感できる施設「太陽ミュージアム」を案内していただきま



した。

その後、オムロン太陽株式会社へ。同社では障がいのある方とない方が一緒に働いています。D&I推進グループの松枝幸大さんが工場内作業の様子を詳しく丁寧に説明してくださいました。

山と海と温泉に囲まれた、大変豊かな環境でした。

(人事課ジョブコーチ

磯崎恵午)



オムロン太陽株式会社の松枝幸大さん

身近な自然を美しく保つ
清掃活動で地域と交流

奈良病院

奈良県と奈良市の主催による「夏季佐保川・菰川・菩提川清掃」が7月21日に実施されました。2008年7月に奈良県で「山の日・川の日」が制定されて以降、毎年7月第3月曜日に奈良県各地で河川等の清掃活動が行なわれています。

当日は総勢80人程度、当院からは15人が参加し、大安寺西小学校からゴルフ練習場付近まで



約1・5キロの範囲を1時間にわたり清掃しました。
参加した当院職員からは「朝からいい汗を流せて気持ち良かったし、病院職員の職種を超えた団結力も感じられた」との感想が寄せられました。
済生会が果たすべき役割を意識し、引き続き地域活動に積極的に参加していきたいと考えています。

(済生記者 西川崇宣)

和歌山病院

登録医総会に60人
ともに医療DXを学ぶ

7月26日、和歌山市内のホテルで第17回済生会和歌山病院登録医総会を開催し、院外から24人、院内から36人の計60人が参加しました。

特別講演では和歌山県立医科大学附属病院・医療情報部の西川彰則教授に「医療のデジタル化とこれからの診療現場」スマートフォンのつながる患者情報」をテーマに、医療DXや救急受診患者さんの迅速な情報提供などを講演していただきました。

一般演題では、当院呼吸器外



科医長・房本安矢医師が「胸腔鏡下手術の概要と気胸に対する手術例」、整形外科医長・藤木貴顕医師が「その肩の痛みは五十肩!?」当院の肩痛の治療戦略」を発表。実際の手術動画などを用いての発表で、会場からもたくさんの方の質問がありました。

総会終了後には情報交換会も行ない、親睦を深めました。

(済生記者 松元靖寿)

岡山済生会外来センター病院

未来のナース誕生!
小学生と楽しむ看護体験

8月2日、岡山コンベンションセンターで「フクシラボおか

己注射体験、聴診器体験を実施。命を守る仕事」に触れてもらいました。

子どもたちは真剣に話を聞き、メモや質問をする姿も。保護者からは「普段できない体験ができてうれしい」との声が寄せられました。「とても楽しかつ



やま2025」が開催されました。小学生が介護福祉士・管理栄養士・保育士・看護師の4職種を順番に体験するイベントで、看護師ブースを当院が担当。筆者2人が運営にあたりました。

当日は小学生や保護者など90人が来場し、注射パッドを使用したインスリンやエビペンの自



104歳の誕生日会!

〈滋賀〉特養淡海荘

7月15日で104歳となった村瀬なつさんの誕生日会を、ご家族と職員10人で行ないました。

なつさんが「誕生日に上等なアイスクリームが食べたい!」とご家族にリクエストをしていて、当日はおいしそうなお菓子を食べられてとてもうれしそうでした。松並睦美施設長や嘱託医の中村隆志医師も誕生日会に参加し、大勢でお祝いすることができました。

長男ご夫婦からは「淡海荘で元気に過ごしてくれてありがたいです」と職員へうれしいお言葉をいただきました。「ケーキより鯛が食べたい!」と来年の誕生日も心待ちにしているなつさんの姿に、職員一同元気ももらいました。

(生活相談員 遠藤百虹)

障がいのある無にかかわらず
誰もが働ける世の中に

〈東京〉中央病院

6月26日、大分県別府市・社会福祉法人太陽の家とオムロン太陽株式会社を見学しに行きました。太陽の家の日本ソーシヤルインクルージョンの先駆けである聞き、興味を持ったことがきっかけです。

同施設は1965年に日本パラスポーツの生みの親、中村裕医師が創設。また、本年6月まで炭谷茂済生会理事長が評議員を務めていました。当日は大変温かく迎えていただき、パラスポーツや障がい者雇用の歴史を体感できる施設「太陽ミュージアム」を案内していただきま



した。

その後、オムロン太陽株式会社へ。同社では障がいのある方とない方が一緒に働いています。D&I推進グループの松枝幸大さんが工場内作業の様子を詳しく丁寧に説明してくださいました。

山と海と温泉に囲まれた、大変豊かな環境でした。

(人事課ジョブコーチ

磯崎恵午)



topics

認知症への理解を深め サポートスキルを学ぶ

当荘ソーシャルインクルージ



筆者(左)と標語を募集した
医療安全対策室長の池部麻美看護師

(副院長 田村高志)

結果とこのことで押し切られてしまいました。
応募した標語は「『確認』を受ける笑顔がミス防ぐ」です。忙しいときや夜間など、つい不機嫌になりがちな自分を振り返り、自戒を込めて作りました。笑顔で機嫌良く対応することで、「確認」しやすい風土が根付けばミスが防げるのではないかとそんな思いを込めました。こうなったら、2年連続の最優秀賞を目指すぞ!!(笑)



手術支援ロボット 肝胆膵領域に展開

熊本病院

6月3日

当院で手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を使用した肝切除術(ロボット支援下肝切除術)を初めて実施しました。この手術は、肝胆膵領域の低侵襲手術における当院の新たな一歩を示すものです。

当院はロボット支援下手術を2013年に開始。2019年にはロボット・低侵襲手術センターを設立し、これまでにロボット支援下手術の実績は3900件以上になります。

肝胆膵領域の手術については、肝臓の解剖学的な位置が複雑であるため、低侵襲手術の導入が遅れていました。しかし、2022年にロボット支援下肝切除術が保険収載となったことを受け、より多くの患者さんがこの先進的な手術を受けられるようになりました。

今後は症例を重ね、高難度肝切除や膵切除へ適応を広げていく予定です。

(広報室 金子美雪)



ヨシ計画推進委員会が認知症に関する講座を企画し、7月8日と29日、おれんじサポートチームえがおが中心となり開催しました。

8日には「認知症サポーター養成講座」を行ない、12人の認知症サポーターが誕生。認知症サポーターとは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、できる範囲で手助けする人のことです。

29日には前述の12人に地域の認知症サポーターを加えた25人の参加者に向け、「ステップアップ講座」を開催。サポートの実践の場で必要となるスキルを学んでいただきました。

受講後のアンケートには「自

〈滋賀〉守山市民病院 公開講座で学ぶ 子どもの食物アレルギー

7月26日、当院のくすの木ホールで公開講座「小児の食物アレルギー」を開催し、地域の方19人が参加しました。

当日は野々村和男院長が講師を務め、食物アレルギーの症状や診断、近年の傾向について詳しく解説。また、真谷優歌管理栄養士が、除去が必要な食品の栄養素を補うための代替食品の選び方や、レシピ例を紹介しました。

参加者からは「親の食物アレルギーは子どもに遺伝するのか」といった質問が寄せられ、保護者の皆さんの高い関心がう



〈山口〉豊浦病院 看護補助者に対する 期待の大きさを実感

分ごとという意識を持てれば、認知症の方に対する態度や言葉かけも変わっていくと思う」などの意見があり、実りある講座となりました。

(おれんじサポートチームえがお
副主任介護員 池田比呂美)

7月26日、固定チームナース

シンク研究集会第16回中国四国地方会が岡山コンベンションセンターで開催され、当院から林美代子看護師長と筆者の2人が参加しました。

一般演題発表は当院の他に10演題あり、それぞれがより質の高い看護ケアを提供するために取り組んだことを発表。当院は、前年度から重点的に取り組んでいるタスク・シフト／シェアについて発表を行ないました。



林美代子看護師長(右から2番目)と筆者(中央)

かがえました。
講座後には「とても勉強になった」「分かりやすかった」といった感想をいただきました。

(済生記者 中嶋元香)

山口総合病院 自戒を込めた作品が 最優秀賞に

職員の医療安全の意識を高めるために、以前行なっていた医療安全標語の募集を昨年復活させました。

今年は応募総数150点の中から、なんと医療安全対策委員会の委員長である筆者の作品が最優秀賞に選出。7月22日に



表彰を受けました。

委員会内の投票は応募者名を伏せて実施。後日その結果が会議で報告された際は「さすがにそれはダメでしょう!」と言ったのですが、厳正な態度なしの

「近年注目されているタスク・シフト／シェアに看護補助者が積極的に関わっていることには大きな意義がある」と評価していただきました。

他の参加者からも「とてもよかった」「看護補助者の役割はとても重要だと思った」とお声がけいただき、看護補助者に対する関心や期待の大きさを実感することができました。

(5階西病棟 看護補助者

主任 新井 智)

支部内の病院間で 情報共有・人事交流

7月19日、愛媛県済生会病院業務 Up to date 研修会がホテルアジュール汐の丸で実施され、53人が参加しました。



この研修会は、愛媛県済生会の病院間での人材育成や業務改善に関するノウハウなどのさまざまな情報共有・人事交流を目的としたもので、年に一度行なっています。

今回は、臨床工学部門・放射線部門・事務部門の三部門が発表。さらに部門ごとに2グループ計6グループに分かれ、それぞれの発表テーマに沿ったグループワークを行ないました。

意見交換会では「他病院の技師同士で交流でき、大変貴重な時間となった」「大変勉強になった。部門の参加人数を増やして、若手技師にも参加してほしい」「よかった」などの意見もあり、親睦を深める時間となりました。

（済生記者 村上景助）

〈熊本〉児童発達支援センター 済生会なでしこ園

発達支援の5領域を学ぶ

6月23日、熊本市こども部会区部会合同研修会（機能強化事業取扱）を開催しました。210人もの参加があり、意識の高さを感じました。

当日はこども家庭庁支援局障害児支援課・課長補佐／統括専門官の鈴木久也さん、NPO法人銀河・理事長の菊池健弥さんが「ガイドラインと5領域」をテーマに講義。児童発達支援および放課後等デイサービスにおける子どもを総合的に捉え支える5領域（健康・生活・運動・感覚・認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性）の視点を深めました。

子どもの発達する力や生きる力の育成、丁寧な「発達支援」を振り返り、地域を面で支えるこれからの一歩となりました。

（機能強化員 山田美輝）

〈栃木〉宇都宮病院

人生会議（ACP）を 地域から広げる一歩に

7月5日、豊郷地区市民セン



ター・ホールで宇都宮市豊郷地区社会福祉協議会主催の合同研修会が開催されました。これは済生会地域包括ケア連携士としての活動の一環で、自治会長、民生委員・児童委員など地域の要となる102人が参加し、「人生会議（ACP）」をテーマに学び合いました。

前半は、地域包括支援センター1豊郷の松澤浩子さん（看護師・介護支援専門員）が、令和6年度豊郷地区「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」の結果を報告。続いて、当院の澤村謙太MSWがACPの意義や、エンディングノートなど記録と共有の重要性について講演しました。

後半はグループワークを実施。



「もしもの時に望む医療やケア」「地域で人生会議を広げるためにできること」をテーマに、活発な意見交換が行なわれました。

（地域連携課 川田綾香）

滋賀県病院

外来受付を彩る季節の折り紙 広がる障がい者の活躍

当院の障がい者専用業務室（SDEAP）では、外来受付を飾る季節の折り紙作品を制作しています。

この取り組みは、本誌の「てづくりおもちゃ」のコーナーを参考に始まり、通院中の患者さんにも折り紙を通して季節の訪れを感じてもらい、気分転換につながればという思いから毎月交換・設置を行なっています。

6月2日の制作当日は5人が参加。それぞれが得意なことを生かしながら、協力して作品を完成させています。

SDEAPでは知的障害や精神障害などさまざまな特性を持つジョブサポーターが、コーチ2人の支援のもと、病棟ベッドメイク、シュレッダー作業、

陰洗ボトルの洗浄、車椅子の清掃など、院内の多様な業務に従事しています。折り紙の制作もその一環で、社会参加や達成感を得られる機会にもなっています。

（済生記者 鵜飼健成）

〈奈良〉老健シルバーケア まほろば

利用者さんと完成させた 向日葵・万博コラボ作品

当施設では毎月テーマを決めて作品作りをしています。8月の作品は「向日葵×万博」のコラボ。利用者さん20人と職員で、ひまわり畑でミヤクミヤクが楽しんでる様子を折り紙などで表現しました。



職員が作品のテーマについて話すと「こんなはどう？」と皆さん次々にアイデアを出してくれま。また、利用者さん同士で作り方を教え合い、つながりの輪が広がっています。職員が作った折り紙の見本集は、一工程ずつ説明していて、利用者さんが持ち帰って家で作ることもできます。

（済生記者 林 嘉夏）



topics

〔福岡〕大牟田病院 絆を深められた一日

6月8日、佐賀県唐津市で第49回済生会九州ブロック親善ソフトボール大会が開催され、当院は総勢27人で参加しました。試合序盤には、豪快なホームランが飛び出し、会場の期待が一気に高まりました。しかしその後は試合を思うように運べず、最終的に2敗1引き分けという悔しい結果に。Aパート残留は残念ながらありませんでした。



も、試合中はベンチから絶え間なく声援が飛び交い、新人選手が初ヒットを放った瞬間には、全員一丸となって

喜びを分かち合いました。普段はあまり話す機会がなかったメンバー同士も、笑い合い、励まし合う姿が見られました。気づけば、当院の中にたくさんのおさなっつながりが生まれていました。勝敗を差し置いて、仲間との絆を深められた一日。これこそが、この大会の最大の魅力だったと実感しています。

（放射線科 技師長 中村晋士夫）

新潟県中央基幹病院

専門学校と連携して 病院見学ツアー

三条看護・医療・歯科衛生専門学校とのオープンキャンパスの一環で、7月19日と8月10日に当院で病院見学ツアーを開催しました。

看護師志望や進路に迷っている高校生とその保護者を対象とし、1回目は計8人、2回目は計20人が参加。病院全体を見学する中で、看護師が働く各病棟の特徴を知ること、重点を置き、主にスタッフしか立ち入ることができない場所を案内しました。学生からは「専門学校のすぐ



近くの実習先の病院があることがとても魅力的」「専門学校の卒業生が県中央基幹病院に勤務していることが知れてよかった」などの声を聞くことができました。

専門学校からは「この機会をそれぞれの進路選択に生かしていただき、県内で活躍する医療人が1人でも増えたらうれしい」とのコメントがありました。

（総務広報課 富澤 環）

〔愛媛〕松山在宅生活復帰支援 センターハートフル済生会 移動スーパーがやって来た

6月30日から、毎週月曜日午後1時に当施設の玄関先へ、移動スーパー「とくし丸」が来てくれます。入居者さんにとって



は買い物をする久しぶりの機会です、初日は大にぎわいでした。お肉や生魚、握り寿司など品揃えも豊富で、第2回の販売となった7月7日も12人の入居者さんで活気にあふれました。特

に「ところてん」と「たこ焼き」が大人気で、「何十年ぶりに食べたんだよ」と嬉しそうに話す入居者さんも。また、いさき（三枚おろし）を購入し「その夜は刺身と煮魚にしたよ」と料理の写真を見せてくださる方もいました。

回を重ねるごとに、それぞれのお買い物ペースができてきて、ゆつくりと品物選びを楽しんだり、今回の注文をしたりしています。今後、入居者さんの生活の一コマとして、日常に根付いていくことを願っています。

（センター長 細川美佐）

ラジオでプレコンセプションケアを解説

（東京）中央病院

が、パーソナリティーの2人ととても和やかな雰囲気話していました。放送内容は番組のYouTube公式チャンネルにも公開されていますので、ぜひ聴いてみてください。

（事務次長代理 町田洋治）

プレコンセプションケアの 企業向けセミナーを開催

（東京）中央病院

7月23日、東京都港区にある日本電気株式会社（NEC）本社で「一緒に働く人の体調変化」に気づけていますか？家庭でも職場でも役立つ、女性の健康の話」と題して、企業向けプレコンセプションケアセミナーを開催しました。



ラジオ出演は初めてという柏原医師でした



YouTube
公式チャンネル



講演後には会場から多くの質問があり、参加した皆さんに関心を持っていたのだと実感しています。

（事務次長代理 町田洋治）

topics



備蓄しています。これは患者さんと職員の3日分に相当する分量です。今回の寄贈は

回寄贈は

備蓄のアル

ファ米の入

れ替え検討

中に、生活

困窮世帯へ

の支援物資

が届いてい

ないという

新聞記事を

目にしたこ

とがきつ

けでした。

贈呈式に

は、池田

智明病院

長、松本由

紀管理栄養

課長、堤洋

子MSWと筆者が出席。池田

病院長は、「支援物資を求める

一人でも多くの方にお役立

ただければ、引き続き支援、協

力したいと思っています」と挨拶

し、担当の方からは「米の価

格が高止まりする中で非常にあ

りがたい」と喜びの声をいた

しました。

(用度課長/施設課長 山川 剛)



8月7日、ホームケア支援課主催で「第10回在宅をともに考える会」を開催しました。多職種100人近くが集まり、研修医の積極的な参加も目立ちました。

今回は2部制で、前半は循環器内科の川上利香科長が登壇し「心不全ってどんな病気？」をテーマに講義を行いました。後半は「地域で支える心不全患者の暮らし」についてカンファレンスを実施。各課題について、時間が足りなくなるほど活発な議論が交わされました。

在宅医療・介護・福祉の連携と体制構築を目指して

(大阪) 吹田病院

2年目のほまなす農園野菜や果実を出荷開始

(北海道) 小樽老健ほまなす

収穫2年目を迎えたほまなす農園では、農園長の本間勝利事務長・看護介護長が丹精込めて育てたトマト、ピーマン、ブルーベリーなどが順調に生育しています。

7月に入ってから少しずつ収穫し、当施設の窓口で販売していましたが、22日には就労継続支援事業所ぶらっそに本年度初出荷。同施設での販売やジャムなどへの加工を行なう予定です。

今年のブルーベリー収穫の際はは入所者で果物農家のSさんも



看護管理者の指導力、マネジメント力を高める

(鳥取) 境港総合病院

看護部主催の「看護管理研修」が、当院看護管理者計23人を対象に毎月当院会議室で行なわれています。この研修は看護管理者のリーダーシップやマネジメント力を高めることを目的としており、主に大田麻紀看護部長が講師を務めています。

今年度の看護部の目標は「看護をデータで評価し患者満足度を向上させる」「職責を果たし自己を成長させる」の二つです。直近の研修は7月24日で、「当院の看護部教育の現状」をテーマに行ないました。

看護部主催の「看護管理研修」が、当院看護管理者計23人を対象に毎月当院会議室で行なわれています。この研修は看護管理者のリーダーシップやマネジメント力を高めることを目的としており、主に大田麻紀看護部長が講師を務めています。

手伝ってくれました。農家だけあって手際が良く、我々も勉強させていただきました。

ちなみに、どこから聞きつけたのか、ほまなす特製の甘酸っぱくおいしいブルーベリーを食しにスズメバチが現われて、収穫前の実をおいしそうに食べています。自然のままの環境の中で栽培することができていることを実感しました。

(済生記者 伝法俊和)

熱い思いで採用に全力

(埼玉) 川口総合病院

採用担当の筆者のモットーは「丁寧・タイムリーに動く!」。今年の夏も猛烈に採用活動に励んでいます。

7月9日はソニックシティで開催された2025年度埼玉県内高校生対象合同企業説明会に出展し、38人の高校生が当院ブースを訪れてくれま



非常食を生活困窮世帯へ

(三重) 松阪総合病院

7月9日、松阪社会福祉協議会・フードバンク松阪に3000食のアルファ米を届けました。

当院は災害等の発生に備えて延べ5400食の水と食料を

した。「地元で誰かの役に立ちたい」という声に触れ、筆者らも元気をもらった一日でした。

8月4日には、高校卒業予定の2026年度新卒事務職員・看護助手向け病院説明会を開催し、13人の高校生が参加。スライドや動画で当院を紹介し、院内見学も実施しました。

「仕事のやりがいとは?」「職員寮には入れますか?」など多くの質問が飛び交い、進路に向き合う姿が印象的でした。最後に私から「自分の判断軸を持って企業選択を」とエールを送りました。

(人事・総務課 本橋和宏)



再び看護現場へ！ 初の再チャレンジ研修

山口総合病院

山口県看護協会からの要請で、当院初の「再チャレンジ研修」を6月5・12・26日の3日間開催しました。

この研修は、看護の現場から離れていた看護師が再び看護技術を習得し、自信を持って復帰するためのもので、今回の受講者は1人でした。

研修では医療シミュレーターを使用し、注射の実施や急変時の対応といった実践的な体験に加え、医療安全や感染対策などの講義も組み入れ、受講者が充実した3日間を過ごせるように工夫しました。

受講者は来年4月の再就職を目指しており、「プランクがあることで再び看護技術習得と自信をつけた」と意欲的に研修に取り組んでいました。まだまだ子育てなどで看護

護の現場から離れている方も多い中、今後も看護職への復帰の支援活動を継続していきたいと思っています。

（看護部 伊藤慶子）

滋賀県済生会訪問看護ステーション

ゼストスケジュール導入事例紹介がウェブ公開

訪問看護ステーション管理者にとって毎月のスケジュール作成は多くの労力を要します。100人以上の利用者さんの希望とスタッフの力量や訪問日の業務量を考慮しつつ、入退院による変更や新規利用者の調整もあり、変更のない日はありません。

当事業所は済生会法人内共同購入を利用し、昨年11月に「ゼストスケジュール」のトライアルを始め、3月から本格使用に至りました。

このサービスでは、利用者さんと職員の情報を入力すると暫定スケジュールが組まれます。日々の調整は必要ですが、労



力は半分以下に減少。空き状況も一目で分かり、新規相談にも即応できるようになりました。

ゼストのホームページでは当事業所の導入事例が紹介されています。興味のある方はぜひご覧ください。

（滋賀県済生会在宅支援センター センター長 安井明子）

熊本福祉センター

ドキドキワクワク！ 3施設親睦ベタंक大会

利用者間の交流を目的として、6月28日に当センターの3施設（かがやき、ほほえみ、ウイズ）



た、一緒に試合を見て楽しんだり、仲間と話したりと利用者同士との交流も進み、たくさん笑顔が見られました。

筆者所属のほほえみチームは

勝てそうな試合もあったものの、結果は……。次回大会に向けてさらなるレベルアップを目指して練習を積んでいきたいと思っています。

（支援員 岩下慶子）

（茨城）神栖済生会病院 夏休みメディカル教室 今年度は病院で医療体験

8月3日、神栖市主催の「夏休みメディカル教室」が市内3病院で開催され、小学5年から中学3年までの84人が参加、うち28人が当院に来院しました。

子どもたちに命の尊さと思いきやりの心教え、医療に対する興味を高めることが目的で、当院は3年前から協力。今年度は



神栖市制20周年記念事業として規模を拡大し、病院が各学校に出向くのではなく、病院に訪問してもらいう形で実施されました。当院では手術体験、薬剤科での軟膏調剤体験などを行ない、特に腹腔鏡下手術の模擬体験では、外科の医師からアドバイスを受けながら真剣な表情で鉗子を扱う姿が印象的でした。

子どもたちからは「もっと練習したら上手になって、人の役に立つことができるのかなと興味を湧いた」などの感想が寄せられました。

（済生記者 江口裕紀）

（三重）明和病院 食糧品など計1060個をフードバンクへ寄付

令和2年のコロナ禍で始めた年2回の食料支援事業が、今回で10回目となりました。全職員の家庭から提供できる食糧品や日用品を募り、8月4日はNPO法人フードバンク松阪、5日はフードバンクISE、7日はNPO法人みんなの食堂こむすび舎めいわ町に、合計1060個の食糧品や日用品をお届けしました。



フードバンクの担当者からは「企業からの寄付が減少傾向にある中、ひとり親世帯からの支援の依頼が増加。対象者を絞ったり、今まで支援してきた方へ支援の中止を行なわなければな

らない状況です」との声がありました。

今般の物価高騰により、何とか生活ができていた世帯が困窮するような状況となっており、当院のこの活動に対して感謝の言葉をいただきました。

（医療社会事業課

医療相談員 小竹恵美）

〈新潟〉 特養長和園 大迫力の作品披露

今年3月頃から、利用者さんが日々緻密な手作業で作り上げた「貼り絵」の作品を施設のロビーで展示しています。

細かく切りそろえた色とりどりの折り紙を、一枚一枚丁寧に貼りながら作品を制作。出来上がった作品は壁いっぱいに表示され、多くの方々に楽しんでいただきました。



この作品展は、普段から貼り絵を楽しんでいる皆さんが作品



を披露できるようにと企画。作品を観た方からは「すごい!」「きれいで迫力がある!」といった感嘆の声が聞かれ、皆さんも大喜びでした。

今後もこのような作品作りの取り組みを通じて、皆さんが楽しみながら日々を過ごす活動の場を提供していきたいと思えます。

(済生記者 布施優子)

〈山形〉 はやぶさ保育園 気合十分のスイカ割り 甘くておいしく大満足

夏といえば、なんといっても山形県産の「尾花沢スイカ」。山形県済生会の濱崎允支部長から子どもたちに、大きな大きな



スイカをいただき、7月31日に5歳児クラス23人と4歳児クラス22人でスイカ割りを行ないました。

大きなスイカを前に子どもたちは大喜び。気合は十分で、順番に挑戦するものの、なかなか当てることができず、悔しさをにじませていました。「次こそは絶対スイカを割るぞー!」と気合を入れ直し、棒を振りかざすと、ついにスイカに命中! 割れ目から真っ赤なスイカが見え、皆は大喜びでした!

〈東京〉 向島病院 食育で笑顔をつくる

6月18〜22日、墨田区役所で開催された食育の啓発イベント「すみだ食育フェス2025」食育でみんながつくる笑顔の環



」にポスター参加しました。墨田区には区内の医療・福祉・介護分野で働く管理栄養士や栄

給食の際に全園児でいただき、大きな口を開けおいしそうに頬張って食べていました。「うわあ! 甘くておいしい!」と次々に子どもたちの声が上がって、赤い部分がなくなるまで食べるほどでした。

(済生記者 熊谷舞寿美)



養士が活動する「すみだ地域栄養ネットワーク」という組織があり、当院の栄養管理科も参画しています。当院は今回、この組織の一施設としてポスターの掲出を行いました。

当院はフードパントリーを毎月開催し、ひとり親家庭の食の支援に取り組んでいます。墨田

区の北部地域では唯一の活動ということもあり、より多くの方々に知ってもらいたく、食育フェスを通じて紹介しました。

当院の食育に関わる活動が、皆の笑顔をもっともつとつづけていけるよう、これからも熱意を持って取り組んでいきます。

(済生記者 加藤建志)

小学校児童との交流が笑顔と活力の源に

特養なでしこ香川

6月12日、近隣にある多肥小学校の4年生が、入居者さんとデイサービス利用者さんとの交流学習のため来所しました。

この交流学習には4年生約210人が参加し、3回に分かれて実施。「今日会えることを楽しみにしていました」と挨拶をすると、児童が丹精込めて育てた鉢植えの花をプレゼント。そしてソーラン節のパワフルな演舞披露の後は、交流の時間です。

児童は「好きな色は?」「昔やっていた遊びは?」「この辺りの昔の様子は?」などと質問。交流の会話の中には職員も知らなかった利用者さんの新たな一面も見られました。



組の親子が参加しました。

医師、栄養士、看護師による食物アレルギーについての各講義後、子どもたちが自身の食物アレルギーを考えながらお買い物体験やレストランでのメニュー選びを実施。子どもたちは食品の裏に書かれている表示を見ながら、楽しそうに食品サンプルやメニューを選んでいました。

その後、エビメンの打ち方について、練習用のトレーナーを用いて親子で一緒に練習を行いました。皆が真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。

(済生記者 鈴木亜希乃)

6年ぶりの親子教室再開

〈大阪〉 中津病院

7月29日、小児科・免疫アレルギーセンターによるアレルギー教室を開催しました。コロナ禍を経て約6年ぶりの再開となりました。

今回は「親子で学ぼう! 親子食物アレルギー教室」で、3

topics



〈山形〉養護（盲）老人ホーム 山静寿 のど自慢大会で12人が熱唱

7月30日、当施設2階のなでしこ集会所で「のど自慢大会」を開催し、12人の入所者さんが熱唱を披露しました。
歌うことはストレス解消や脳の活性化につながるといわれて

健康相談・血圧測定40人、医療相談・脳卒中相談20人、骨密度測定100人、歩行チェック70人、脳年齢チェック85人、ベジチェック・糖化測定109人、フレイルチェック85人と予想を大きく上回り、大勢の来場者でにぎわいました。
来場者からは「脳年齢チェックがゲームのようで楽しかった」「看護師さんに健康相談ができてよかった」などの声が寄せられました。
（済生記者 米井 悠）



います。また、歌うことが大好きという入所者さんも多いことから、このイベントを企画しました。
事前に参加者から歌いたい曲を聞き取りし、当日はくじ引きで歌う順を決定。歌いながら振り付けをするなど、参加者自身

も場を盛り上げてくれ、会場は一体感に包まれました。聞いている方も、知っている曲を口ずさんでいて楽しそうでした。
「楽しく参加できた」と話す参加者がいる一方で「昔より声が出なく、歌えなくなった」という声も。それだけに、歌声を披露する機会は貴重であると感じていただけではないかと思っています。
（済生記者 丹 秀樹）

〈島根〉老健高砂ケアセンター かき氷で暑い夏をしのぐ

8月6日、気温32度超えの中、通所リハビリテーションの屋外で利用者さんにかき氷を食べてもらいました。暑い中、通所リハビリテーションの盆子原篤科長はじめスタッフがかけ氷機で水を削り、シロップをかけ利用者さんに提供しました。



ボーかき氷を作っていたいただきました!! とてもおいしかったです。スタッフの皆さん、暑い中ご苦労様でした。
（済生記者 木下 英）



ワクワクいっぱい！ 病院お仕事体験ツアー

〈新潟〉三条病院

8月3日、当院で「小学生病院お仕事体験ツアー」を開催し、三条市と燕市の小学5・6年生19人が参加しました。
8回目の今回は内容をパワーアップし、医師・看護師体験に加え薬剤師・臨床工学技士体験もできるように！
薬剤師体験では、ラムネを薬に見立てて粉砕や分包の作業にチャレンジ。普段見ることでできない調剤の裏側に子どもたちは興味津々。

臨床工学技士体験では、エコーで友だちの血管を観察。本物の機械を手に、驚きやワクワクした表情を見せていました。
体験後はおながペコペコ。院内レストランで、皆で仲良くカレーを食べました。
子どもたちからは「医療機器を操作するのがおもしろかった」「将来、薬剤師になりたい」「新しい友だちができた」など、うれしい感想がたくさん寄せられました。
（済生記者 樋口拓也）



〈静岡〉川奈臨海学園 高校生が温泉旅館で おもてなしを体験

伊東市にある温泉旅館「青山やまと」で、7月25・29日の2日間、当園の高校生5人が職業体験を行いました。昨年の交流をきっかけに旅館業に興味を持った子どもたちが、実際の業務を通して、旅館の仕事とおもてなしの心に触れる貴重な機会となりました。

現場では客室清掃とチェックイン時のお出迎えを体験。社員の方の指導のもと、効率的な掃

多種多様な健康測定で 予想を上回る盛況ぶり

〈奈良〉中和病院

7月4日、イオン桜井店のリニューアルイベントで「知って、測って、健康アップ」をテーマに医療・健康相談会を開催しました。
当日は開場前から多くの人が並び、多種多様な健康測定を実施。当院職員12人、老健シルバークケアまほろば職員2人、地域包括支援センターきぼう職員5人の計19人がスタッフとして参加しました。
各コーナーの延べ来場者数は

除の手順や備品の配置、打ち合わせの要点などを学び、お出迎えでは荷物のお預かりやウエルカムドリンク等の提供を通じておもてなしを学びました。
参加した子どもの一人は「すごく足が疲れた！ 半日しかやっていない私でもこんなに辛いの、旅館の人は毎日働いていてすごいな」と話し、体験を通して労働の大変さとそれを表に出さないプロの姿勢を感じ取っていました。
（自立支援担当職員 石井結希）

寄付総額 3000万円超 救急車更新のためのCF

新潟病院

4月21日から7月18日まで実施した病院救急車の更新を目的としたクラウドファンディング（CF）は、最終日に第3目標の3000万円に到達し、成功裏に終えることができました。



申し込み総数は個人・団体合わせて延べ536件で、寄付総額は3110万1287円となりました。多くの方々から寄付とともに心温まる応援メッセージをいただき、職員一同感激しています。ご支援くださったすべての皆さんに心より感謝申し上げます。

新しい救急車は、被災地での救急（DMAT）活動のほか、新潟市の救急拠点病院として患者さんの転院搬送にも活用する予定です。

納車された際には報道機関にも発表し、改めて市民・県民・医療機関の方々に広く当院の取り組みを知っていただきたいと考えています。

（経営企画室 五十嵐道徳）

〈山形〉特養やまのべ荘 短冊に願いを込めて

7月初旬から中旬まで、毎年恒例の七夕祭りを開催しました。施設職員が提供してくれた本物の竹の葉に、25人ほどの入所者さんが思い思いに願い事を書いた短冊や美しい七夕飾りが吊るされ、慣れ親しんだ伝統行事を楽しむことができました。

竹飾りの前で「今年も七夕が来たなあ」「願い事なんか思い



つかない」と笑顔で語り合う皆さんの姿に、日々の暮らしを彩る年中行事の大切さを改めて感じました。

伝統的な暮らしの文化を継承し、四季の節目を祝うことは生活に潤いを与えてくれます。これから入所者の皆さんが楽しみにしている七夕行事を続けていきたいと考えています。また、日頃の健康管理にも気をつけ、来年も元気に七夕を祝ってもらえるよう、職員一同努めます。

（済生記者 岩田恭寛）

滋賀県病院 外傷診療施設機能評価 断らない救急をアピール

7月31日、当院は外傷診療施設

設機能評価を受審しました。審査は面接に加え、救急病棟や救命救急センターを巡る訪問審査、さらに過去症例を振り返るケースレビューで実施されました。

面接では「断らない救急」を実践し、すべての外傷患者を受け入れていることをアピール。部門間の連携も良好で、特に輸血部との協力体制が高く評価されました。

その後、サーベイヤーが救急病棟を訪問し、緊急輸血の体制や初療室の手術設備が確認されました。ケースレビューでは、現場での判断や評価方法について指摘がありました。

講評では「患者を断らない」という理念の徹底や修正予測外



みどりの里の見学では、入所さんが「你好」と書かれた紙を掲げて出迎え、学生たちから大きな拍手が沸き起こった



台湾の看護大学生が学ぶ 最前線の医療・福祉

7月30・31日、台湾の美和科技大学の看護学生11人が日本の医療・福祉現場を学ぶため、当院と済生会ビレッジを訪れました。

初日の午前はオリエンテーシ

死亡の低さが評価され、自己評価より8点アップの136点を獲得。審査結果は9月頃に出る予定です。

（済生記者 鶴飼健成）

〈北海道〉小樽病院

死亡の低さが評価され、自己

ヨンの後、モルック体験で北海道済生会職員と交流を深めました。午後は済生会ビレッジを見学し、清水雅成ソーシャルインクルージョン推進室長がフードバンク事業などの取り組みについてレクチャーしました。

2日目の午前は当院と、重症心身が1児（者）施設みどりの里の紹介を行いました。当院の中川尚美看護部次長が看護部の概要、教育方針、部署紹介、チーム医療に関する説明を行いました。学生のみならず引率の先生からも多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行なわれました。

今回の訪問を通じて得た学びが、今後の台湾での看護・福祉の実践に生かされることを強く願っています。

（広報室長 松尾寛志）

ものづくりフェスタで 健康と医療を楽しく体験

8月9日、大正区役所で「大正ものづくりフェスタ2025」が開催されました。区内企業や学生、行政が協力し、ものづくりの魅力伝えるイベントで、



多数の来場者がありました。

当院は、筋肉チェックや手洗いチェッカー、制服での記念撮影など、来場者が楽しみながら健康や医療に触れる体験型イベントを実施しました。筋肉チェックは開始直後からほとんど予約が入り、手洗いチェッカーでは「こんなに汚れが残っているの!？」と皆さんびっくり。制服体験ブースでは、子どもたちが本物の聴診器を使ってパパやママの心音を聞き、笑顔を見せました。

参加したスタッフは「医療に興味を持ってもらえるきっかけになった」「地域の方と笑顔で交流できた」と感想を寄せています。

（済生記者 高木明日美）

〈滋賀〉守山市民病院 他部署の取り組みを知り 医療の質向上につなげる

7月12日に院内学術研究発表会を開催しました。今年は8部署と1チームから11演題の発表があり、発表者や審査員を含む54人が参加しました。

審査員による審査と観客投票により、血液透析中の運動療法の効果を比較検討した多賀谷允



人工透析センター長が最優秀賞に選ばれました。また、ロボット歩行練習を行なった症例を報告したりハビリテーション技術科の田井中歩理学療法士が優秀賞を、コスト削減の取り組みを報告した総務課の玉井凱さんが観客賞を受賞しました。



取り組みを知ることができ、とても刺激になった」との声が多数寄せられました。

（済生記者 中嶋元香）

〈大阪〉吹田病院 コロナ禍で休止していた 病院ボランティアを再開

コロナ禍により病院ボランティアの活動を休止せざるを得ない状況となっていました。活動再開することになり、5月28日に地域に向けて募集を開始しました。

8月現在、ポスターやホームページを見て問い合わせをしたという2人が登録。患者さんの誘導や自動再来受付機の案内など、職員だけではフォローしき



れない患者さん対応を行なっていたら大変助かっていました。病院ボランティア募集を始めてまだ2カ月ほどしか経過して

（医事2課 中川祐紀）

〈大阪〉泉尾病院

「LINEな先生誕生！」 LINEスタンプ配信開始

当院ではオリジナルLINEスタンプを制作し、7月22日に



配信を開始しました。誕生したのは、地域に根差したキャラクター「LINEな先生」。モチーフは、リトル沖繩とも呼ばれる大正区の文化に着想を得たシーサーと、大正区の花・ツツジです。名前の「LINEな」は、シーサーと済生会の紋章「ナデシコ」を組み合わせました。キャラクターの考案からイラスト制作まで、すべて薬剤科で広報委員の奥田彩水さんが担当しています。

現在は、患者さんを対象に無料配布を実施中。LINEスタンプページ（二次元コード）か



第45回済生会関東ブロック 親善ソフトボール大会

未勝利も次への一步 来年度は主催病院として

〈埼玉〉鴻巣病院

6月8日、第45回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会が東京都大井町中央海浜公園で開催され、全国大会出場を目指す16病院で熱戦が繰り広げられました。

1回戦は静岡済生会総合病院との対戦で、結果は1対4で敗戦となりました。その後の敢闘賞をかけたトーナメントで〈千葉〉習志野病院と対戦するも健闘虚しく敗退となり、今大会はまさかの未勝利……。結果は残念でしたが、大きなけがもなく楽しく試合を終えることができ、次への一步として大切な経験となりました。

来年度の関東ブロック大会は

ら購入可能です。今後も80周年のタイミングなどで、新たなスタンプ制作を予定しています。「LINEな先生」を通して、地域とのつながりや病院の温もりを感じていただければ幸いです。

（済生記者 高木明日実）

〈兵庫〉地域密着型小規模特養 なでしこ神戸

願い事がかなうように

七夕行事を7月7日に開催し、入居者さん29人、職員7人が参加しました。

季節を感じるイベントを通して、少しでも日常生活に変化を感じてもらえればと思い企画。それぞれ短冊に「願い事」を書き、大きな笹とミニ笹を作り写真撮影を行いました。昼食に



短冊には「病気をしないように」「家族が健康でいますように」「美味しい物が食べたい」などたくさんの願い事が書かれていました。

これからも入居者さんの「願い事」が少しでもかなうように、毎日の生活の支援を行なっていきます。

（なでしこ介護課 介護士 石飛裕子）

topics



気で、画用紙を編み込む遊びに夢中になり、完成時の達成感もとても大きい様子が見られます。子どもたちの力作は、サッカ



楽しんでいます。保育士全員が、子どもの自主性を育み、個々の成長に合わせた環境を作るモンテッソーリ教育の資格を持つ職員から研修を受け、子どもたちがやりたい時に自分でできるように、道具の置き場所や置き方などを工夫しました。その結果、子どもたちは今まで以上に集中して遊び込むように。特にモンテッソーリの遊びが人

教室のコーチへのお礼や、地域の方との交流の際のメッセージカードとして活用。机上でじっくり取り組む時間と、友だちと身体を動かす時間を切り替えることで、「静」と「動」のメリハリを付けた活動を行なっています。

(保育士 久保田美紀)

**福井県済生会病院
病院で働く親の仕事
身近に感じて**

7月23日、職員の子どもを対象にした夏休みの職場体験「サマースクール」を実施し、31人が参加しました。

2010年から開催し毎年好評で、申し込んだ家庭には事前に院長からの招待状をお届け。当日は親の職場見学に加え、心肺蘇生法やAEDの使い方、手洗い検定、職場体験(医師・看護師のほか医療職の中から選抜)など、盛りだくさんのプログラムを用意しました。

参加した子どもたちからは「お父さんお母さん、いつもありがとう」「自由研究に生かしたい」といった声がありました。

中には「将来はお母さんのような仕事したい」と話す子もいて、医療職への関心を高めるきっかけにもなったようです。

8月6日には市内の小学生向けのサマースクールも実施し、16人が参加しました。

(済生記者 橋本来林)

**〈大阪〉千里病院
PEMECコース開催で
顔の見える関係づくりへ**

8月9日、当院で日本臨床救急医学会主催の第4回千里PEMECコースを開催し、受講者18人、インストラクター23人が参加しました。

豊能医療圏の救急隊と当院の医師・看護師がともに



PEMECを受講することで、内因性救急症例における緊急度・重症度の判断に関して共通認識を持つことが目的です。

2023年から年2回、継続的に開催していますが、運営スタッフの赤井知香子看護師は「受講を修了した消防職員の皆さんがインストラクターとして参加してくださるようになり、これまで以上に顔の見える関係づくりが進んでいます。今後も、豊能医療圏の救命率向上につなげていきたい」と話していました。

(済生記者 二階堂潤江)



今年度開催された「CVIT 2025」で、当院の志手淳也院長が大会長を務めました。CVIT(日本心臓血管インターベンション治療学会)とは、カテーテル治療を行なう循環器内科医、血管外科医などが所属する学会です。

学会企画として7月15〜21日、大阪・関西万博にCVITブースを出展。来場者は当院で行なわれたカテーテル治療をVR(仮想現実)で体験したり、心臓の血管モデルを使ったコミュニケーションでカテーテルの操作に挑戦しました。

出展初日には心筋梗塞の啓発講演が行なわれ、当院循環器内科の上月周副部長が出演。「お



しえて！ドクター」と題し、心筋梗塞の症状、カテーテル治療などについてクイズ形式で学ぶことができる講演で、子どもから大人まで約80人が参加し大盛況でした。

(済生記者 鈴木亜希乃)

**〈三重〉明和病院
地域包括ケアシステムの
構築をリードする**

7月24日、地域包括ケアシステム構築に向けて、明和町主催の「在宅医療と介護の多職種連携会議」が当院パレスホールで開催され、明和町長をはじめ行政関係者、医療機関、薬局、介護保険事業者などで働く専門職約70人が集まりました。

会議では「介護予防大作戦vol.3」難病(パーキンソン病)実践事例に学ぶ多職種支援について」と題して、講演会と事例検討会を実施。事例提供者およびパネリストとして、富本秀和院長をはじめ多くの職員が登壇しました。

参加者からは「多職種が連携し支援することにより、重度化防止につながっていることが学べた」「介護重度化予防に向け

た各専門職の役割について学べた」などの意見も聞くことができ、多職種支援の重要性を改めて認識できる良い機会となりました。

(介護保険部門課長 姫子松俊弘)

**暑い夏は机上遊びに夢中
長野保育園**

今年の夏は猛暑が続く、当園でも子どもたちが室内で過ごす日が多くなっています。3〜5歳児の55人は机上遊びを中心に



万博にブース出展で医療を身近に

〈大阪〉中津病院

〈山形〉 特養愛日荘

甘くておいしい！
真っ赤なサクラランボ

6月23日、今年も当施設の家族会から入居者さんに、果物のプレゼントが贈られました。これは家族会の恒例事業の一つで「入居者の皆さんに旬の果物を味わってもらい、季節感を感じてほしい」というものです。今年は異常気象の影響で山形県産のサクラランボが豊作という状況ではなく、購入先の選定に苦労しましたが、無事提供できました。



入居者の皆さんは、真っ赤な実を見て思わず笑顔に。「赤くておいしい」「やっぱりこの時期はサクラランボだね」などの喜びや感動の声が聞かれました。今年の果物のプレゼントも入居者さんにとって「食」

による季節を感じ、思い出を振り返る大切な機会になりました。今後も家族会と連携しながら、入居者の皆さんの生活が潤うようにしていきたいです。

(済生記者 高橋 睦)

〈大阪〉 泉尾病院

もしもに備え真剣訓練
命を守る行動力を育む

7月28日、大正消防署の協力のもと夏季消防訓練を実施。全職種約40人が参加し、消火器や消火栓の取り扱い、搬送訓練、防火シャッターの操作、煙テント体験、伝言訓練など、多岐にわたる内容を行いました。

煙テントでは、一歩前が見えない状況の中で避難する怖さを体験。伝言訓練では、焦りの中で情報を正しく伝えることの難しさに気づかされました。

最後の想定訓練では、透視室での火災を想定し、実際に本番さながらの緊張感の中で職員が動きながら、通報・初期消火・避難誘導・搬送までの一連の対応を行いました。

参加者からは「頭では分かっているけど、実際の場面では優先順位をつけることや周囲を冷静



に観察することが難しい。今回参加してよかった」といった声も寄せられました。

(済生記者 高木明日実)

山形済生病院

災害備蓄食を2団体へ寄付

当院では、7月に二つの団体へ災害備蓄食の寄付を行いました。

ひとり親家庭や生活困窮者などへ直接配布するフードパントリーの活動を行なっている子育て支援ほほえみ食堂へは、7月18日、カレーライス180個・鶏そぼろ玉子とじ丼240個・ハヤシライス198個を寄付しました。

若者相談支援や女性の居場所



石井政次院長(左)が発達支援研究センターへ寄付

づくり、障がい者就労や生活保護就労など幅広く活動している認定NPO法人発達支援研究センターへは、7月30日、カラーメイト180個分を寄付しました。

(済生記者 柏倉汐里)

〈栃木〉 宇都宮病院

ふれあい看護体験で
夢への第一歩を

7月2・16日、栃木県内の高

毎年ふれあい看護体験が「看護師になりたい」「看護師の仕事を経験してみたい」と考える高校生の背中を押すきっかけとなることを祈っています。

(済生記者 川原彩花)

〈山口〉 下関総合病院

看護師になりたい！
一日ナース体験

7月29日、県内の中学生を対象に「一日ナース体験」を開催し、12人が参加しました。

希望の白衣に着替えた後、感染管理・救急看護・集中ケア認定看護師などの指導の下、さまざまな体験を行いました。

手洗い体験では感染対策のための手順通りでも洗い残しが見られ、しっかりと丁寧に洗う重要性を学びました。AEDの取り扱い、心臓マッサージ体験では、どういった状況で行なうかなどを学んでから体験。その後、病棟で看護師が行なう手浴や洗髪などのケアを見学しました。

最後に首藤悦子看護部長が「看護の仕事が少しイメージできたと思います。将来ここで一緒に働くことを楽しみにしています」と挨拶。看護師、医療従事者になりたいとほぼ全員が答え、「ケアをしている看護師の姿は素敵だった」との意見もありました。

(済生記者 安岡佳成)



〈東京〉 向島病院

防災意識の重要性を 審査会参加で再確認

7月30日、向島消防署職員4人の立ち会いのもと、自衛消防訓練審査会が行なわれました。本審査会は日頃の自衛消防訓練の成果と自衛消防技術の向上を図るため、事業所ごとに実施されています。

当院は2号消火栓の部に2隊4人が参加。当日は消火・通報・避難誘導といった各役割を遂行しつつ、病院職員同士の声かけ



による細かな連携が安全な避難につながることを実感しました。チームワークとともに、心と体で「もしも」に備える一人ひとりの防災意識が患者さんの安心・安全を守るために重要だということ忘れずに、これからも防災業務に取り組んでいきます。

2号消火栓の部の参加12隊（9事業所）はそれぞれが審査を受け、9月中旬に速報メールで結果が届く予定です。

（リハビリテーション科

中川昌樹

〈埼玉〉 川口総合病院

病院機能評価を受審

7月10・11日の2日間、日本



医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。約半年にわたり準備を進め、無事に本番を迎えることができました。病院機能評価は、病院全体の運営や医療提供体制が適切かを外部の専門家が確認し、課題の把握と医療の質向上を目指すもので、5年に1度実施されます。

今回の審査では、サーベイヤ16人をはじめ計8人が来院し、30部門訪問やカルテレビューなど多岐にわたる調査が行なわれました。筆者は事前準備を初めて担当したため、前回の更新に携わった人や機構に確認を重ねながら、一つひとつ丁寧に対応を進めました。

看護の奥深さを体験学習

当日、大きなトラブルもなく終えられたのは、職員の皆さんの協力のおかげです。本当にありがとうございます。結果は6〜8週間後に届く予定です。（経営企画課 井上美智子）



8月8日と12日の2日間、地域の中学生・高校生を対象に「ふれあい看護体験」を実施しました。看護師を志す生徒が各日2人ずつ参加し、スクラップに着替えて血圧や脈拍の測定、車椅子やストレッチャーの乗車・搬送、ベッドメイキングなどを体験。また、AEDの使用や心



臓マッサージの実習にも挑戦しました。

参加者からは「思っていたより体力を使う仕事だと感じた」「もし急に倒れた人がいたら救命救助ができるようになりたい」という声もあり、実践を通じて看護の奥深さを学んだ様子がうかがえました。

終了後には、スタッフ手作りの修了証書と、看護師をモチーフにしたワッペンをプレゼント。いつか同じ仲間として地域医療を支える日が来ることを、職員一同心より期待しています。

（済生記者 長尾美甫）

〈山形〉 小白川ケアセンター

地元大学生と利用者が 壁画を共同制作

8月4日、当センター1階のエントランスの壁に、山形大学地域教育文化学部の学生5人とデイサービスセンターの利用者さん5人が協同して壁画制作を行ないました。

はじめに、利用者が大切にしているものや興味のあるものについて、学生が聞き取りを実施。魚釣り、歌、家庭菜園、テニスなど聞き取った内容をもとにモ

チーフを厚紙に描いて切り取り、型どりをした上からローラーで絵具を塗っていきました。

機会が少ない利用者さんにとっても、「この色を塗った方がいいかな」「大学ではどんな勉強をしているの」など自然な会話をしているの、楽しい時間を過ごすことができました。

（済生記者 岩城多香代）

〈新潟〉 特養長和園 夜空に大輪の花が咲く 花火観覧会

7月26日に第21回三条夏祭り花火大会が開催され、約4000発の花火が打ち上げられました。当園は花火の打ち上げ会場にとても近く、大迫力の花火を間近で観ることができました。

ち上がると色鮮やかな花火が夜空を彩り、ドーンドーンという大きな花火の音が響き渡りました。利用者さんからは歓声が上がり、拍手をする人や「とてもきれいだね」「大きい花火だね」と話す人など、思い思いに花火を楽しむ姿が見られました。今年も三条の夜空に大輪の花火が打ち上がり、とても素敵な夏の思い出となりました。

（済生記者 布施優子）





北海道済生会

夏の小樽を彩る潮ねりこみ 101人が元気に踊りきる

小樽最大の夏祭り「第59回たる潮まつり」が7月25日から3日間開催され、約5000人が練り歩く26日のメイン行事「潮ねりこみ」に、北海道済生会から総勢101人が参加しました。

あいにくの雨模様でしたが、午後6時25分に市中心部のサンモール一番街をスタート。ゴールの小樽港第3号ふ頭中央ステージまで約1キロの道のりを、沿道の市民の皆さんから温かい応援をいただきながら、元気いっぱいに踊りきることができました。

今年は新入職員や職員の小さなお子さんたちも多数参加し、笑顔あふれる「ねりこみ」とな



りました。小樽の夏を彩る一助となったことをうれしく思います。

(小樽病院 広報室長 松尾寛志)

〈島根〉老健高砂ケアセンター 移転前最後の納涼祭

7月18日に施設の2階フロアを使用して高砂納涼祭を行いました。来年度、当施設は江津総合病院の5階フロアへ移転するため、この場での最後の納涼祭となりました。

今回は猛暑のため屋外ではなく、室内でできるだけのことをしようと、森脇伸哉納涼祭実行委員長を中心にスタッフが頑張って準備を進めました。その甲

前は残念ながら通らず、入居者さんは見ることができませんでした。

今年は自治会にお願いをしたところ、快くルートを変更し、当苑に来てくれることに！皆さんは今か今かと少しそわそわ



斐あつて約50人のご家族が来場入所者さんと楽しいひと時を過ごしていただきました。

食べ物はかき氷、たい焼き、ゼリーを提供し、ジュースやお茶なども用意しました。中にはノンアルコールビールもあり、入所者さんが昔を懐かしむかのようにおいしそうに飲んでいま



しながら「わっしょい、わっしょい！ お・し・か!!」と掛け声の練習をしてお神輿が来るのを待ちました。

20人弱の入居者さんが子どもたちが担ぐお神輿を見ることが

〈和歌山〉特養潮光園

ベランダで夏祭り

8月7日に当園の2階ベランダで「ベランダ夏祭り」を開催し、スタッフを含め約20人が参加しました。このイベントは日頃、室外に出る機会の少ない利用者の皆さんに、暑い夏の祭りの雰囲気味わっていただくために企画しました。

当日は金魚すくいや手持ち花火、噴出し花火などを実施。参加者の皆さんからは「子どものとき以来、80年ぶりや」「終戦後に花火をした。懐かしいわ」「などの声が上が



した。

出し物はボランティアグループ・バアジューズさんによる演奏。楽しい音色に自然と入所者さんやご家族に笑みがこぼれていました。

(済生記者 木下 英)

〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑 こども神輿がやって来た

8月2日、小鹿自治会の夏祭りが小鹿公園で開催されました。当苑が毎年用意する焼きそば400食とフランクフルト



650本は、大盛況の中、全て1時間半で完了しました。

小鹿自治会では毎年こども神輿を行なっていますが、当苑の

でき、皆さん穏やかさ、優しさ、笑顔が入り混じったような表情をしていました。入居者さんと地域の方々との関わり大切さを改めて感じる場面でした。

(地域ケア担当 望月亜紀)

「しんどい」「部屋に戻りたい」といった言葉は一切聞かれず、皆さん童心に戻って楽しんでいました。今後も室外でのイベントを企画したいと考えています。

(介護職員 染谷由美)



山口地域ケアセンター

「なでしこ法被」で 5年ぶりの参加！

山口祇園祭は、室町時代から600年以上続く伝統ある祭り、毎年7月20〜27日にかけて開催されています。今年も、中日となる24日の夜には市の中心商店街を舞台に、市民総踊りが盛大に行なわれました。

当センターは、今年5年ぶりにこの市民総踊りへ参加。当日



は20人以上の職員が「なでしこ法被」を身にまとい、「大内の殿様」の曲に合わせて踊りを繰り返して披露しながら、活気あふれる商店街を練り歩きました。

私たちは今後も、地域とのつながりを大切にしながら、積極的に地域活動へ参加していき

いと考えています。

(済生記者 楊 玉華)

山形済生病院

手作りの縁日セットで 水ヨーヨーや金魚すくい

7月19日に当院の職員が利用している院内保育所で夏まつりが行なわれ、園児13人と保護者18人が参加しました。院内保育所では、季節に合わせてさまざまな行事を行なっています。

今回は、手作りの縁日セットで焼きそば屋さん、ジュース屋さん、ごっこなどお祭り気分を楽しみました。水ヨーヨーや金魚すくいの時間は、保護者の皆さんと子どもたちの笑い声であふ



もにぎやかに。甚兵衛を着て楽しむ子どもたちもいました。参加した子どもたちからは「水ヨーヨーが楽しかった」などの声が聞かれました。

(済生記者 柏倉汐里)

〈北海道〉小樽老健はまなす

焼き物の匂いにつられて みんな大集合！

8月に入り、北海道では例年になく暑さが続いています。皆さんに楽しんでもらおうと、8月6日に夏祭りを開催し、3階フロアの入所者さん40人ほどが参加しました。

メニューはお稲荷さん、焼きそば、フランクフルト、たこ焼き、焼き鳥、つくね、綿あめ、アイスクリーム。飲み物はジュース、甘酒、生ビール……と言いたいところですが「ノンアルビール」でガマン(笑)。

朝からスタッフが準備を始めると、フロア内、エレベーター内に焼き物のいい匂いが……。匂いにつられて、入所者さんが集まって来ました。

食べ物がふるまわれると「おいしい」「久しぶり」など声が上がり、中には「食べすぎた」という方も。皆さん祭気分を満喫していました。

午後からも、ゲームやカラオケなどで楽しみました。

(済生記者 伝法俊和)



〈山形〉特養ながまち荘

大迫力の「花笠踊り」と 出店で大盛り上がり

7月23日、長期入所、短期入

たくておいしい！」「久しぶりに焼き鳥食べたな〜！ うまい！」と笑顔の利用者さん。職員も利用者さんも、一緒に見て、食べて、歌って、笑って、楽しいひとときになりました。

(長期入所 介護職員 西塔有芽香)

〈大阪〉泉尾特養第二大正園

ピンポン玉入れや射的 スイカ割りに夢中！

7月29・30日、3階と4階の各フロアで夏祭りを開催し、利用者98人、職員約20人が参加しました。当日は新旧の夏らしい音楽を流し、フロアは明るく

ぎやかな雰囲気になりました。ガラガラ抽選会では色とりどりの景品を用意し、ピンポン玉入れゲームや射的では皆さん真剣な表情でチャレンジしていました。

お面コーナーでは懐かしいキャラクターなどが並び、いろいろなお面を手に取り、笑顔になる人も多く見られました。

そしてイベントの締めくくりはスイカ割り。力いっぱい棒を振る利用者さんの姿に、応援の声が飛び交い、大盛り上がりとなりました。

今年の夏の思い出の1ページになればうれしいです。

(済生記者 黒木洋輔)





〈大分〉日田病院
伝統の山鉾を担ぎ
地域とともに汗をかく

7月26日、当院から大坪仁院長を筆頭に8人のスタッフが日田祇園（祭りは7月26・27日）に初参加しました。そろいの法被を着て、山鉾を担ぎ、沿道の皆さんから声援を受ける体験は想像以上に熱く、誇らしいものでした。来以降もぜひ継続参加したいと考えています。



地域のお祭りに参加することは医療と直接関係ないようにも思えますが、地域に根差した病院として、地域の皆さんと同じ空気を吸い、汗をかくことの大切さを実感しました。

たことも大きな収穫でした。また、当日現地まで足を運び、声援を送ってくれた職員にも感謝しています。今後も祇園や日田の行事を、職員とともに盛り上げていきたいと思っています。

（婦人科医長 佐藤祐輔）

〈北海道〉なでしこキッズ
クラブ

夏祭り恒例おみこし
元気にわっしょい！

8月1日、小樽病院の院内保育所なでしこキッズクラブ恒例の夏祭りが開かれ、子どもたち23人がおみこし、山車の各チームで病院の周りを一周しました。今年の先生方お手製の山車はピカチュウ。おみこしの側面には、当日参加できなかった子も含む園児たちの顔写真を貼りました。

30度近い炎天下の下、浴衣や甚平でばっちり決めた子どもたちは帽子をかぶって元気に出立。先生の吹く笛に合わせて「わっしょい！ わっしょい！」と元気いっぱい。見守る父母たちは「がんばれ！がんばれ！」と目を細め、先生方も懸命にうちわをあおいでいました。



園内に戻った子どもたちは、麦茶で一服した後、園庭で金魚クラゲすくいを楽しみ、緑日気分を味わいました。

（北海道・小樽病院
済生記者 定 淳志）

〈大阪〉富田林特養富美ヶ丘荘
夕涼み会でお祭り気分

8月8日に当荘で夕涼み会を開催し、特養・デイサービス・ショートステイの利用者さんが120人ほど参加しました。

孫やひ孫の頑張る姿に目尻を下げたり、微笑ましい光景が見られました。

でも、やはり一番のにぎわいは屋台コーナーで、から揚げや焼きそばの香ばしい匂いにつられて大盛況。久しぶりの家族との会食の場となり、話が花が咲きました。

来年も今年の反省点を生かしながら、家族と楽しめる夏祭りを開催したいと思っています。

（済生記者 畑中利恵）

〈静岡〉特養小鹿苑
たくさん笑顔で
暑い夏を乗り切ろう

7月31日、特養部で恒例の夏祭りを開催しました。当日は入居者80人、ショートステイ利用



7月13日、夏祭りを開催しました。新型コロナウイルス感染症が流行してから、利用者さんだけで楽しむ夏祭りを実施していましたが、今年は6年ぶりに家族を招いて開催することができました。子どもから孫、ひ孫世代の総勢100人が来所。甚平や浴衣姿で夏祭りを華やかに彩ってくれました。

ゲームコーナーでは、昔を思い出しながら親子で楽しんだり、



当苑ではそれぞれの部署で季節を感じるイベントを、工夫を凝らして提供しています。この夏祭りでは、利用者さんのたくさんの笑顔に、暑い夏を乗り切るパワーをもらいました。早くも次のイベントに期待する声が上がっています。次は秋……楽しみに待っていてください！

（済生記者 本間佐知子）



者13人の計93人が参加。浴衣や法被を着て、いざ、夏祭りへ！

午前の部は、ゲームや太鼓で体をたくさん動かしました。午後の部は、ボランテアによる演奏会、御神輿行列と盛りだくさん。おやつにはかき氷と綿菓子を楽しみました。利用者さんたちの楽しそうな姿に、職員も含め、皆で笑顔が止まらない一日となりました。



新型コロナウイルスの影響で、模擬店が各フロアを訪問する形で開催していましたが、今年度から1階事務所前で行なうことに。室内での開催ですが、祭り特有の雰囲気を感じてもらえるよう工夫しました。模擬店のメニューも冷やしぜんざいやアイスなど、涼しさを感じられるメニューを中心にしました。

も。ゲームコーナーの射的では、皆さんじつくり的に狙いを定めて発射！ 何度も外れておまけの1回でついに命中し、好みの景品をゲットする方もいました。笑顔あふれる楽しいお祭りとなりました。

施設の垣根を越えて 看護師の人事交流

〈熊本〉みすみ病院・熊本病院

材交流を進めていく予定です。
(みすみ病院 経営企画室長
折田智史)

〈群馬〉前橋病院

大盛況のまちなかフェア

無印良品前橋南店のオープン
1周年の記念イベントとして7
月19～21日の3日間にわたり開
催された「みなみ market」に、
当院も「まちなかフェア」と銘
打って2日間参加しました。



ロゴ・ネーミングに込めた想い

さいくま (SAIKUMA)

本事業が、支那熊本県済生会の協賛事業であること

にじ (虹、架け橋)

本事業を通して、急性期だけでなく、回復期、地域医療、在宅医療など
幅広い人材を育成すること、本事業にかかわるスタッフが、両施設の「架け橋」と
なって、両施設の発展に寄与すること

エール (英: Yell 仏: Aile) ※ ロゴマークは、翼の形をした比喩がモチーフ
英語でエールは、応援・励ましを意味し、両施設を助け合うことを意味する
フランス語でエールは、翼を意味し、両施設を飛び交うスタッフをイメージしている

熊本病院とみすみ病院におけ
る看護師の人事交流事業の一環
で、現在、熊本病院の3人の看
護師がみすみ病院に赴任し、業
務にあたっています。本事業は
両施設の人的資源の有効活用
に加え、職員のスキル向上や
キャリア形成に寄与する取り
組みとして今年4月から開始。
2003年のみすみ病院開院
当初からしばらく熊本病院の看
護師が派遣されており、もとも
と人材交流の土壌はありました。

7月15日には両

施設の院長、看護
部長をはじめ関係
者19人が一堂に会
し、施設間異動者
を激励する会を開
催。本事業と施設
間異動者自身を「さ
いくまエール」と
称し、活動を活発
化させていくこと
が確認されました。
今後は看護師に
限らず、多職種へ
の展開も視野に入
れ、より広範な人



健康について
楽しく気軽に考
えるきっかけづ
くりと、当院の知名度・認知
度向上を目的として、血圧測
定、血管年齢チェック、ベジ
(野菜摂取量) チェック、白衣
試着体験、お菓子のつかみ取り、
DMATカー展示などを実施。
家族連れなど、2日間で目標を
大きく上回る400組以上の
来場があり、準備した測定記入
用紙が足りなくなるほどの反響
がありました。

イベント初参加のスタッフか
らも「緊張したが楽しかった」
との声が寄せられました。イベ
ントの様子は当院インスタグラ
ムでもご覧いただけます。今後
は恒例イベントとして定着させ
ていきたいと考えています。
(経営企画課係長 大木浩次)



〈三重〉松阪総合病院

地元高校生を招いた
オープンホスピタル

7月30日、医療従事者の業務
を楽しく知ってもらうことを目
的として、オープンホスピタル
を開催しました。地元の4高校
(松阪・三重・松阪商業・相可)
から34人の高校生が参加し、5
グループに分かれて進路相談・



体験コーナーを回りました。
進路相談コーナーでは参加者
が医療従事者に直接相談できま
す。看護師中心の例年に比べ、
今年は希望職種が医師から公認

心理師まで、多岐にわたりました。

体験コーナーでは模擬血管を
使用しての注射体験、ラパ鉗子
でチューリップの折り紙を行な
う模擬手術体験のほか、救急蘇
生法体験や内視鏡体験など、さ
まざまな体験を実施。

垣本斉副院長の閉会挨拶で締
めくくり、ソーシャルインクル
ージョンの一環で福祉事業所が
製造する災害備蓄用パンをお土
産として配布しました。

(済生記者 岩崎貴穂)

〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑
防災かまどベンチ
製作スタート!

7月20日、当苑での防災かま
どベンチ製作がスタートしまし
た。

当日は西豊田学区支え合い体
制づくり実行委員会から7人、
地域の方3人、当苑職員9人、
職員の子ども2人、計21人が参
加しました。

炎天下での作業になるのでテ
ントを張って日陰を作り、大型



あります。暑い中の作業は大変
ではありますが、完成を想像す
るとワクワクが止まりません。
(地域ケア担当 望月亜紀)

済生会看護部リクルートサイトオープン!

あなたも「なでしこナース」に
なりませんか?



<https://www.saiseikai.or.jp/nurse/>

topics

応募倍率6倍！ 大人気の病院体験



7月26日、小中学生向けの病院体験イベント「ミッション・イン・ホスピタル」を開催しました。15回目の今年は過去最多の183人から応募があり、抽選で選ばれた30人が参加しました。

今年は体験内容を一新し、脳血管治療の「カテーテル体験」や白杖を使った「視野狭窄体験」など、より実践的なプログラムを用意。特に注目を集めた「電気メス体験」では、臨床工学技士と医師のサポートのもと、手羽先の血管を取り出す手術体験や縫合体験に挑戦しました。

参加者からは「ドラマでしか見たことがなかった医療機器を実際に使うことができて楽しかった」「将来は電気メスを扱う医師になりたい」との声が寄せられ、アンケート平均評価も4・



9点(5点満点)と高評価でした。
(済生記者 鶴飼健成)

山口地域ケアセンター

美しい海岸を守るため



7月27日、当センター「ラン

&ウォーク部」のメンバーと家族計20人が、阿武町・清ヶ浜で行なわれた「鳴き砂復活隊」のボランティア活動に参加しました。「ラン&ウォーク部」は、健康のために体を動かしたい人からフルマラソンを目指すランナーまで、走ることや体を動かすことが好きな職員が集まるクラブです。

当日は天候にも恵まれ、穏やかな波と美しい日本海が広がっていました。しかし、その美しい海岸にもごみが散見され、「この海を守りたい」という思いで、午前9時から約1時間、ごみ拾いに取り組みました。子どもたちも一緒に参加し、砂に埋まったプラスチックや発泡スチロールなど、自然分解しないごみを真剣に回収しました。

(済生記者 楊 玉華)

福井県済生会病院

世界・日本肝炎デーに 無料肝炎ウイルス検査

7月28日の「世界・日本肝炎デー」に合わせ、肝臓週間の一環として啓発イベントを開催しました。当院は2008年に県内唯一の肝炎診療連携拠点



病院として指定されており、地域に向けて毎年啓発イベントを開催しています。

当日は正面玄関に特設スペースを設け、肝炎の早期発見と治療の重要性を伝えるパネルを展示。また、これまでに検査を受けたことがない人を対象にした無料の肝炎ウイルス検査も実施しました。30人を超える来場者のうち、11人が検査につながりました。

検査を呼びかけた当院看護師の肝炎医療コーディネーター・橋本まさみさんは、「検査は一生に一度、少しの血を採るだけです。自分や大切な家族を守るために、検査をぜひ受けてほしい」と語りました。

(済生記者 橋本来林)

〈山口〉下関総合病院

主催者としての苦労と 若手の活躍で絆深まる

6月29日、第46回済生会中・四国ブロック親善ソフトボール大会を山口県下関市の乃木浜総合公園グラウンドで開催し、11チーム209人が参加。当院主催のため、事前準備、当日運営を行ないました。当日は非常



に暑く、飲み物を冷やす氷がすぐに溶けて何度も買い足すなど、いろいろ苦労がありました。しかし、大きなテントを24張り準備して休憩場所を確保したことが功を奏し、熱中症患者を出すことなく終了できました。

試合はA・Bの2ゾーンに分かれ、当院はBゾーン(6チーム)。戦績は、1試合目の香川県済生会病院戦では最終回に同点に追いつくも、抽選の結果敗退。2試合目の〈広島〉呉病院戦は初回から打線が爆発し、20対0で圧勝しました。選手の高齢化が進む中、20〜30代の新戦力が加わり、チームに新たな風が吹き込まれました。

(看護部 副看護師長 國弘健二)

大分県地域生活定着支援 センター

ささやかな贈り物

6月下旬、刑務所を出てアパートで暮らし始めたAさん。生活用品はそろいましたが、ごはんを食べる丁度いい台がありませんでした。経済的な余裕がないため買うことができず、少し不自由な身体で食事の準備を



して、冷蔵庫の前に座り込み、床にそのまま食器を置いて食べるという状況でした。

相談員からこの状況を聞いた筆者は、ダンボールを使って丈夫で汚れに強いテーブルを作り、相談員と一緒にAさんを訪問。事務員として初めて支援の現場に出て、刑務所を出た人の暮らしを目にしました。

テーブルを受け取ったAさんは「大切に使います」と言って穏やかに笑みを浮かべました。筆者はそんなAさんに「頑張つて」と心からのエールを送りました。

これからも当センターの一員として、Aさんたちの暮らしを支えます。

(事務員 江藤弘子)

神奈川県病院

神奈川県医師会から
「断らない医療」へのお礼

7月24日、神奈川県医師会の岩田篤人会長と監事の中村直樹医師が来院し、当院が取り組む「断らない医療」に対して、感謝の気持ちを伝えてくださいました。

特に、日々さまざまな患者さんに対応し、現場の最前線で尽力している看護師をねぎらいたいとのことで、感謝の手紙とお菓子を直接手渡しするために、病棟・外来・救急外来へ。

現場の看護師に対して「どんな大変な患者さんでも受け入れてくれて、本当に助かっています」「暑さが厳しい季節ですが、どうか体調に気をつけて、これからよろしくお願いします」と、温かい言葉をかけてくださいました。

医師会と病院がこうした交流を通じて信頼を深められることは、



病棟を訪問した岩田会長(右から2人目)と中村医師(右)

地域の医療を支える私たちにとっても心強く、現場の努力が確かに届いている証だと感じました。

(済生記者 小山友輝)

福岡 二日市病院

新規採用職員50人が
防災意識を高める

7月25日、「令和7年度新規採用職員防火研修」を実施しました。新規採用職員50人が参加し、火災発生時の対応や院内の消防設備について学びました。研修では、講義形式で初期対応や通報・避難・消火の役割分担、消防設備の種類と使用方法について説明がありました。そ



の後、病棟内で非常通報装置の設置場所や避難経路を確認し、屋外では消火器の取り扱いを体験しました。研修後も参加者は皆真剣にメモを取り、設備を確認する姿が見られました。

いざという時に落ち着いて行動するためには、日頃からの備えが大切です。今後も防災に対する意識を高める取り組みを続けていきます。

(済生記者 大園晶洋)

大分 日田病院

タスク・シフト／シェアで
検査がスムーズに

当院検査部では、昨年度からの目標として、看護師から臨床検査技師へのタスク・シフト／シェアの取り組みを行なってきました。今年5月から「超音波検査のために静脈路に造影剤注入装置を接続する行為」「造影



剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為」「当該造影剤の投与が終了した後に抜針および止血を行なう行為」を、研修を受けた2人の臨床検査技師が行なっています。輸液ラインと造影剤を接続する三方活栓の操作に慣れるまで時間がかかりましたが、検査中に看護師に造影剤注入を依頼することがなくなり、検査がスムーズになったと感じます。今後も継続して取り組んでいきます。

(検査部 西村悠希子)

国民の権利・入居者の投票権を守る

7月15日、特養入居者の第27回参事院議員通常選挙の不在者投票を当園4階会議室で園長・事務長・事務課長を立会人とし

大阪 野江特養城東園

で実施しました。投票を希望した7人は、直前まで自宅で新聞・テレビ等で綿密に情報収集。投票会場では、

投票用紙に支持する候補者・政党を真剣なまなざしで記入していました。

候補者などを記載後は内封筒に入れ、外封筒に封をして氏名を署名。鍵付きの投票箱へ自ら投函していただき、7人全員の投票は無事終了しました。預かった投票用紙は、不在者投票実施日などの必要事項を記入し、各区役所の選挙管理委員会へ即日提出しました。

(係長 佃 一博)



北海道 小樽病院
小樽朝野球で春連覇果たす

当院野球部が小樽朝野球春季大会(2部)で2連覇を果たし、7月16日に和田卓郎院長と近藤真章名誉院長(終身名誉監督)に喜びの報告を行ないました。

昨年は敗者復活トーナメント

からの勝ち上がりでしたが、今年は無敗の完全優勝。甲子園出場経験がある好投手・田中雄大選手が新加入、ノーヒットノーランを達成し優秀選手賞に選ばれた活躍をしました。「小学生以来の軟式球に苦勞しましたが、チームのサポートもあり、楽しくプレーできた」と田中投手は語りました。強豪が集う1部に昇格する秋季大会(8〜9



topics



また、手首と足首に重りをつけての「高齢患者さん体験」では、「体が思うように動かせないのは大変ですね」と患者さんの気持ちになって考えることを学びました。

嚥下治療に取り入れる「トロロミ茶体験」では、かき混ぜるにつれてお茶がトロトロに変わる様子に「すごい」と感心して

未来のナイチンゲール

8月1日、「一日看護体験」に地元高校生2人が参加しました。

（済生記者 高畑貴子）

「三重」明和病院
看護師のユニホームを身にまとい、看護師体験で互いの胸に聴診器を当てて心音が聴取できると「おお！」と思わず声を上げていました。

8月2日、集学的がん診療センター市民公開講座を福井県民ホールで開催し、約400人が聴講しました。

テーマは「佐野史郎さんと知ろうがんのこと」がんの基礎知識とがん予防（生活習慣病改善）。各分野の専門職による講演、特別ゲストの俳優・佐野史郎さんによるトークショー、佐野さんと院長との特別対談など、充実した内容となりました。

佐野さんは2021年に血液がんの一種である多発性骨髄腫を患い、闘病を経験。現在は症状が治まった寛解状態が続いており、「俳優として患者役に

俳優の佐野史郎さん闘病経験を語る

（副看護部長 椿 真戸）

入院患者さんとの「コミュニケーション体験」で「高齢の患者さんとのコミュニケーションが楽しかった」と話す。未来のナイチンゲールは、多くの「初めて」を経験し、看護の道を志す気持ちがより強くなったようです。

福井県済生会病院

〈神奈川〉横浜金沢若草園 昼食環境の快適性向上と 熱中症リスク軽減

利用者さんの利便性向上と熱中症予防の対策として、7月1日にマルチドリンクディスプレイを設置しました。利用者さんの水分補給に加え、昼食時間をさらに楽しく快適にすること



快適な昼食環境の提供だけでなく、熱中症リスクの軽減といった効果も期待しています。

（済生記者 日高 純）

目指しています。

昼食時にお茶やコーンスープ、味噌汁などを提供し、「今日はコーンスープにしてみました」「選べるのが良いです」といった声が聞かれました。また、熱中症リスクへの対応として、すばやく塩分やミネラルを摂取できるスポーツドリンクの提供も可能になりました。

利用者さんからは「暑い日にスポーツドリンクがうれしい」「いろいろあり、楽しい」といった感想が届いており、これらの取り組みの成果を感じています。



〈山形〉特養やまのべ荘 久しぶりの外出行事で 自然の美しさを満喫

コロナ禍でなかなか行なえなかった外出行事を、6月末〜7月前半に3回実施しました。「外出ドライブ」と名付けたこのイベントでは、入居者さん7人と職員が出塩文殊堂と玉虫沼を訪れ、見頃を迎えたアジサイとラベンダーの花を鑑賞しました。

花々の美しい風景を眺めながらドライブを楽しみ、休憩所ではジュースを飲んで一息つくという、シンプルながらも心地いい時間を過ごしました。

「昔はこの辺をバイクで走り回ったんだっけ」「ここまで歩いて行ったことあったっけなあ」



といった声も聞かれ、参加者の皆さんが昔の思い出や日常からの小さな脱出を楽しんでいる様子がうかがえました。

これからも入居者の皆さんが安全に外の空気を味わうことができるよう、気温が落ち着いたら時期に再び外出行事を計画しています。

（済生記者 岩田恭寛）



岡山済生会総合病院 病院理念を実践する2人に ホスピタリティ賞の表彰

6月24日、医課長会議で第5回ホスピタリティ賞の表彰が行なわれました。この表彰は、当院の理念に基づく「思いやり・優しさ・信頼」などの行動を



表彰式にて。左から熊健文院長、村上さん、楠戸さん、千田茂樹事務部長

ピッド・レスポンスチームの臨床工学技士・村上幸司さんです。楠戸さんは認知症の患者さんの身体拘束最小化を目的に、昨年「マフ編み会」を発足。患者さんだけでなく関わる医療者にも安心と笑顔を届けています。村上さんは患者さんの急変の兆候を早期に察知するため、ア

践した職員を称え合い、互いに認め合う風土を育てることを目的としています。

今回の受賞者は、認知症マフの会代表の患者サポートセンター看護師・楠戸裕子さんと、ラ

静岡医療福祉センター 成人部 ナスの収穫に緊張？

5月に当センター成人部の花壇にナスの苗を植え、収穫がいつできるのか楽しみに待っていました。今年は梅雨らしい雨も少なく、ナスの生育が心配でしたが、手のひらサイズの小さなナスができました。

6月27日、暑い日差しの下、手伝ってくれた利用者さんは貴重な体験に緊張しているのか、なかなか切ることができず戸惑っている様子でした。職員も野



菜を一つ作るだけでも大変であることとともに感じ、この暑さの中でも働いてくれている農家の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

次はヒマワリを植える予定です。きれいに咲いたヒマワリに負けない利用者さんの明るい表情を、たくさん写真に収められたらと思います。

（済生記者 奥川詩織）

〈茨城〉 神栖済生会病院

医学生が現場に触れる

7月23日、茨城県医療人材課主催の「修学生サマーセミナー」の一環で、県の奨学金を受けた医学生19人が当院を訪問しました。

田村照悟副院長兼事務部長からの病院概要説明後に院内見学を行ない、現場の空気を肌で感じてもらいました。続いて金沢義一院長から、地域に寄り添う医療を提供するという当院の方針と、地域の特色を理解する大切さについて話がありました。

最後に濱田修平内科部長から訪問診療を通して見た当地の医療について話がありました。学生の中には怖がらずにどんどん



外に出て、今だからこそできる形でたくさん学んでほしい。当院はいつでも実習ウエルカムです」との言葉に、参加者の硬かった表情も少し和らいでいました。

（済生記者 江口裕紀）

〈新潟〉 オープンテラス

花そーて

eスポーツを通して 世代間交流

7月29日に「三条市eスポーツプロジェクト」の一環として「eスポーツ体験会」を開催し、当施設の利用者さん14人が参加しました。eスポーツ



は年齢や性別に関係なく誰もが参加でき、楽しみながら健康対策や新たな生きがいづくりにつながることも期待されています。今回の体験会では、コントローラーを使ってパズルゲームに挑戦。ゲームの内容やコントローラーの操作方法は高校生ボランティアの皆さんに教えてもらい、世代間交流も図ることができました。はじめはゲームの内容や操作方法に戸惑う人もいましたが、後半には皆さんがゲームを楽しんでいました。

（新潟・特養長和園 済生記者 布施優子）

滋賀県病院

フライトナースのお仕事

6月27日、京都府立医科大学看護実践キャリア開発センターの「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の一環で、京滋ドクターヘリ拠点地での研修・見学会を開催しました。

当院では2回目の開催で、今回は京都府内で勤務する看護師と看護学生の13人が参加。当院の平泉志保救命救急センター副センター長による講義「病院前診療を知る」フライトナースのお仕事」では熱心にメモを取る受講者の姿が見られ、その後、救急バッグやヘリの機内を見学、使用される医療資材や薬剤の管



理方法などについて、積極的な質問が飛び交いました。

今後もドクターヘリ基地病院の一員として、プレホスピタルケアに関心のある看護職のキャリア形成をサポートし、教育機関との協力を進めていきます。

（済生記者 鵜飼健成）

〈静岡〉 ワーク春日

点字用紙を活用した 作品をカフェ等で販売

当施設では、使用しなくなった点字用紙や封筒などを活用してノートやポチ袋を作成し、病院や施設のイベントなどで販売しています。このたび、就労継続支援B型の活動にご理解をいただいている2店で、作品を置いてもらえることになりました。

お茶カフェ「侘助」からは「点字用紙を前面に出してほしい」との要望があり、表にお店のロゴのスタンプを押し、オリジナル商品として企画。また、美容院「hair & spa hana」は店名にちなんで「花柄で作ってほしい」とのこと、かわいい花柄の布や紙を使用して制作しました。



カフェでは6月末、美容院では7月上旬から販売開始。点字を見たことがない方に、手に取って見ていただく機会を得ることができました。

（施設長 阿部ゆかり）

静岡市心身障害児
福祉センターいこいの家

職員奮闘の七夕劇

7月7日に七夕集会を行ない、子どもたちや家族の願い事の紹介に続き、職員による「七夕劇」を皆で鑑賞しました。
心地良いナレーションに合わせ、織姫と彦星、天帝に牛（有田瑞恵施設長が張り切って演じてくれました）まで登場！



織姫と彦星は働き者の若者でしたが、結婚したら遊びほうけて、機織りも牛の世話もしなくなってしまう……天帝に天の川を境に離れにされてしまいます。でも、このままじゃダメだ！と心を入れ替え、再び働き始め、1年に一度、7月7日に天の川を渡って会えるようになりました。大雨が降ってもカササギが飛んできて渡らせてくれるから毎年会えるよ、というお話です。
子どもたちは最後までじつくりと見ていてくれました。皆の



願い事がかないますように。

（済生記者 齊藤知夏）

〈大阪〉千里病院

病診連携の研修会に
多職種132人

7月12日、千里阪急ホテルで吹田市医師会主催の「第28回開



業医と勤務医との研修会」が開催され、医師を中心に社会福祉士、看護師、事務職員など総勢132人が出席しました。

当日は、吹田市内の8病院から病診連携に関するプレゼンテーションが行なわれ、各病院の役割や機能について理解を深める貴重な機会となりました。

当日から参加した患者支援センターの井上千代看護師長は「情報交換会では、普段の診療情報提供書や電話などでのやりとりとは異なり、紹介患者の経過や逆紹介患者の在宅での様子などについて直接情報を共有でき、地域連携の重要性を改めて実感することができた」と感想を述べていました。

（済生記者 二階堂潤江）

東神奈川リハビリ

テーション病院

専門学校生から入院患者へ
素敵な体験をプレゼント

当院近くの横浜ビューティーアート専門学校と連携し、8月6日に特別なイベントが開催されました。

このイベントは、リハビリテーションで長期入院が続く患者



さんたちに癒やしの時間を提供することを目的として企画。当日は同校の学生ボランティア9人により、ハンドマッサージ、ネイルケア、パーソナルカラー診断の三つの体験が提供されました。

入院患者さん25人と職員33人の合計58人が参加。体験後は笑顔の患者さんから「気持ちよかった」との声が多く聞かれ、職員とともに癒やしを実感する様子が見られました。

初めての試みではありましたが、学生ボランティア、入院患者さん、職員と全ての参加者から好評で、今後も定期的に開催できないか検討中です。

（済生記者 濱崎啓郎）

はしご車体験に歓声

防災ラボ大盛況

北海道済生会

小樽市と締結した地域共生包括連携協定の一環で、6月21日にイオン小樽店の平面駐車場で「防災ラボ2025」を開催しました。

パネルや道具の展示を行ない、消防団は参加者にAEDの使い方やレクチャー。民間企業による災害救援車の展示もあり、盛りだくさんのイベントとなりました。

（済生記者 清水雅成）

〈兵庫〉特養ふじの里
オムツマイスター3人誕生

6月13・16日、当施設で大王

製紙によるオムツマイスター研修を実施し、職員3人が受講しました。

「排泄ケアの基



本知識」「パンツタイプの装着体験」「テープタイプの当て方実技実習」「排尿体験」「実技・筆記試験」を経て、無事に認定証を受けることができました。

受講者は皆入職して20～30年



（介護部長 柳川瀬洋志）

を経過していますが、オムツ装着体験を通して違和感や圧迫感を初めて知り、製品の特徴などを学ぶ機会となりました。受講後は「職員全員に伝えたい」「今までの考えが間違っていた。実践していきたい」と前向きな意見が聞かれました。

今後はこの研修の機会を生かして、入居者さん個々に合わせた排泄の支援の検討や、安眠を妨げないようにするなど排泄の視点から介護の見直しを考えています。

topics

セミナーで地域と連携 顔の見える関係づくり

7月29日に第9回豊かなまち
づくりセミナーを開催し、地域

（山口）豊浦病院

（西館介護課 介護主任

畝 和男）

来年も開催できたら良いなと思いました。
が進まない入居者さんがしつかりと食べている様子を見て、面会に来ていた家族も驚いていました。



り、今年も開催することに。スイカ割りでは大きな声を出して「よいしょ」と力強くスイカをたたき姿が見られました。

スイカ割りの後、入居者さんの目の前でスイカを切って提供すると「こんな大きいスイカ見たことないわー」と驚きの声が上がっていました。また、普段あまり食事



の関係者26人が参加しました。当セミナーは2018年に開始し、現在は年3回実施。地域の医療・福祉・介護関係者と当院が「相談しやすく利用しやすい病院」として双方に連携をとり「住みやすい地域を作っていく」ことを目的としています。

今回は当院の特定看護師・久保千代美師長が講師となり「脱水対策」をテーマに講義を行いました。講義では「自宅でできる経口補水液」を実際に水に塩と砂糖

8月6日、広島は原爆投下から80年を迎えました。広島市の平和記念公園で営まれた平和記念式典には、被爆者や遺族、石破茂首相をはじめ過去最多となる120の国と地域の代表らが参列。原爆投下時刻の午前8時15分、遺族が「平和の鐘」を鳴らし、参列者全員で黙とうをささげました。



原爆犠牲者の供養に 千羽鶴を献納

（看護師長 松岡一子）

を溶かして作成。好みでレモンや蜂蜜を混ぜ試飲してもらった。「レモンを入れると飲みやすい」「蜂蜜はちょっと甘い」との声も。「トイレが気になるからと水分を取ってくれない」など、参加者からは困りごとや挙げられ、特定看護師が回答する場面もありました。

当荘がある坂町小屋浦地区でも、原爆投下後に設置された臨時救護所で亡くなられた多くの方の供養のため、平和記念式典と同時に原爆犠牲者追悼慰霊式典が開催されています。この式典には毎年、広島県済生会から特養たかね荘施設長らが参列する他、老健はまな荘・特養たかね荘の利用者さんや職員が折った千羽鶴を献納しています。被爆80年の節目の年に、坂町小屋浦と原爆の関わりを考える機会となりました。

（済生記者 佐藤 聡）

充実のメディカルラリー 子どもたちに多くの刺激

岡山済生会総合病院

6月28日、第9回岡山済生会子どもメディカルラリーを開催しました。

今年も3人1組で12チームを募集したところ、定員を超える応募があり、抽選で参加チームを決めました。抽選にもれたチームのうち希望のあった2チームには、午後からBLS講習を行いました。

当日は、午前は心肺蘇生やAED操作、災害時の行動について講義と演習で学び、午後は四つのシナリオステーションと三つのサービステーションで、応急処置や避難行動、医療機器の操作、クイズなどに取り組みました。

今年は映像を用いた通報システム「Live119」体験を新たに導入。子どもたちはスマートフォンを操作し、リアルな救急対応を実感していました。また、岡山市消防局の協力により、特殊車両展示や起震車体験なども実施しました。

（済生記者 高畑貴子）



「滋賀」看護小規模多機能型 居宅介護事業所などでしこ草津 買い物レクでスーパーへ セルフレジにも挑戦！

6月に「おつかいをしよう！」と題して、買い物レクリエーションを5回開催しました。

参加者は合計14人。家族に「おつかいのお願い」を書いてもらい、利用者さんが頼まれた品物を自分で選んで購入しました。慣れ親しんだ地域のスーパーへ出かけ、家族と合流して一緒に買い物を楽しむ姿も見られました。

普段なかなか買い物に行けない利用者さんにも「楽しかった」と笑顔で話し、昔好きだったお菓子や家族の好きな品を選ぶ姿



に、心が温まりました。中にはセルフレジに挑戦した人もいて、新しい体験が刺激となったようです。「また行きたい！」という声も多く、皆さんの意欲向上につながる素敵な時間となりました。

（看護係長 大平亜紗美）

こんな大きいスイカ 見たことないわー！

7月24日、西館各階でスイカ割りを行ない、入居者さん50人が参加しました。

入居者さんから「またスイカが食べたい。スイカ割り楽しかった！」といった声が多く上が



topics

「山形」特養ながまち荘 けあらーずカフェで 地域の介護者と交流

7月22日、地区のコミュニティセンターで地区住民を対象とした介護者交流のつどい「けあらーずカフェながまち」を開催しました。カフェには住民17人のほか、社会福祉協議会の生活支援コーディネーター1人、当荘からは職員9人が参加。



前半は、からだ元氣治療院の鍼灸師や指圧師の方から「気持ちよく楽になるツボ押し健康講座」について実践を交えながら講話があり、後半には交流の時間を設け、自身の介護体験や要介護状態にならないように気を付けていることなど、さまざまな話を聞くことができました。

会終了後のアンケートには「楽しいひとときを過ごすことができました。話を聞くことができてよかった。」といった声が多く聞かれました。また、地域の方との交流ができたこと、スタッフの対応がよかったこと、など多くの声がありました。

静岡市心身障害児 福祉センターいこいの家 51歳の誕生日とプール開き

7月1日、当施設は51歳の誕生日を迎えました。オリジナルソング「ひまわり



の成長を応援していきたいと思っています。

同じ日にプール開きも実施。水の星から水の神様（ギャルめの妖精）が来てくれ、魔法で清い水を出し、子どもたちにかけてくれました。皆が安全に楽しく水遊びができますようにと願いを込めて。

まだまだ暑い日が続きます。

（済生記者 齊藤知夏）

「愛媛」松山病院 パーキンソン病治療で 症例登録数全国上位に

当院脳神経内科では8月現在、



3件の治験を実施中です。そのうち進行期パーキンソン病を対象とした治験では、全国的に「L-DOPA」解析（心電図評価）対象者の症例確保が難しい中、当院は全国でも1・2位を争う症例登録数を達成しました。

この実績が評価され、依頼者であるキッセイ薬品工業株式会社から、責任医師の矢部勇人医師と担当治験コーディネーター（筆者）に感謝状が贈られました。

当院の治験外来は2診体制で、採血や心電図も治験外来内で完結できる環境を整えています。治験に関わる医師や関連部署の協力と、こうした体制が成果につながりました。

（治験コーディネーター

渡邊 歩）

「茨城」水戸済生会総合病院 救急のエッセンスを体験

7月12・13日の2日間、第24



回水戸医学生セミナーを開催し、全国から医学生13人が参加しました。

セミナーの目的は、救急における迅速な初期対応の重要性を理解すること。1日目は外傷患者の初期診療や多数傷病者対応などに関する講義や実技研修、2日目は三つのステージに分かれてメデイカルラリーを行いました。

メデイカルラリーで医学生たちは戸惑いながらも難しいステージに対応。終了後には「前回に引き続き参加したが、新たな課題が見つかった」「いざとなると思っていたように動けなくて悔しい」といった感想が聞かれました。

セミナーを主催した臨床研修センター長の千葉義郎医師は「初期研修医が教える側になることで日常診療を振り返る機会になっており、研修医にとって大切なイベントになっている」と語りました。

（済生記者 今野正俊）

WEB掲載はじまりました！

済生会 topics WEB

機関誌「済生」に投稿された topics から厳選した記事を発信中！

<https://www.saiseikai.or.jp/topics/>

セキュリティ対策と業務負担軽減に注力

7月19日から21日の連休を利用し、新たにクラウド版の電子カルテシステムを導入しました。近年の医療機関を狙ったハッキング事件などの犯罪件数増加を踏まえたセキュリティ対策強化の一環で、患者情報などをより確実に管理することも可能となりました。

さらに、8月4日にはバイタルサイン測定システムを導入。これは、看護師が従来手作業で行なっていたバイタル測定記録を電子化し、データの記録漏れや転記ミスを防ぐためのものです。

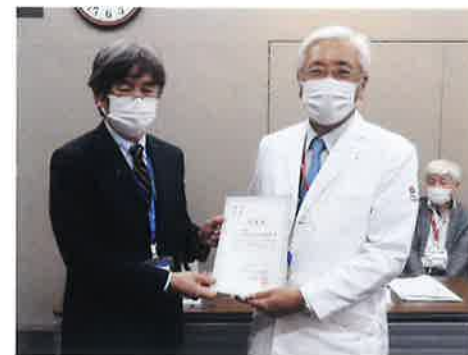
バイタルサイン測定システム導入後、看護師から「記録ミスの不安から解放された」「病室とナースステーションを往復する回数が減った」といった声が寄せられています。業務負担の大幅な軽減

6月10日、NPO法人卒業臨床研修評価機構（JCCEP）による臨床研修評価の訪問調査を受審しました。JCCEPでは2年ごとの書面調査に加え、原則4年ごとに訪問審査を実施しています。当院では2013年の初回認定以来、途切れることなく更新を継続しており、今年は4回目の訪問審査にあたります。

研修医が安心して学べる環境づくり



（茨城）神栖済生会病院
により、看護職員の離職防止や新入職員の採用増加につながることを期待しています。
（済生記者 江口裕紀）



今回の訪問調査は、研修のプログラム責任者が風巻拓臨床研修医室長になってから初めての実施となりました。副プログラム責任者の馬場毅医師研修センター長、比嘉眞理子専攻医研修室長をはじめ、関係スタッフが一丸となり準備・対応に尽力した結果、2年間の認定継続が正式に認められました。

今後も、研修医が安心して学べる環境づくりを推進し、良質な医療人育成に尽力します。
（臨床研修医室 相澤康恵）

未来の看護師を後押し

7月30日、岩手県看護協会主催の「看護職を目指す中学生・高校生・」

高校生等の進学セミナー」が北上市で開催され、県南地方から27人の学生が参加しました。当院からは佐々木小梅看護師が登壇し、看護師を志したきっかけや仕事のやりがい、目指す看護師像などについて発表。現場での体験を交えながら、看護のやりがいや人とのつながりの



大切さを伝え、参加者の心温かく響くメッセージとなりました。

後半の質疑応答の時間では、一人ひとりの質問に丁寧に回答した佐々木看護師。「自分の経

験を伝えることで、参加者たちが看護師への道を進む一助となれたら」と語る姿が印象的でした。参加者からは「将来のイメージが湧いた」といった前向きな感想が寄せられました。
（広報企画室主任 岩城 達）

リアルな医療体験で医療現場を肌で感じる

8月2日、今治西高校の生徒33人を対象に病院見学会を開催しました。医療に貢献する人材育成を目的とし、今年で10回目を迎えます。見学会では手術室、



超音波検査、内視鏡検査、検査部、薬剤部、放射線部の6セクションに分かれて体験。手術室では鶏肉を使った電気メス体験や、腫瘍に見立てたグミの切除など、よりリアルな医療体験を実施しました。

その後は9職種のブースで質疑応答を行いました。

生徒から「普段触れることのできない内視鏡器具や手術器具を触ることができ、働くことへの実感が湧いた」「専門職から職業選択のきっかけ・やりがいを聞くことができ改めて医療職に興味を湧いた」という言葉もあり、医療現場の雰囲気や肌で感じる貴重な機会となったように感じます。
（総合医療支援室 課長 阿部祥一朗）

居住支援って？事例と課題を共有

6月4日、当院講堂で今年度第1回の「生活困窮者支援ネットワーク協議会」を開催。行政、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、NPO法人などから62人が参加しました。



今年度のテーマは「居住支援」です。近年、高齢化や持ち家率の低下に伴い、住まいの確保に課題を抱える人が増え、市周辺の支援機関でも関心が高まっています。

当日は、埼玉県都市整備部の西川旭さんが、今年度改正予定の「住宅セーフティネット法」について講義、居住支援法人「ピュアホームズ」志村育子さんが実際の支援事例を紹介しました。



〔静岡〕川奈臨海学園
大相撲体験で笑顔満開！

8月2日、川奈臨海学園で「夏休み大相撲体験」が開催されました。株式会社日本道の山近義幸代表からのお誘いを受け、小学生から高校生までの14人が参加。特別ゲストとして中村部屋から中村親方、西御許関、加藤関が来園し、子どもたちに相撲の魅力をつつりと伝えてくれました。

参加した子どもたちは、四股やすり足、ぶつかり稽古など、力士の基本動作を実際に体験。特にぶつかり稽古では、大きな力士に果敢に挑む子どもたちの姿が印象的で、会場は笑顔と歓声に包まれました。



間近で見る力士の迫力に驚きながらも「また一緒に稽古したい！」という声が多く聞かれ、相撲への興味と親しみがぐっと深まったようです。

1日限りのお相撲さん体験を通じて、子どもたちの笑顔が当園を明るく照らしました。

（済生記者 鈴木一丈）

〔栃木〕宇都宮病院
「命を守る」思いを伝える
ドクターカー見学会

8月9日、作新学院高等学校の「医学探究チーム」に所属する生徒約40人が来院し、救急医



療について学びを深めました。救急救急センター長・小倉崇

に誠実に努めます。
（事務部長付課長補佐
加古川昌憲）



救命処置の機器や通信設備を間近で確認しました。

生徒からは「自分にもできることがあると感じた」「医療の道に進みたい思いが強くなった」との声が寄せられました。地域と共に命を守る取り組みを、次世代にもしっかりと伝える良い機会となりました。

（済生記者 川原彩花）

〔奈良〕中和病院
慰霊祭で故人・遺族に感謝

7月5日、当院で亡くなった方々の御霊をしのぶ慰霊祭を執り行ないました。

本年度はご遺族の列席はあり

ませんでした。当院から中島祥介病院長をはじめ関係者38人が参加し、令和2年度から6年度までに病理解剖を行なった3人の故人に、心より哀悼の意を捧げました。

冒頭、中島病院長が、医学・医療の発展のために解剖にご協力くださった故人と、その遺志を尊重していただいた遺族の方々へ、深い感謝を伝える旨の挨拶をしました。

その後全員で黙祷を捧げ、祭壇に献花を行ない、手を合わせました。

故人および遺族のご厚意に深く感謝申し上げるとともに、その尊い遺志を胸に、今後の医療

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介しします

医療的ケア児（者）を
地域で支える仕組みが重要

（山口）豊浦病院
山本看護部長・岩本看護部長

隔月刊「地域連携 入退院と在宅支援」2025年7・8月号（日経研出版）の特集「医療的ケア児と家族を支える地域連携・多職種連携」に、筆者と岩本なお子看護部長が「医療

的ケア児と家族を支える地域連携・サポートの取り組み」をテーマに寄稿した。

記事では、医療的ケア児（者）のレスパイト入院を受け入れるまでの過程や事例、工夫を紹介。レスパイトは多職種連携と地域医療連携で成り立つと考えている。

先の課題は医療的ケア児（者）の



筆者（左）、岩本なお子看護部長

家族の高齢化で、兄のケアが家族だけでは難しくなる時がやってくる。そのため、地域全体で支えていく仕



組みが重要である。筆者らは、済生会の使命の一つでもある「誰一人取りこぼさない」ソーシャルインクルージョンにこれからも取り組んでいく。

（看護部長 山本真依子）

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

スズメバチご一行様……

派手にやりすぎでは？

はまなす農園そらしぐの初収穫の記事（P46参照）に「スズメバチが現われて、収穫前のブルーベリーをおいしそうに食べている」という



記事を書いてから時がたち……。農園長の本間勝利事務長が駆除するためのトラップなどを畑のあちこちに仕掛けているものの追い付かず、今年のブルーベリーの収穫はほぼ絶望的という悲惨な状況に（涙）。イメージ的には、我々人間による「○○の食べ放題」の制限時間後のテーブルの状態（笑）を想像していただければ。

8月末には小学生がジャガイモの収穫に来ます。それまでにはなんとか無銭飲食のスズメバチご一行様の

逮捕（捕獲）をしなければ。命がけになりますが……。

（北海道・小樽老健はまなす

★子どもたちが安心してジャガイモの収穫ができるよう命がけの逮捕（捕獲）！ お願いします。

（本部広報課 大嶋 薫）

由緒あるシルクフラワー

このたび、〈大阪〉千里病院で大変おめでたい品物が見つかりました。

かつて看護部が使っていた部屋を別の用途で使用する事となり、以前から室内にあったシルクフラワー（造花）の整理を検討していたところ、職員の一部が「これは由緒あるもの



と聞いたことがある」と話したことから、当院の初代看護部長に確認し、思いがけない事実が判明しました。

なんとこのシルクフラワーは、当院が2006年に新築された際に、当時の済生会総裁であられた寛仁親王の妃である信子様からいただいたお祝いの品である、とのことでした。現在シルクフラワーはケースを丁寧に磨き上げ、院長室で大切に飾られています。

（大阪・千里病院

済生記者 二階堂潤江）

★病院にいろいろと安らぎをもたらしてくれる美しい花々。患者さんや職員の心を和ませてくれます。

（本部広報課 河内淳史）

編み物でリアルさいせい！

〈広島〉特養たかね荘こやうらの元パート職員、新矢澄子さんが得意の手芸を生かして、とてもリアルな「さいせい」を作ってくださいました。

新矢さんは在職中からムーミンとその仲間たち、各年の干支などさまざまな作品を制作。利用者さんにも大変喜ばれ、作品を見た方からは「とてもよくできている」「どこへ行けば買えますか」などの問い合わせが来ることも。また、役場や郵便局などにも作品が展示されており、地域ではちょっとした有名人です。

今回の「さいせい」は、前から見たときのハート型、チャームポイントのまん丸しっぽと、とても緻密に表現されており、その完成度の高さには職員も皆ビックリです。

実物は当施設1階事務室をはじめ、済生会本部、呉病院、広島病院、



老健はまなす、特養たかね荘でもご覧になれます。

（広島・特養たかね荘こやうら

済生記者 佐藤 聡）

★さいせいの愛くるしさがばっちり表現されていて、感動しました！ ありがとうございます。

（本部広報課 杉山菜央）

元パート職員が毛糸で編んだ手作り「さいせい」

7月22日に〈広島〉特養たかね荘こやうらから荷物が届きました。差出人は同施設の済生記者・佐藤聡さん。中には毛糸で編んだ15センチほ

どの「さいせい」が入っていました。

「毛糸で編んださまざまな作品を当施設に送ってくれる元パート職員がいる」と、佐藤さんから本部に連絡があったのが6月下旬。以前、本誌に掲載された、〈愛媛〉老健にぎたつ苑の利用者さんがアマビエの人形を本部に贈ったという記事を思い出



し、作品を送ってくれたとのこと。

済生会のマスコットキャラクター「さいせい」の青と緑のラインは「済生会」と「ソーシャルインクルージョン」の二つの「S」が交わり、ハートを形成しています。皆さんもどこかで「さいせい」を見つけたら、機関誌「済生」に情報をお寄せください。

（本部広報課 河内淳史）

ツバメの巣を見守る

7月7日、〈三重〉松阪総合病院のエントランスの見つけづらい場所にツバメの巣ができていると患者さんが教えてくれました。

エントランスは人通りの多い場所ということもあり、ふん害や羽毛などの対応に悩みましたが、「保護」「見守り」の姿勢で職員が急ぎ対応しました。

ツバメの巣の近くに「ツバメの巣があります」と英語も併記して掲示し、注意を促しました。何気なく通行していただけない場所なので、その下には三角コーンと箱を置いてふん害対策を行ないました。対策を行なう間にも親ツバメが忙しくひなのお世話をしています。

あれから1カ月が経過し、もう巣にはひなの姿も、親の姿もありません。ひなが無事に巣立っていったこ



とを祈っています。

（三重・松阪総合病院

済生記者 岩崎貴穂）

★とかく面倒なことを回避しがちな世相の中、温かな姿勢で即応できるのは日頃の心持ちの賜物ですね。

（メディカル・リーフ 吉村垂矢）

草刈り隊が久々の出動！

7月19日、〈石川〉金沢病院の有志職員とその家族30人余りが参加し、早朝6時から敷地内の草刈りを行いました。

草刈りはコロナ禍前に2〜3回実施しましたが、感染防止のため一時休止に。職員から「またやりましょう」と声が上がリ、今回は数年ぶりの実施となりました。

当日は朝から厳しい暑さとなりましたが、全員で約1時間30分ほど作業を行いました。これまで除草が行き届かなかった箇所も整備できたため、清々しい気持ちでいっぱいです。参加者も「草が目立って気になっ



ていたところもきれいになった」と充実した表情を見せていました。

除草ですっきりした当院の外観は患者さんからも好評です。

（石川・金沢病院 総務課

吉村英士）

★草刈り後の匂いが好きです。調べてみるとその正体は「植物が虫の攻撃に備える警告物質」でした……。

（メディカル・リーフ 岩谷純一）

デイで焼き肉！

北海道と言え……

8月7日、今年もこの季節がやってきました……デイ恒例の焼き肉！ 昨年は牛肉・豚肉など複数のお肉を用意しましたが、今回はジンギスカンのみ！ 振替や臨時も含めて37人

の利用者さんと楽しみました！

午前中から準備を進めていると、ダイルムの窓から見える「はまなす農園」のピーマンが大きくなっていてちょうど食べ頃……。さつそく収穫してジジスカンと一緒に焼いて食べることに！ ピーマンの他にも玉ねぎやキャベツなども切って準備完了。

いよいよ焼き肉の開始。いっぱい食べて、その後は緑日ゲームの輪投げと射的でたくさん遊んで、とっても楽しい一日でした。「おなかいっぱい食べた」。1年分くらい食べたよ！」なんて声も聞かれていました。（北海道・小樽老健はまなす 済生記者 伝法俊和）



ぷりでヘルシー！
（メディカル・リリーフ 坂本陽子）

稲賀名蒼院長が卓球大会で見事優勝！
稲賀名蒼院長は（鳥取）境港総合病院の卓球同好会の現役選手です。



5月18日、東京都内で開催された「第40回全日本医師卓球大会」セブンティの部で稲賀選手が優勝を飾りました。

この大会は全日本医師卓球連盟が主催し、卓球をこよなく愛する医師約190人が出場。今回、セブンティの部に出場した稲賀選手は70代前半の医師たちと熱戦を展開、1日で5試合をこなし、見事に栄冠をつかみました。ちなみに稲賀選手は、過去にフィフティの部でも優勝経験があ

ります。

現在は週に2回、自宅近くの公民館で練習に励んでいるそうです。9月14日には東京で開催される東日本医師卓球大会に初参戦の予定。今後、全国各地で熱い戦いを繰り広げることでしょう。

（鳥取・境港総合病院

済生記者 亀尾美子）

★情熱と挑戦を忘れないこともすごいですが、1日5試合をこなす体力はハンパない！

（本部広報課長 河内淳史）



薬と笑顔を届けに！

筆者は7月15～17日の3日間、〈愛媛〉松山病院と今治病院、西条病院の3病院合同で行なう宇和海合同診療に初めて参加しました。

3日間で島民15人に投薬を行な

い、公民館や学校といった普段とは異なる環境での業務に新鮮さを感じました。

診療班の中で薬剤師は私一人でしたが、病院での服薬指導業務の経験を生かしながら処方薬の説明などができました。特に湿布薬の処方が多かったのですが、湿布薬で皮膚がかぶれた際の対処方法などを伝えました。また、他職種・他院の方々と意見交換をしながら交流を深めることができたことも良い経験となりました。

今回得た知識・経験を普段の業務にも生かし、患者さんのより良い治療につながるよう今後も励んでいき



たいです。

（愛媛・松山病院 薬剤部

武田慎平）

★貴重な経験を今後に生かす姿勢、素晴らしいです！ 今後のご活躍も応援しています。

（本部広報課 杉山菜央）



ケアポート栗東の夜空に

花火が打ち上がりました

滋賀県の夏といえば琵琶湖の花火大会が有名ですが、残念ながら、ここ〈滋賀〉ケアポート栗東からは花火の音しか届きません。

そこで、利用者の皆さんに少しでも夏を感じてもらおうと、当施設でも「花火の打ち上げ」を計画！ 折り紙を折る、糊で張り合わせるなど、7月下旬から花火作りを開始しまし



皆さんに琵琶湖花火の思い出を尋ねると「家から見ていた」「テレビ中継で見ていた」とそれぞれの楽しみ方がありました。中には「打ち上げ場所の近くに住んでいて、空一面に花火が上がって綺麗だったけど、火の粉が飛んできそうでヒヤヒヤした」といったエピソードも。

約15人で2週間ほどかけて出来上がった花火は、本家に負けないくらいに華やかで、当施設にも火の粉が降ってきそうなほどでした。

（滋賀・老健ケアポート栗東

作業療法士 本間めぐみ）

★色とりどりの花火がたくさん浮か

次号予告

済生 No.1156
[令和7年10月号]

済生会の不易流行論 (205) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人

高田聖子

口福にっぽん (97)

てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

株式会社日立システムズ
——表紙見返し[表紙2]

んでいて大迫力！ 一瞬で消えず、いつまでも眺められますね。

（大空出版 田中十和子）

入所者さんが笑顔で穏やかに過ごせるように

私は愛知県三河青い鳥医療療育センターに保育士として勤務し4年目で、重症心身障害児・者が入所している部署に所属しています。

当センターでの保育士の役割は、入所者さんの気持ちに寄り添いながら「できた」や「楽しい」を積み重



納涼祭の様子(野口さん)



支援の糸口を、私たちから

生きづらさを抱える若者を支える福井の力

福井県済生会では、その事業活動を通じて、生きづらさを抱えながら相談先や居場所が見つからない、制度の狭間で支援が受けられていない若い女性や子どもたちに出会ってきました。そこで、このシンポジウムでは、こうした問題を抱えた方々を支援している民間団体の活動や行政の支援施策を紹介し、自ら声を上げることが困難な女性や子どもたちをどのように支援につなげるとよいのか、などについて話し合う場にしたいと考えています。

日時 2025年 10月18日 土 13:00～16:00 (12:30 開場)

場所 福井県済生会病院 本館 2階 研修講堂 (〒918-8503 福井市和田中町舟橋7-1)

申込 右の申し込みフォームよりお申込み下さい。 FAX・メールでのお申し込みも可能です。 詳細は福井県済生会病院ホームページをご覧ください。

入場無料

定員 200名

どなたでもご参加いただけます (当日参加可)

Forms 申込み フォーム▶



基調講演

生きづらさを抱える若い女性や子どもたちを地域で支えるために私たちができること

(一社) 社会的養育地域支援ネットワーク・代表理事 橋本 達昌氏

パネルディスカッション

●コーディネーター (一社) 社会的養育地域支援ネットワーク・代表理事 橋本 達昌氏

こども・若者の支援の入り口をひらく 行政の取り組みと課題

福井県健康福祉部児童家庭課長 藤原 美由紀氏

様々な問題を抱える若者を支援する 活動について

(一社) ラシーヌ・代表理事 端 将一郎氏

当事者として考える、生きづらさを抱える若者への支援について

ケアリーバー (社会的養育経験者) 板谷 ゆり氏

誰にも言えない苦しみに寄り添う ～性暴力救済センター・ふくい「ひなぎく」の取り組み～

福井県済生会病院 公認心理師・臨床心理士 車屋 知美

橋本 達昌氏 プロフィール

昭和41(1966)年福井県武生市(現・越前市)出身。これまで全国児童家庭支援センター協議会会長、厚生労働省社会保障審議会社会的養育専門委員会委員など官民の児童福祉、社会福祉関係の要職を務める。近著『社会的養育ソーシャルワークの道標』。



【主催】 社会福祉法人 福井県済生会支部 福井県済生会

【共催】 福井県

【後援】 福井県教育委員会、福井市、福井市教育委員会、福井県社会福祉協議会、福井市社会福祉協議会、福井新聞社、FBC

お問い合わせ 福井県済生会病院 よろず相談外来 TEL: 0776-23-1111 (代)

ねられるように、新たな体験と機会をつくり出すことだと思っています。

例えば今年の納涼祭では、普段スプーンを口に入れるのを嫌がる利用者さんが、かき水をおいしそうと感じてくれたのか、自らスプーンですくって口に運んでくれました。

私が特に気を付けていることは、個性と真剣に向き合った療育の提供です。他職種の方と意見交換をしつつ、皆が最高のパフォーマンスを発揮できるよう努めています。

(愛知県三河青い鳥医療療育センター 1B 病棟保育士 野口遥香)

★かき水で苦手なスプーンを克服……一人ひとりに寄り添う姿、素晴らしいです。

(本部広報課 大嶋 薫)

病院名、目立つかな？

〈東京〉向島病院では、訪問診療や訪問看護で患者さん宅を訪問する際に、白い軽自動車を使用しています。実は、昨年末に購入した当院初の病院車です(なんでもこの時、機関誌に記事を投稿しなかったらどうしようかと後悔しています……)。

この車両を使用し始めた当初は、A3サイズのマグネットシートに病院名を印刷したものを貼り付けていました。しかし、せっかく院外で活



動するのですから、もつと地域住民の方の目に留まりやすいように、病院名を大きく表示しようということになりました。

検討の結果、施工がしやすく、貼り換え時にも塗装を傷めず仕上がりがキレイな「カーフィルム」を採用、写真のような仕上がりに。どうでしょう？ しつかり目立ちますよね？

(東京・向島病院 済生記者 加藤建志)

★新たなカーフィルムで心機一転。多くの人に知ってもらえると思うと、運転中の気分もアガりますね！

(メディカル・リーフ 紫村柊斗)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、財団法人済生会を創立した。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部 東京 支部 40都道府県
病院 83
診療所 20
介護医療院 3
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 116
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 67
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 9
合計 404 (数字は令和6年度)

済生

THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年9月10日発行 通巻第1155号 (第101巻第9号)

編集兼発行人 炭谷 茂
発行所 社会福祉法人 済生会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311 (代) FAX: 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋 東京都中央区八丁堀4-4-1

© 社会福祉法人 済生会

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人 済生会となっている。

職員数は全国で約6万7000人。

団体扱自動車保険のご案内

取扱い保険会社に

\\ **三井住友海上火災** が加わりました! //

職場に入れば 選べて、おトク。

団体扱契約は
一般契約に比べて

約**5%割安**※

本制度は職員の皆さまで、
支えていただく制度です。
たくさんの方が加入することにより
割引率が拡大します。
是非、ご加入を検討ください

お見積り依頼・制度の詳細は済生会団体扱自動車保険パンフレットから
パンフレットの連絡票・保険証券(写)・車検証の3点をご用意ください▶



取扱い保険会社

● 損保ジャパン

● 東京海上日動火災

● あいおいニッセイ同和損保

● 三井住友海上火災

※団体扱分割払いは一般契約と異なり分割割増がかかりませんので、約5%割安となります。団体扱年一括払いは一般契約年一括払に比べて、5%割安となります。

●このポスターは団体扱自動車保険の概要を説明したものです。

●詳細につきましては取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

●団体扱自動車保険にご加入いただけるのは、ご契約者および被保険者が引受保険会社の定める条件を満たす場合のみとなります。

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1155

「NEWSな濟生人」
健康管理センターオープン
フロアが3倍に



9

September 2025

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



憂慮される子どもの世界

衝撃的な数字だった。7月31日、文科省が発表した2024年度実施の小中学生の学力調査の結果では、国語、算数、数学、英語すべての教科で3年前の前

回を大きく下回った。難易度などを加味して算出された各教科の平均スコアは、小

6国語489・9（21年度505・8）、中3国語499・0（5

11・7）、小6算数486・3（507・2）、中3数学503・0（511・0）、中3英語478・2（501・1）と芳しくな

かった。天然資源の乏しい日本の国力の源は、教育水準の高さである。幕末期に列強に侵略されず、明治維新後、近代国家建設に成功した最大の原因は、日本人の教育水準の高さだった。江戸時代は各藩が藩校で藩士の子弟を教育し、庶民は寺小屋で学んだ。

しかし、これが揺らぎ始めたのだ。日本の未来に暗雲が立ち込めたという歴史的な事件だと認識すべきではないか。全国紙では新型コロナウイルスの影響を挙げているものが多かったが、朝日新聞（8月1日付）で耳塚寛明・お茶の水女子大学名誉教授が次の四つの要因を指摘していたのに注目した。

①勉強時間の不足②学習指導要領にある「知識・技能」の定着不足③家庭の経済的な背景④SNSやテレビゲームなどデジタル環境の影響

私はこの四つの要因いずれにも合点がいく。それらはすべて

近年の日本の経済、社会の構造的変化と言える。新型コロナウイルスのような一時的な要因だけでない子どもはSNSやテレビゲームに使う時間が増大する反面で勉強時間が減少している。全面的なデジタル依存は思考力や知識の蓄積に悪い影響を与えないだろうか。教育先進国のフィンランドでは、デジタル重視から紙の教科書に戻す動きが伝えられる。

☆ ☆

近年、日本では貧困家庭の割合は高い。ことにひとり親家庭の貧困率は約半分である。家庭の所有書籍数と子どもの学力は、正の相関関係があるように貧困家庭の子どもは教育面で不利となる。貧困の承継につながってしまう。

済生会ではソーシャルインクルージョンの視点から埼玉県春日部市の特養「彩光苑」や「済生会長崎病院」で、ひとり親の家庭の子どもに地元の大学生の協力を得て学習指導を行なっている。子どもたちの明日への飛躍に役立てていきたいものだ。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適切に対応していかなければならない。

HITACHI
 Inspire the Next

人事給与システムが変われば、どうなる。



日立システムズはニッセイコム社製人事給与システムをご提案致します。

特長1	給与計算時のexcel管理を削減！	特長2	人事情報からの自動計算！	特長3	様々な支給形態に対応！
GrowOne 人事SX GrowOne 給与SX	各種手当や退職金の計算をシステム内で完結することで、給与計算にかかる時間数や計算ミスリスクを削減できます。	家族情報から扶養手当や年末調整を自動計算し、介護保険等の年齢による控除や手当も自動化できます。	正職員、非常勤職員や日給・時給など様々な雇用契約に応じた支給形態に対応し、職員情報から自動判定できます。		

◎ 株式会社 日立システムズ

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー
 福祉の森担当：山本
 フリーダイヤル：0120-055-294

Human * IT

topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する
記事は宝の山、原石の燐めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事を
ご紹介します。

病院探検ツアー、看護体験、スイ
カ割りなど、子どもからお年寄り
までみんなが楽しんだ夏休みイベ
ントが各地の済生会で開かれまし
た。鹿児島病院は地元小学生の錦
江湾横断遠泳に救護班として職員
が同行、父兄や地元漁協などと子
どもたちのがんばっている姿を応
援しました。

The latter half of this magazine is
covered with a rich forest of
treasurable articles.
What will you discover there?



表紙のことば

悠久の時を旅する世界最古の果物

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

神が創造した最初の人、アダムとイブは知恵の実を
食べ、身につけたのはイチジクの葉。神話の昔から
愛され大切にされてきた“世界最古の果物”イチジ
クです。エジプトやギリシャの神話にも登場します。

日本では無花果と書きますが、イチジクのたくさん
の花は果実の中。私たちが、4000年前の人も美味し
いと感じたイチジクを味わう瞬間、遙かな時と空間
を超え神話や神々と繋がっているのかもしれない。



済生

SAISEI

CONTENTS
SEPTEMBER, 2025

NEWSな済生人

健康管理センターオープン
フロアが3倍に
富山病院 院長

亀山智樹さん 06

済生会交差点

《施設間・地域の連携強化》「ほちよけびの
会」でグループの長所を強化する!／《院内
訓練でベイハラ対策》暴言・暴力から医療
従事者を守る。ペイシェントハラスメント
対策訓練／《アートでつなぐ》障害者福祉と
地域がつながるアートワークショップ 10

連載 機関誌「済生」が
創刊100年! 20

巻頭コラム 済生会の不易流行論

憂慮される子どもの世界 理事長 炭谷 茂

03

topics★コンシェル

表紙のことば 久保田真由美

05

ソーシャルインクルージョン

17

この人 田中彩子 22

口福にっぽん 吉井省一 24

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ 26

TOPICS

載々、大雑報

28

89

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

正しい情報を住民に提供、一緒になって健康リテラシーを高めたい

富山病院は予防医療をさらに推し進めようと、4月に従来の健診センターの規模を拡大する形で新たに健康管理センターを増築しました。昨今の厳しい病院経営は保険診療だけに依存しない収益確保の対策として健診センターも重要な役割を担っています。経営の安定は患者や住民に信頼される医療機関として機能を充実、発展させてい

くことで可能になります。院長の亀山智樹さんに、同センターの特徴や富山病院が地域で果たす役割について聞きました。
(福井県済生会病院 健診センター 細井貴寿彦)

富山病院 院長

亀山智樹さん

※写真撮影時のみマスクを外しています

築したのはどうしてでしょうか。
亀山 病気の発症後に介入が始まるのがこれまでの医療でした。しかし、医学の進歩とともに病気のメカニズムが明らかになるにつれ、予防医学の重要性が認識されるようになってきました。火事になってから消火するのではなく、火災報知器で煙を感じ、炎が上がる前に消す。さらには煙さえも立たないように対策をとるのが予防医学です。今後ますます重要になると考え、健診センターの規模拡大に踏み切りました。

細井 分かりやすい例えです。

亀山 具体例の一つとして、日本人に多かった胃がんは遺伝子異常が原因とされてきましたが、近年、ヘリコバクター・ピロリ、



富山病院本館(左)と健診センター。受け入れ人数は1.5倍の年間1万3000人を見込んでいる



左はインタビューの細井さん

いわゆるピロリ菌の長期感染により炎症が引き起こされることが分かっています。ところが、このピロリ菌は感染しても自覚症状がほとんどありません。健診などでピロリ菌検査をして、早期に除菌治療を行うことで、将来の胃がん発症を予防できるのです。

細井 病気を治す以前に、病気になるのを予防することが健康を保つために重要になってくるんですね。

亀山 さらに、年をとっても元気であるためには、病気の予防に加え体力の維持が必要です。栄養管理や運動指導など、医師以外の医療者も加わって、より早期から適切に介入することが求められています。そうしたことも積極的に行なっていくと、地域住民向け講座などの実施に適したセミナ



“ゆとりと温もり”のある空間をコンセプトにしており内装は富山県産の木材を取り入れ温かみのあるデザインとなっている

ー室も設けました。

受診しやすさ、安心感を追求

細井 健康管理センターのサービス内容について教えてください。

亀山 法定健診やがん・心臓・脳などの専門ドックを中心に、受診指導、健康増進啓発などを行なっています。電子カルテシステム、胸部X線、超音波診断装置、心電計のほか、眼科関連や聴力、腹囲などの検査機器を新たに導入し、病院に備わっているマンモグラフィー、スパイロメーターを健診受診者も利用できるような動線を整備し



FMとやまで毎週金曜日午後1時に放送されている「気ままプラン」という番組のコーナー「教えて! 済生会病院」では富山病院の紹介や、元気で長生きするためのヒントなどを話している

誰もが安心して利用できる施設として
動線を重視し、ゆとりと温もりの空間づくり

伝子検査を導入して、自分の体質を知ること
で病気を予防するオーダーメイドの健診
ができるようになることを期待しています。

「健康リテラシー」向上を期待

細井 地域に済生会をもっと知ってもらう
ためにどのような活動をしていますか。
亀山 病院や医療者をもっと身近に感じて
もらうためには、病院側から地域にアプ
ローチしていく必要があります。当院では、
毎年「人生100年時代 健康寿命を伸ば
そう」(看護支援週間)や「高校生の1
日看護見学」などのイベントを院内で開催
しています。



富山交通との連携協定では互いの強みを生かした取り組みを実施、職
員が働きやすい職場づくりを一緒になって目指している【上】2023年
2月の協定調印式【下】連携の一環として、富山交通社員が講師となって、
富山病院の職員向けに安全運転研修が行なわれた



市民公開講座では脳卒中や心臓病の予防法
の解説や、多職種による健康相談、血管年齢
測定などを実施している



高校生の看護体験。医療に対する理解を深めるだけでなく、思いやり
や命の大切さも実感することができる

ています。また、近隣のホテルの協力を得
て一泊ドックも可能になりました。

細井 充実した設備・サービスですね。

亀山 スタッフは医師5人、保健師3人、
看護師4人、臨床検査技師4人、事務員10

細井 日頃から住民との距離感を縮め、気
軽に来てもらえる関係づくりを構築するこ
とは大切ですね。

亀山 院外の活動では、例えば、県内のタ
クシー会社と「健康増進にかかる連携協定」
を結んでいます。当院がタクシー乗務員を
対象にした定期健診、各種専門ドックによ
る病気の早期発見・治療の促進、さらに健
康増進のためのセミナーなど各種イベント
を開催し、タクシー会社には、当院のマイ
カー通勤者向けに交通安全セミナー研修や、
新入職員向けに社会人としての自覚や安全
運転の意識を高めるための研修などを開催
してもらっています。

細井 それぞれの専門
分野を生かした連携は、
双方にとつてのメリッ
トを感じます。

亀山 セミナーや講演
会には私も循環器内科
の医師として足を運び、
高血圧や心臓病の話
をします。最近、注目されている病気の一つ
に睡眠時無呼吸症候群がありますが、病
気に気づくためのポイントを解説したり、検
査や治療について紹介したりして、ドライ
バーの安全運転の支援に努めています。

【取材を終えて】

取材を通じて、新施設が地域や組織にも
たらす大きな可能性を実感しました。充実
したサービス、受診者の動線、職員の働く
環境、富山の魅力、全て兼ね備えていること



細井 健診や健康増進のための情報発信を
積極的に行なうことで、最近よく言われる
「健康リテラシー」の向上が期待できますね。

亀山 「生兵法は大怪我のもと(中途半端な
知識に頼ると失敗する)」ということわざ
がありますが、それを教訓とするのか、何
事も専門家に任せようが安全と考える、治
療方針や健康管理を医者まかせにする人が
まだまだ多いように感じます。その結果、
健康に関する知識の習得、自己管理に後ろ
向きになります。これを改善するには「生
兵法」ではなく正しい兵法(情報)を提供
する必要があります。

細井 病院だけでなく、
地域でも、インターネ
ット上でも、正しい知
識を提供していくこと
が重要だと思います。

亀山 その通りです。
住民の健康リテラシー
が向上すれば、同セン
ターの受診者数も増加
していくと思います。今後はこれまで健診
を受ける機会が少なかった若年層、女性が
自らの判断で自分に合った健診を受けられ
るような仕組みをつくっていきたいと考え
ています。

に感激しました。現場の皆さんの熱意や取
り組みが記事を通じて多くの方に届き、自
然溢れる富山の魅力がより広がり、親しま
れることを期待しています。(細井貴寿奈)

人。医師は内科医3人、乳腺外科医1人、
脳外科医1人で、病院の専門科とも連携し
ています。

細井 玄関から一歩中に入ると、柔らかな
空気に囲まれ、木の椅子やテーブルなど、
とても居心地の良い雰囲気があります。

亀山 富山は立山連峰、富山湾など雄大な
自然に囲まれ、また、広大な農地に民家が
散在する散居村などもあるユニークな土地
柄です。富山の自然がもたらしてくれる恩
恵を生かし、ゆとりと温もりを大切にした
空間にするためにイン
テリアには県産の木材
を随所に使っています。

細井 なるほど、この
地域ならではのおお
かさの演出でもあるの
ですね。

亀山 健診センターに
は健康な人が検査を受
けに来ますが、健診で
病気が見つかるのではないかと心配する方
もいます。また、採血、胃カメラなど苦痛
を伴う検査もあります。そういった不安を
少しでも和らげることができるのではない
かと思っています。

細井 設計の上で特にこだわったことはあ
りますか。

亀山 受診者の動線には気を配りました。
受診者が各検査室に行き来する負担を軽減
するために、胸部X線、眼底・眼圧、乳腺・
腹部エコー、マンモグラフィなどの各検



査を1階と2階に集めて効率良く検査が受
けられるようにしました。また、女性に安
心して検査を受けてもらうために、婦人科
検診や大腸内視鏡といった検査は看護師
臨床検査技師などスタッフをすべて女性に
するという体制を整えています。

細井 福井県済生会病院でも、女性検診は
女性しか入れないような場を設けています。

亀山 女性にとってデリケートな検査など
に、受診しやすい環境づくりは大切です。

細井 ゆとりと温もりがコンセプトの同セ
ンターは、スタッフに
とっても働きやすいの
では。

亀山 4階の職員用休
憩スペースは、アロマ
が漂い、気持ち落ち
着く空間です。ひとと
きリラックスできるよ
うに、コーヒーマシン
も設置しました。男女
別の仮眠室は木造で、短時間横になるだけ
でもリフレッシュできるように工夫してあ
ります。

細井 日頃患者さんを診察していて、もっ
と早く健診を受けてもらえていたらと感じ
ることはありますか。

亀山 よくあります。健診を受けたことで
病気が早く見つかった、あるいは病気の芽
を摘んで健康を維持できたケースを多くの
人に知ってもらい、健康な人が健診を受け
る動機づけになればと思います。将来は遺



【②】【老健ケアホーム三条】相談員が介護度認定調査において市の調査員と入所者家族と面談



【③】【特養長和園】入所者の血圧を測定する看護師



【④】【三条訪問看護ステーション】スタッフが集まり、カードゲームを使い人生会議（ACP）を行なう

これらの活動を通じて相互の
内情が分かるようになり、また
顔見知りもできたことで、当院
職員は入院や外来受診の際に相
談しやすくなりました。

ほちよけびから 地域全体の連携推進へ

認定看護師による施設への定期
訪問指導、レスパイトやショ
ーステイ利用を促進するための
4施設合同パンフレットの作成、
皮膚科開業医による老人性皮膚
疾患に関する勉強会などにも取
り組みました。

前。転んでからどうやって自分
で起き上がるかという視点で
ケアをしている」という発言か
ら、食事・排泄等の日常生活支

援や患者・利用者への向き合い
方がそもそも病院と施設間で大
きく異なっていることが分かり、
相互の役割や機能を理解するこ
とから始める必要があることを
認識するに至りました。

その一環として、昨年10月12
月に「その人らしさを繋ぐため
の情報共有」をテーマに、リ

ダークの
看護師、
介護士、
MSW計
10人によ
る3回の
意見交換
会、今年
1月に結
果報告会
を実施。参加した看護師・丸山
紗奈江さんからは「このような
内容で話し合う機会がこれまで
全くなかったので、他施設との

相互理解につながりました」と
の声が聞かれました。

その他、入院患者の施設入所
の可能性を検討する「入所者
選定カンファレンス」、病院の
認定看護師による施設への定期
訪問指導、レスパイトやショ
ーステイ利用を促進するための
4施設合同パンフレットの作成、
皮膚科開業医による老人性皮膚
疾患に関する勉強会などにも取
り組みました。



「ほちよけびの会」メンバーが集まって毎月の会議を実施



「ほちよけびの会」メンバー

「ほちよけびの会」でグループの 長所を強化する！



新潟県済生会三条グル
ープには医療・保健・福祉の
機能がそろっており、そう
した済生会の存在は、地域
住民の安心感につながり、
また関係機関からは地域包
括ケアシステムの中心的役
割を期待されています。し
かし、患者・利用者の連携
においては、例えば病院か
ら老健入所への受け入れ要
件が厳しく、また入所するま
でかなりの時間を要するなど、決
してスムーズとは言えない状況



筆者の池さん

では、はじめは各施設の看護の代表
者だけでスタートしましたが、
その後、MSW（済生会地域包
括ケア連携士）、入退院支援室
の看護師、病院事務部長を加え、
現在は毎月第1水曜日、11人の
メンバーが当院に集まり1時間
意見交換をしています。

老健ケアホーム三条の「け」、三
条病院の「び」をとって「ほ・
ちよけ・び」です。

発足当初の2年間は入院患者
がスムーズに施設へ入所するた
めの課題を、3年目からは視点
を変えて「在宅復帰」するため
の課題について話し合いました。
この過程で、訪問看護や施設の
メンバーの「入院中は転倒転落
しないケアを大事にしているけ
れど、在宅では転ぶのは当たり

施設利用者のために…… まずは施設間の相互理解を



【「ほちよけびの会」各施設の活動①】【三条病院】地域医療支援センターで、ほちよけびの会メンバーの看護師（左から4人目）とMSW（奥右）が、他スタッフとカンファレンスを実施

院内訓練で ペイハラ対策

福井県済生会病院

済生記者

橋本来林

暴言・暴力から医療従事者を守る ペイシエントハラスメント対策訓練

ペイシエントハラスメントは、患者やその家族が医療従事者に対して行なう暴行、脅迫、不当な要求、著しい迷惑行為などを指し、医療現場におけるカスタマーハラスメントの一種です。2019年6月に改正された「労働施策総合推進法」では、



筆者の橋本さん

事業主に対し、職場におけるパワーハラスメント防止のための雇用の管理上の措置を講じることが義務付けられています。当院の職員は、高い使命感を持って職務に当たっていますが、病



訓練で、興奮する患者に対して複数人でなだめる様子

気による苦痛から患者さんから厳しい言葉を受けることがあります。また、認知機能の低下に起因する認知症患者

さんの暴力や暴言はハラスメントと断定できない場合も多く、職員が対応に迷う場面も少なくありません。そこで当院は、職員の安全確保を目的として、昨年7月に「福井県済生会病院ペイシエントハラスメント対策指針」を制定。この指針には、暴言型や暴力型などのハラスメントに対す

各施設からもその効果を実感する声が聞かれます。訪問看護ステーションの管理者・阿部育子さんが「この会は各施設に訪問看護の現状を知ってもらえる貴重な場所となっています」と会のメリットを口にすれば、特

さんは「他施設との連絡が取りやすくなり、また感染管理認定看護師とのつながりができ、職員

円滑になりました」と施設間の連携強化を実感しています。会が発足して約5年。入院患者のスムーズな施設入所を目的に始めた会でしたが、他施設の状況が分かると同時に地域包括ケアシステムにおける病院の役割を改めて考える機会にもなり、

手ごたえを感じています。今年度からは「認知症の方への対応」をテーマに、次世代リーダーを対象とした研修会を予定しています。また、今後はグループ内だけでなく地域全体に施設間連携の推進活動を広げていきたいと考えています。



昨年11月の防犯保安研修会では「身体防護訓練の実技」などを実施



訓練前に内容や対応手順を最終確認

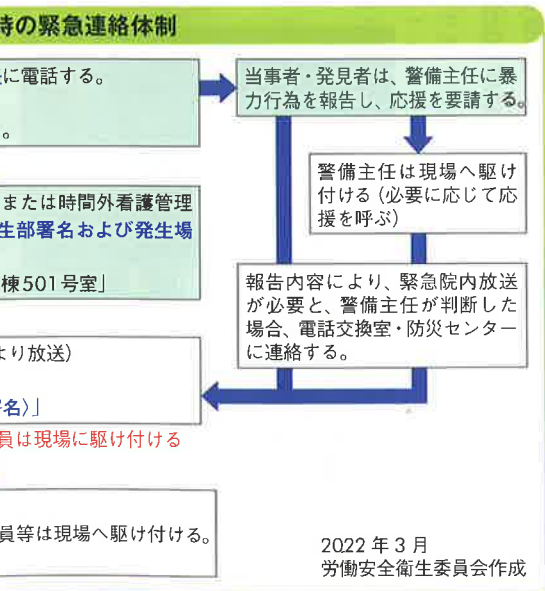


周囲の患者の安全に配慮しながら援護する看護師

る基本的な対応例を記載しています。また、職員が不当な要求や身体的・精神的暴力を受けた場合は「被害状況報告書」を提出することとしており、労働安全衛生委員会と患者サポート会議が連携して対応策を検討する体制を整えています。

書」が提出されるようになり、報告件数は増加傾向を示しています。暴れる患者にどう対応？警察と連携して院内訓練

イト研修としてペイシエントハラスメント対策訓練を実施。医師や看護師、メ



職員間の連携体制など。今年度は初めて福井警察署の協力を得て、警察との連携のもと、緊急対応の流れを再現し、職員が迅速かつ安全に対応できる体制を

確認しました。参加者からは「集まった職員への指示役を担当したが、実際に患者対応を行っていると周囲の状況把握が困難だった。各



アートで つなぐ

ひまわり事業団
それいゆ・さにい

障害者福祉と地域がつながる アートワークショップ

2026年済生会手帳の表紙は静岡市駿河区・NPO法人ひまわり事業団の利用者さんが描いた作品を採用します。同法人が運営する「それいゆ・さにい」では毎年、地域住民を施設に招き利用者・職員と一緒にアートで交流するイベントを実施

施。笑顔あふれるワークショップを取材しました。

（本部広報課 杉山菜央）

ひまわり事業団は静岡済生会総合病院のすぐ東側に位置しています。同法人は40年以上、静岡済生会総合病院の患者用駐車場の

ある方の自立や社会参加を支援します。

同じ空間での表現活動 人との関わりを知る

それいゆ・さにいでは利用者の「やりたいこと」を大切

職員の役割と動きについて事前に理解を深める必要がある「訓練後の警察からの助言（酔った者は頭を前後に振って攻撃したり、噛みついていたり、噛みついていたりする可能性があるため十分な距離を保つことなど）は大変参考になった。訓練に参加していない全職員にも共有すべき」といった意見が寄せられました。

訓練で対応力の向上と 啓発で未然防止を

実際に患者さんが暴れた場合、職員はまず自身の安全を確保しつつ、他の患者さんへの危害防止にも十分に配慮し、危険が及びそうな状況では安全な場所に誘導するなどの対応をします。自ら制圧しようと思わず、速やかに警察へ通報することが重要です。

同時に、職員間の役割分担の明確化や情報伝達体制の強化といった課題も浮き彫りに。また、全職員が共通認識を持ち、突発的な状況にも適切に対応できる力をさらに高めていくことが求められます。



誘導や駐車料金回収等の業務を受託しています。

そのひまわり事業団では7月31日にアートワークショップ「7・31 in Wonderland 日常」を開催。就労継続支援B型事業所「それいゆ・さにい」と生活介護「さにい」の利用者さん35人、地域の子どもなど約30人が参加しました。

にしたアート活動を2018年から実施。施設の活動を地域住民に知ってもらうため、毎年冬にワークショップを実施していますが、今回は初めての夏に開催しました。

福祉施設に地域の人たちが足を運び、同じ空間の中で表現活動を楽しむこと。参加者は子どもだけでなく、地元大学の学生・教授などさまざまです。それいゆ・さにいの利用者さんは表現活動を通じて幅広い年齢・属



暴れる患者役を演じた警察官（右から2人目）や警備主任からの講話などで訓練を振り返った

地域住民の生活園を訪問し無料健診 アウトリーチの大切さを実感



〈三重〉松阪総合病院

6月21日、飯南ふれあいセンターで「飯南地区住民健診」を開催し、地域住民36人が来場しました。この健診は、医療を受けにくい状況にある地域住民を対象に無料で実施しています。当日は医師や看護師など総勢20人のスタッフが訪問。循環器

内科・澤井俊樹部長が心疾患について健康講座を行いました。また、腹部超音波検査等の検査、清水敦哉・当時院長（現緩和ケア科センター長）など医師4人による総合診療のほか、医師・看護師・管理栄養士による健康相談が行なわれました。

地域住民の方々の生活園を訪問したことで、近い距離感の中で話しやすい関係を築くことができ、また健康相談も多岐にわたる内容になりました。地域に出向くアウトリーチの大切さを実感できました。

（医療相談室主任 社会福祉士 牛場智也）

山口市中央地域包括支援センター

生活再建に向けた協働支援 ふくまる相談室が新聞で紹介

山口市からの受託事業「まちの相談室（通称、ふくまる相談

室）」の活動が、7月11日付の朝日新聞で紹介されました。今回取材を受けたのは、相談員の岡村僚太さんです。記事では、A 刑務所から事前に相談のあったBさんへの支援について取り上げられました。Bさんは家族とも疎遠になり、将来への不安から窃盗を繰り返すなどの問題に加え、住まいにはごみを溜め込んでしまうなど、複雑な課題を抱えていました。

こうした状況を受けて、通常の支援の枠組みだけでは解決が



岡村僚太さん

難しいと判断。済生会地域包括ケア連携士も支援に加わり、生活再建に向けた協働支援を行なっています。

記事は、参議院選挙を前に「地域の声」に焦点を当てたもので、こうした取材を通じて、暮らしの現場の声が候補者や政党に届き、国の政策に反映されること

（センター長 光永聡子）

ソーシャルインクルージョン

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。だれも排除されないまちづくりを目指し、全支部・施設が1800の事業を展開します。



静岡済生会総合病院の済生会フェアで開催したワークショップの様子

性の人と出会い、人と関わって生きていくことを知ることができ、自身の作品にも影響されます。参加した子どもたちは、学校での図画工作や美術の授業とは違う表現の場を楽しむことができました。参加者皆で段ボールに大きな絵を描いたり、クレヨンやマジック、筆等を使って造形遊びに挑戦。紙だけでなく、空き箱や木材、茶筒等さまざまな素材にも絵を描き、色彩や形の新たな可能性に触れる時間となりました。また、模様づくりぬかれた版を用いて、布や段ボールに直接インクを刷り込むシルクスクリーンプリントの体験コーナーも設置され、子どもたちは普段とは異なる技法での表現活動に夢中になっていました。

デザインเนอร์のウエダトモミさんと摺師のホシノマサルさんによるアーティストユニットBOB FLOWが協力し、子ども・利用者さん一人ひとりの発想に寄り添ってサポートしました。

生活介護に職員鈴木梨可さんは「今後も利用者さんが、他者との関わり合いの中で自分らしく表現できる場づくりを大切にしたい」と語り、ウエダトモミさんは「地域の人の見てもらえる展覧会など、発表の機会を増やしていきたい」と絵具だらけの手とエプロン姿で嬉しそうに話していました。アートを通じて、地域と福祉がつながる新しい可能性が広がっています。

来年度の済生会手帳もコラボ!!

済生会本部は職員向けの手帳を毎年製作しています。2026年版の手帳は「それいゆ」と「ふに」の利用者が描いた作品をBOB flowがデザインしたアート作品を表紙に採用しました。表紙に描かれたGrazie infinite（無限にありがとう）の言葉にそれいゆ・ふにの利用者さんから済生会へのメッセージも込められています。

あなたの写真がカレンダーに!!!

【4年目に突入。大好評のため、今年も実施します】

11月号までに掲載された記事の中で、良い表情をとらえた写真が対象

機関誌「済生」に載った写真の中から編集部が厳選、カレンダーにしてプレゼント！

【撮影】大きく引き延ばすので正確なピントと露出に【構図】横。画面に撮影の日付が入っているものは審査対象外

【写真の規格】写真はデジタルデータに限り、サイズは1MB以上

【参加資格】本会支部・施設の職員

各支部・施設の済生記者を通じて、ぜひご寄稿よろしくお願いします!!

支援活動補助員養成講座で講義 性暴力被害者支援への理解を深める

〈栃木〉宇都宮病院



7月1日に公益社団法人被害者支援センターとちぎで、支援活動補助員養成講座の一環として稲見一美地域連携課長（MSW）が講義を行ないました。本講座は今後被害者支援に携わる人を対象に実施され、当日は7人が参加しました。

稲見課長は、同センターとちぎ性暴力被害者サポートセンター「とちエール」の日頃の連携・協働による取り組みに触れ

第3回栃木連携士会交流会に18人 会の名称は「つながっぺ」に

栃木県済生会

7月29日、第3回栃木連携士会交流会をオンラインで開催し、18人が参加しました。この交流会は昨年度、栃木県済生会で実施した済生会地域包括ケア連携士養成研修会の修了者を対象としています。

当日は、各自の活動報告や地域ごとの課題を共有。また、連携士会の名称を「つながっぺ」と決定しました。さらに、SNS上に情報交換の場を開設したことも共有しました。

連携士会の参加者からは「困りごとを発信すると多職種の方から反応があり、支援



稲見一美地域連携課長（MSW）は「今後も『つながっぺ』を言葉に多職種連携の力を高め、地域課題の解決に向けて実践と学びを重ねていきます」と話しています。

（栃木・宇都宮病院
地域連携課 川田綾香）

誰一人取り残さない社会の実現に向けて ソーシャルインクルージョンの講演会

〈岩手〉北上済生会病院



7月15日、「100年暮らしたいソーシャルインクルージョンなまちづくり」をテーマに、講演会をハイブリッド形式で開催しました。当院は昨年度から北海道済生会が代表を務める「済生会コンソーシアム」に参画し、ソーシャルインクルージョン事業の推進と地域に根差したまちづくりに取り組んでいます。本講演はこの活動の一環です。

岩手県済生会の各施設にも広く案内し、当日は約100人が参加。



が参加。北海道済生会の櫛引久丸常務理事を講師に迎え、医療・福祉・介護を通じた地域貢献の枠を越え、地域課題の解決と新たな価値創造に挑む北海道済生会の実践について、経営への波及効果も含めてご講演いただきました。

参加者からは「ソーシャルインクルージョンの考え方

「やってみたい」がカタチになる！ 地域とつながる笑顔のお菓子

7月7日、NPO法人わらわばと協働し、皆にハッピーを届けるお菓子作り「SWEETS PROJECT」がスタートしました。

同法人は、北上市を中心にフ



リースクールや通信制高校のサポート校などを展開。そこに通

や取り組みを初めて知った」という声もあり、理解の裾野を広げる好機となりました。

（済生記者 掛川千恵子）

う高校生たちの「お菓子作りがしたい」という声を形にし、製菓技術を通じて職業選択の幅を広げ、地域との交流を深める目的でプロジェクトを立ち上げました。

当日は約15人の参加者が、製菓のプロ・栄養士の昆野美穂さんの指導の下、オートミールクッキーやマフィンなどの試作に初挑戦。小さなハブニングも笑顔で乗り越え、見た目も味も大満足！次回はシフォンケーキに挑戦予定です。

当院で開催する11月16日の「済生会フェア2025」で素材にもこだわったお菓子と笑顔をお届けすることが目標です。お楽しみに！

（済生記者 掛川千恵子）





機関誌「濟生」が 創刊100年!



創刊の「濟生」が発行100年を迎えました。「濟生」のあゆみを紹介します。
今年も着々と出場チームが決まりつつある全国済生会親善ソフトボール大会。
済生会人諸氏がグラウンドで汗を流していた記録を集めました。
(株)白橋 西林芙美・本部広報課 河内淳史

済生会ソフトボール大会草創期

ソフトボールにける情熱 愛媛県済生会

前号では戦前の試合・本部対
神奈川を紹介しました。その後、
1960年代、当会でいちはや

済生会ソフトボール事始め

「ソフトボール大会が始まるまで」
新山昭一郎(愛媛県済生会事務局長)

ソフトボール

栄冠は松山病院の頭に

愛媛県済生会親善球技大会



昭和45年11月、愛媛県済生会親善球技大会が、松山市の松山病院グラウンドで開催された。この大会は、愛媛県済生会が主催する初めてのソフトボール大会であり、松山病院の選手たちが優勝した。この大会は、愛媛県済生会親善球技大会の始まりとなった。

[左] 愛媛県済生会親善球技大会の様子を伝える1970(昭和45)年11月号。記事は、応援団の
声援も聞こえてくるかのような熱のこもったもの [右] 2000(平成12)年11月号のソフト
ボール大会大特集では、〈愛媛〉老健にぎたつ苑元事務局長・新山昭一郎氏が、1960年代、有志
が集まって徐々に活動が始まった状況を語っている

新山昭一郎氏の回顧録に当時の
様子が紹介されています。

1964年には既に松山病
院と今治病院で親善試合をして
いたそうです。しかし新山氏所
属の松山病院は連敗。打倒今治
を目指した新山氏は一日200
球の投球練習に明け暮れ、腱鞘
炎になったこともあったとか。
朝な夕なに病院横の空き地のプ
ロック塀にボールを投げ続けて
いたそうで、その姿はまるでス
ポ根アニメの主人公のようです。
その他、「昼休みが休憩どころ
か仕事より厳しく、猛ノックに
耐えられず反吐を吐く者も出る
始末」など記録され、昭和の「モ
ーレツ」さが伝わってきます。

第1回済生会関東ブロック 親善ソフトボール大会

当時、白球を追いかけていた
のは、愛媛県済生会や中・四国
支部だけでなく、他支部でも
徐々にソフトボール人口は増加
また、1960・70年代は、先
日惜しくも逝去された長嶋茂雄
氏が王貞治氏と共に「ON砲」
で野球界を席巻していた時代で
した。
そして遂に1978(昭和53)

年、第1回全国済生会ソフトボ
ール大会が開催。優勝戦は前評
判のとおりに九州対中・四国の
対決となり、熱戦の末13対8
で九州チームが優勝。日向病院
を主力とする九州代表チームは
総裁高松宮杯を獲得し、監督を
胴上げて喜び合いました。
全国大会以上に詳細が記録さ
れていたのが、第1回関東ブロ
ック大会です。本部をはじめ宇

都宮、前橋、東京中央、向島
船橋、川口、鴻巣、神奈川、若草
静岡の11チーム、300人を超
える人々が参加したそうです。
この大会では「男女混合チー
ム」「各試合初回には必ず院長
や師長、事務長などを登板させ
る」などの済生会特別ルールは
現在と同様です。
第1試合がデッドボールから
始まるなど波乱を感じさせる幕
開けながらも大会は和気
藹々と進行。コールドゲ
ーム、多数のホームラン
等白熱した試合が続いた
末、栄冠は静岡チームへ。
当時の犬丸理事長は
「就任以来熱望していた
大会が開催できた」と喜
びの言葉を残しています。

済生会人の連帯

1978(昭和53)年1月号掲載、第1回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会。懇親会
は会場に入りきれないほどの人で溢れ、隠し芸や合唱でにぎわった

現在もソフトボール大
会開催目的には「レクリ
エーション活動を通じて
済生会の連帯感を高め、
役・職員の親睦と心身の
健全育成を図る」と明記
されています。半世紀前
の大会開始時から「済生
会の連帯」は強く求めら
れていました。

プロや学生団体以外で、全国
規模のスポーツ大会が催される
組織は現代日本ではそう多くは
ありません。業務とは別の領域
で得られる連帯感、済生会人
としての意識を高める助けにな
っているかと思えます。

さて、今年、済生会ソフトボ
ール大会の覇者として歴史に名
を刻むのは一体どのチームにな
るのでしょうか。
決戦の11月、福井に爽やかな
秋晴れと好試合が引き寄せられ
ることを祈ります。



29ページにも渡るソフトボール大会大特集が掲載された2000(平成12)年11月号

世界的にも珍しいハイ・コロラトゥーラ（ソプラノの中でも

さらに高音域の超絶技巧）を操る田中彩子さん。

ウィーンをはじめロンドン、

パリ、ブエノスアイレスなど

世界で活躍の場を広げています。

この秋から始まる日本ツアーの前に、

音楽家として変容を遂げた

デビュー当時の思い出を語っていただきました。

「天使の声」と称されるソプラノ歌手

透き通る歌声が持つ魔法の響きを心の記憶に

Text：みやじまなおみ

Photos：安友康博

3歳からピアノを続け、18歳で声楽に転向した田中さん。「私は手が小さくて、プロになるのは難しいとあきらめたんです。ところが、試しに歌の先生にみていただくと、『この声（コロラトゥーラ）を出せるのは非常に珍しい！』と。だったら芽が出るかもしれないと、高校卒業後ウィーンに留学することになりました」

最初はドイツ語ができないことに加えて、ヨーロッパの歌手たちのダイナミックな動きや自信満々な感情表現をまねするだけの自分に劣等感を感じてしまふ。しかし4年後、オペラ『フィガロの結婚』でデビューが決

まり、周囲からの賞賛を受けたとき、その違和感が一変したという。「私の中にある控えめさや謙虚な日本人らしさは、マイナスではないのかもしれないと気づいたんです。歌舞伎や能といった西洋とは真逆の繊細な美も研究し、自分にできる最善を尽くすことが唯一無二のスタイルにつながると思えて進んでいた矢先に日本デビューも決まり、驚きました」



たなか・あやこ コロラトゥーラ・ソプラノ歌手。1984年生まれ、京都府出身。声楽を始めた18歳でウィーンに留学。わずか4年後の22歳のとき、スイス・ベルン州立歌劇場にて『フィガロの結婚』のソリスト・デビューを飾る。同劇場日本人初、かつ最年少での歌劇場デビューで大きな話題を集め、6カ月のロングラン公演を代役なしでやり遂げる。2014年に日本デビュー。ウィーンを拠点としながら、日本でも春と秋にツアーを行なうなど活動の幅を広げている。社会貢献活動も積極的に行なう。2019年Newsweek誌「世界が尊敬する日本人100」に選ばれる。

「好きな仕事を続けさせてもらっている身として、できる範囲で人の力になれたら。これから誰かの心に音の記憶を残していけたらうれしいです」

田中彩子ソプラノ・リサイタル2025 Fantasy of Coloratura ～コロラトゥーラ・ファンタジー公演日程

幼少期、木の上で「ファンタジーな物語」を読むのが好きだったという田中彩子さん。9月から日本各地で行なわれるリサイタルでは、自身が心を奪われた物語を思い出しながら、聴衆を“魔法のように心ときめく瞬間”へと導く、幻想的で色彩豊かな音楽の世界へ誘う。

公式ホームページ：

<https://www.ayakotanakaofficial.com>

田中彩子 ソプラノ・リサイタル2025 Fantasy of Coloratura	
9月19日(金) 18:30開演	(会場) 本音文化公園 文化ホール
9月27日(土) 14:00開演	(会場) 福岡シンフォニーホール
10月12日(日) 14:00開演	(会場) サラマカホール
10月26日(日) 15:00開演	(会場) 八ヶ岳高原音楽堂
11月21日(日) 14:00開演	(会場) 所沢市民文化センターミュージック・マリーホール(旧ホール)
11月28日(土) 14:00開演	(会場) 住友生命いずみホール
11月15日(土) 15:00開演	(会場) 豊田市民コンサートホール
12月7日(日) 14:00開演	(会場) 第一生命ホール

田中彩子

Ayako Tanaka



Vol. 184

口福につぽん

吉井省一

と4年で百周年を迎える下町の老舗です。
 とうろの原料は山芋。東洋医学では「山薬」と呼ばれ、漢方薬として珍重されてきた歴史があります。
 この山芋の中でも、特に粘りが強くてアクが少ない「大和芋」を主に使っているのがこだわりのひとつ。
 しかも土壌が良い千葉県の畑で約1年かけて丹念に育てられたものだけを選び抜いています。
 加えてこだわっているのが、とうろをのばして味を付ける秘伝の出汁。創業時から受け継が



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

よいし・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

96 とうろ三昧セット 《むぎとろ》 浅草 東京都台東区

懐古趣味の私にとって、浅草は大好きな街のひとつ。古き良き江戸情緒と明治期のハイカラな要素が今も残る街並みが、たまらない魅力。インバウンドの方たちにもたいへんな人気です。ランチで訪れる度に、さて何を食べようかと迷ってしまします。すき焼き、うなぎ、洋食、はたまたドジョウ？ その選択肢に必ず登場するのが「麦とろ」。麦めしにとろろ汁。シンプルな組み合わせなのに、実に味わい深い。さあ、もうひと歩きしようという元氣も湧いてきます。名店自慢のとうろを堪能するのもってこいの詰合せを見つけた。浅草散策でふと立ち寄った気分でお楽しみください。



古くから滋養強壮食として人気のとうろ。麦飯に合わせた、茶そばでも楽しんで、どちらも美味

れてきた鰯節と昆布の出汁をベースに、宗田節と鯖節を加えて、コクのある味に仕上げられています。「とうろ三昧」に入っていると、ろろは、この「味付とうろ」と、茶そばに合わせて大和芋と長芋をブレンドした「とうろ」の2種類。とうろはすり鉢ですりおろすのが家庭では大変な作業ですが、すりおろしたものを急速冷凍しているのもとても便利。とうろと相性がいいのは「むぎごはん」。重要なのは麦と米の比率。「浅草むぎとろ」では、国産押麦と国産米を使い、炊いた時に麦の食感を感じ取れるよ



江戸の“粋”を感じさせる瀟洒な店構え

うに、麦を多めに入れています。もうひとつ、とうろと相性がいいのが「茶そば」。とうろそばの茶そばバージョン、こちらがかなり期待できます。

むぎごはんはもちろん、茶そばとも相性ぴったり

それでは、まず「味付とうろ」と「むぎごはん」の組み合わせからいただきます。味付とうろは魚介の出汁がきいていて、とても上品な味。滑らかなので越しの良いとうろとプチプチした麦飯の食感も絶妙。鰻や穴子の蒲焼きなどをトッピングすれば豪華な一品になります。麦飯でその相性の良さを堪能してしまおうと、いつもの白米のご飯ではどこか物足りなく感じ



季節の彩りを鮮やかに映す「秋懐石」



浅草むぎとろの三つのこだわり。粘りが強くアクが少ない「大和芋」を使用（左上）。米と麦を独特の割合で調合したむぎごはん（左中）。深いコクと味わい深い秘伝の出汁（左下）



主に千葉県の畑で丹念に育てられた「大和芋」は、精がつくことから「山うなぎ」の異名もある

てしまいます。麦飯ととうろは、やはり相思相愛かも知れません。次に、「とうろ」を「茶そば」にのせて。ふんわりしたとうろの食感、濃厚なのに後味もさっぱり。茶そばはコシがあつて、つるつとしたのと越しも本格派。粘り気の強い大和芋と水分が多い長芋をブレンドしてあるので、麺にもしっかりとからみ、ほのかに香る抹茶も食欲をそそります。肉料理や魚料理と違って、名脇役のイメージがあるとうろですが、とんでもない。こちらは堂々たる主役的存在感。麦飯と茶そばが脇役に回り、これまたいい仕事をしています。猛暑で乱れかけた体調を、昔ながらの滋養食「とうろ」で、整えてみてはいかがでしょう。



とうろ三昧セット
 [とうろ茶そば（乾麺、つゆ、とうろ 各4袋）、味付とうろ4パック、むぎごはん4パック]
 5,616円（税込・送料別）
 賞味期限……冷凍1年
 お取り寄せ・お問い合わせは
 浅草むぎとろオンラインショップ
 〒111-0034 東京都台東区雷門2-2-4
 フリーダイヤル：0120-00-1066
 ホームページ：https://www.mugitoro.shop

ハロウィーン 子ネコちゃん

作品 いまいみさ



顔



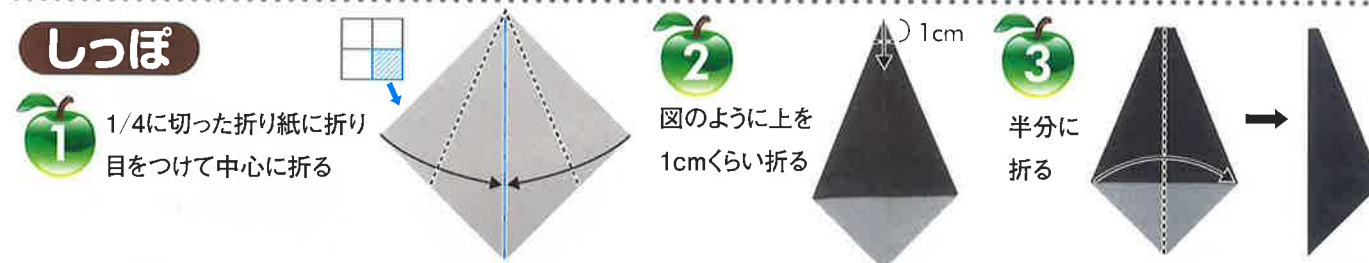
顔(アレンジ)



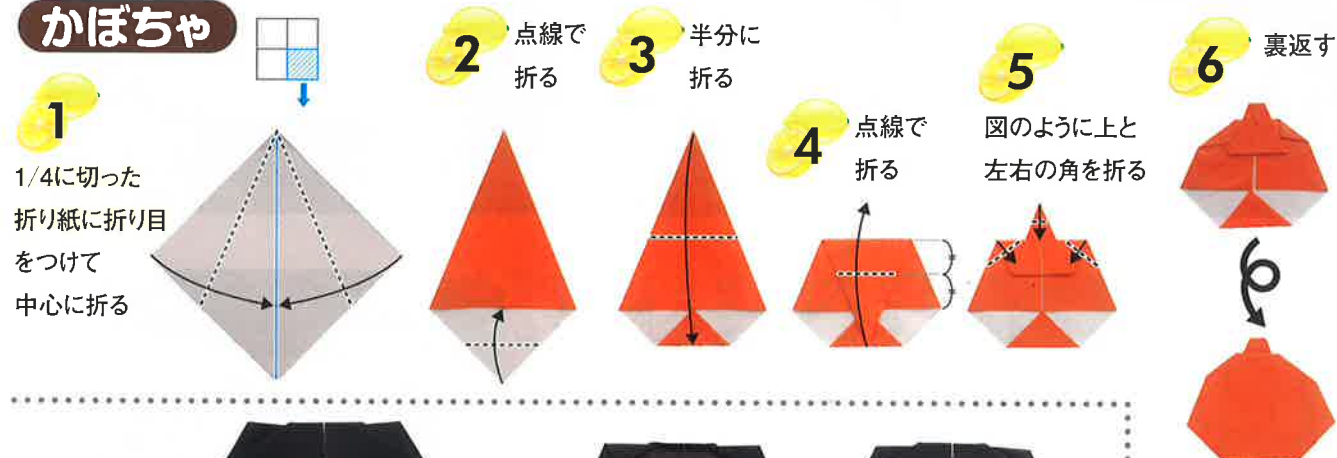
体



しっぽ



かぼちゃ



組み方

体に顔とかぼちゃを
貼り、うしろのポケット
にしっぽを入れてのり
で貼り合わせる



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。



動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



山口地域ケアセンターのラン＆ウォーク部が全国でも数少ない「鳴き砂」である清ヶ浜の清掃活動に参加しました。詳細はP72をご覧ください

topics

長年の活動が評価され 済生丸が特別賞を受賞

〈岡山〉瀬戸内海巡回診療事業推進事務所

瀬戸内海巡回診療船「済生丸」は7月24日、山縣勝見賞特別賞を受賞し、表彰式に森本尚俊所長が出席しました。この賞は一般財団法人山縣記念財団が創設し、海運を中心とする海事交通文化の研究や普及発展に貢献した人を表彰しています。済生丸の累計活動実績は、

瀬戸内海巡回診療船「済生丸」は7月24日、山縣勝見賞特別賞を受賞し、表彰式に森本尚俊所長が出席しました。この賞は一般財団法人山縣記念財団が創設し、海運を中心とする海事交通文化の研究や普及発展に貢献した人を表彰しています。済生丸の累計活動実績は、1962年12月から2024年3月まで、診療島嶼延べ数1万3249島、受診延べ人員62万7441人。地域への貢献や海事交通文化を体現し、長期にわたり社会に貢献したとして特別賞に選出されました。受賞に際して森本所長は「瀬戸内海巡回診療という地域に根差した取り組みに光を当てていただき、大変光栄に思います。これを励みに、島民が安心して暮らせるように医療を届け続けたいと思います」とコメントしました。

（事務員 原田佳子）

★国内唯一の診療船である済生丸、島の方々の頼れる存在ですね。これからも多くの人の健康を支えることでしょう。

（本部広報課 杉山菜央）

〈広島〉坂町地域包括支援センター

地域と小学校の共同授業で学びのつながりづくり

町内初の試みとして、6月26日に地域と小学校の共同授業を行いました。

今までは地域と小学校それぞれで認知症の理解を深める認知

楽しい時間になりました。

（社会福祉士 平本沙知）

〈大阪〉健都健康管理センター

横のつながりを目指して「健診連絡会」発足

7月10日、〈大阪〉中津病院南棟講堂で第1回大阪府済生会健診連絡会を開催しました。

この連絡会は、済生会のスケールメリットを生かし、健診施設の横のつながり構築を推進する目的で発足。今回の主なテ

症サポーター養成講座を実施していただきました。今回、地域住民からの「孫もないし、小学校に入

る機会がなくて寂しい……」との声をきっかけに、認知症について学ぶ地域公開授業を小屋浦小学校と共同で実施することに。講師は当センター職員

の筆者が務めました。当日は5・6年生と教職員合わせて23人、住民17人が参加。厚生労働省や多くの専門機関からも視察の方が訪れ、認知症の基本を学ぶ授業と、認知機能を維持・向上させる体操を行いました。

住民からは「小学校に入れてうれしかった」「子どもたちと一緒に学べてよかった」と喜ぶ声がたくさん届き、



職員による定期的な献血参加に加え、患者さんや一般の方々の周



香川県済生会病院 献血功労で銀色有功章

8月4日、香川県庁で開催された伝達式において、当院は日本赤十字社から「銀色有功章」を受章しました。

銀色有功章は、15年以上にわたり継続的に献血協力を行ってきた団体に対して贈られる、楯形式の名誉ある表彰です。

知など、協力体制の構築にも力を入れてきました。今回の受章は当院の長年にわたる継続的な献血推進活動が認められたものであり、大変光栄です。

今後も医療機関、医療従事者として積極的に献血活動に取り組むと考えています。

（済生記者 長尾美甫）

イスカッションを行ないました。ますます激しくなる健診受診者の獲得競争を有利に運ぶために、この連絡会を通じて共通の課題解決や健診サービスの充実などに取り組み、健診の質の向上や収益アップにつなげていきたいと思っています。

（済生記者 武内三恵）

〔福岡〕 飯塚嘉穂病院 同期との絆を深める 新人交流会

7月29日、看護部・臨床心理室・総務課の共催で、今年度入職した新人職員10人を対象とした「新人交流会」を開催しました。はじめに研修会として、3グループに分かれてグループワークを実施。参加者は与えられたテーマの中で自分の意見に最も近いグループに参加し、活発な



意見交換が行なわれました。

続くフリートークでは「私のプチストレス解消法」について、参加者同士が自由に語り合う時間を設けました。普段は各部署で業務に励む新人職員にとって、同期と交流する貴重な機会となりました。

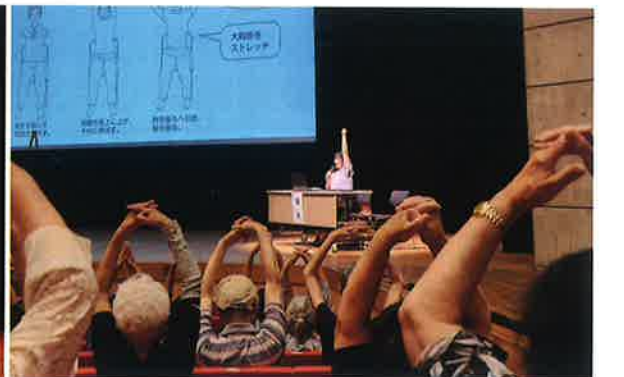
参加者からは「4月の入職時からなかなか会うことがなく、皆ががんばっていることが分かって前向きになった」「話したことがない人とも話すことができてよかった」などの声がありました。

（経営企画室長 春口勇介）

龍ヶ崎済生会病院 長寿の秘訣は食べて動く

龍ヶ崎市長寿会連合会主催の「長寿大学」7月講座が7月17日、大昭ホール龍ヶ崎で開催され、市民250人が参加しました。

長寿大学は、参加者が学びと交流を深め、新たな生きがいづくりを広げることを目的としています。今回のテーマは「食」で、当院の稲永栄養管理栄養士が健康的な食事の取り方について講演しました。



1食で摂取するタンパク質の量の目安や、コンビニエンスストアの商品での組み合わせなど、バランス良く食べるためのポイントを話しました。また、講演

中にはストレッチや参加者へ質問を行ない、活動的な学びの場となりました。

（済生記者 堀越琴美）

〔神奈川〕 湘南平塚病院 親子で病院探検ツアー

8月9日、当院で「親子で病院探検ツアー2025」を開催しました。本イベントは小学生とその家族を対象とし、病院の役割や医療への理解を深めることが目的。当日は16組の子どもと保護者が参加しました。院内各部門を巡りながら、各検査の疑似体験や手術室のガウン試着など、医療現場に直接触れるさまざまな体験を行ないました。

今回は参加者に配布している「探検ノート」をリニューアル。情報を整理して絵本調にし、子どもたちが病院の役割や意味をより分かりやすく学べるよう工夫しました。

参加者からは「車椅子体験や病院の服を着せてもらったこと

〔鳥取〕 境港総合病院 支援を必要とする人へ 備蓄食を寄付

6月27日、境港市社会福祉協議会が行なうフードエイド事業に協力し、備蓄食品を寄付しました。

（済生記者 川崎菜美）



イラストは生成AIを活用して
柔らかな色調に

当日は、医師である岡野淳一地域医療総合支援センター長とソーシャルワーカーである船本幸秀医療連携課長が、境港

市社会福祉協議会を訪問。当院で備蓄しているサンマの缶詰90缶を、岡野センター長から社会福祉協議会の佐藤邦雄会長にお渡ししました。

佐藤会長からは「あたたかい寄付をありがとうございます。支援を要する人たちに提供させていただきます」との感謝の言葉をいただきました。

この活動を通じて、支援を必要とする方々が安心して暮らせる一助となれば幸いです。

（済生記者 亀尾美子）



〈福岡〉二日市病院
四季の花を支える
日々の取り組み

当院では、正面玄関前の花壇に季節の花々を植え、来院される皆さんを優しく迎え入れています。

この花壇の管理は、総務課の加来憲明さんが中心になり、3人の職員で毎日朝夕2回の水や



りと季節ごとの植え替えを欠かさず行なってくれています。写真撮影を行なった7月31日も加来さんが水やりを行なうと、虹が出現。病院の顔ともいえるこの場所を丁寧に整えてくれる姿はまさに緑の下力持ちです！色とりどりの花々は、ただの装飾ではなく、「大きな癒やしになれば」との思いが込められています。現在はマリーゴールドが見ごろとなっていますが、今後も四季の移ろいに合わせて花壇を彩ってまいります。

〈企画情報課・情報システム室
山田怜奈

〈大阪〉茨木病院
新実医師がせきをテーマに
NHK出演

当院の呼吸器内科部長、新実彰男医師がNHK・Eテレの番組「きょうの健康」に出演します。新実医師の深い専門知識を生かした貴重な情報を、4日間にわたり放送します。

初回放送日は9月8～11日で、午後8時30分から15分間。「長引くせき」をテーマに、せきの原因や慢性的なせき、知らない間に進行するCOPDなど

について解説します。また、最終日は「みんなの『知りたい！』」と題して、一般の人がせきに関して気になっていることや疑問などについて答えていきます。



番組サイト

再放送や見逃し配信もありますので、ぜひご視聴ください。

〈済生記者 中村友香

〈長野〉佐久市特養シルバー
ランドきしの
世代間交流を楽しむ夏休み

8月5～8日に毎年恒例の「きしの夏休み」を開催し、延べ32人が参加しました。夏休みを過ごす子どもたちの居場所づくりの一環として、期間中は中高生向けに学習室の開放、8



月5・6日は小学生を対象とした催しを行ないました。6日は毎月開催している地域の高齢者対象の健康教室「およりなんしきのし」とのコラボイベント。小学生13人、「およりなんしきのし」から10人が参加し、世代間交流をしました。

午前中は武藤尚子さんを講師



に招き、折り紙でくす玉作り。それぞれ好きな色の折り紙を選び、12個のパーツを仕上げていきました。昼食後は多肉植物で鉢植えを作り、最後は皆でスイカ割り！

ほとんどの子が暑い中でも元気いっぱい「来年も来るよ」と言ってくれました。

〈済生記者 輿水由里子

静岡に済生丸が現れる！？
静岡済生会総合病院

6月7日に開催された済生会フェアでは、小児科スタッフの企画として、職員が手作りした「済生丸」の模型を展示し、子どもたちにも自由に遊んでもらいました。

この模型は、当院HPS（ホスピタル・ブレイ・スペシャリスト）の望月ます美さんが、今年2月に参加した済生丸見学ツアーでその活動に感銘を受け、「多くの人に



「働き手」の視点で医療業界を深く知る場に夏真っ盛りの8月2日、近隣の中学生を対象にした外科医体験イベント「ブラックジャックセミナー」を開催しました。



イベント終了後のアンケートでは、参加生徒全員が期待通り「期待以上だった」と回答。「医療業界を目指していなかったが、この体験で興味を持てました」「医師の仕事の大変さを実感し、感謝の気持ちが高まった」といった声が寄せられました。

〈済生記者 南川茉悠

topics



隔病理解断手術の見学、特定行為実習、放射線科、薬剤部での体験などさまざまな体験実習を行いました。

多職種座談会や夜のバーベキ

将来の希望の星と 働ける日を楽しみに

ふれあい看護体験を7月29・30日に開催。近隣の学校へ募集を行ない、医療に興味や関心が

山口総合病院

(済生記者 西田千鶴)

ユーでは、若手医師や看護師、薬剤師に対し実際の現場に関する質問が活発に飛び交っていました。

参加学生からは「現場のリアルな雰囲気を感じた」「机上でしか習っていなかった地域医療の実際が分かった」「この地域で働きたいと思った」といった声が聞かれました。



ある8人の高校生の応募がありました。

日頃看護師が行なっている業務の体験、他部署への院内ツアー、現場看護師のオリジナル短編動画の視聴など、医療や看護を身近に感じてもらえるようプログラムを工夫しました。

今回は初の試みとしてBLS（一次救命処置）や気管挿管、血管確保などの手技をデモ機を使用し体験してもらうことで、医療への関心がさらに高くなったようです。近年の医療ドラマの影響は大きく、憧れの声も多く聞かれました。

半日と短い時間でしたが、看護師への質問が飛び交うなど、参加学生にとって有意義な時間だったようです。看護師になりたいと語ってくれた学生たちと将来働ける日が楽しみです。

(ふれあい看護担当主任 政崎由美子)



〈愛媛〉松山老健にきたつ苑 破竹の3試合完封で優勝

6月29日に山口県下関市で、第46回済生会中・四国ブロック親善ソフトボール大会が開催されました。

当苑は併設する松山病院のチームに所属しており、今年の大いには当苑から3人が参加。日頃の練習の成果を発揮すべく初夏の炎天下、試合に挑んできました。

全国大会につながるAリーグには5チーム（松山、今治、西条、広島、岡山）が出場。トーナメント戦のため、負ければそこで全国大会への切符が途絶えてしまう中、松山病院チームは怒とりの快進撃を繰り広げ、



3試合完封勝利で見事優勝することができました。

強豪揃いの全国大会でも持ち前のチームワークを発揮し、全国制覇ができるよう頑張りたいです。

(リハビリ課 理学療法士 林田直也)

〈愛媛〉小田診療所

無料低額診療事業を 民生委員と共に呼びかけ

7月18日、内子町林業センターで開催された小田地区民生委員協議会定例会で、当診療所の黒田良文係長が、無料低額診療事業についての啓蒙活動を行いました。

当日は、各小学校長や民生委員、行政担当者など20人が参加。済生会の成り立ちから無料低額診療事業、済生丸について詳しく説明しました。小田地域の高齢者や独居老人の生活を見守る民生委員の皆さんからは熱心な質問が寄せられ、済生会の事業に対する関心の高さがうかがえました。

一人でも多くの人にこの制度を知っていただき、民生委員の皆さんと共に、必要な人が適切



な医療を受けられる社会を目指していきなしたいと思います。

(済生記者 福岡博実)

〈山口〉豊浦病院 地域医療の現場を 大学生10人が体験

8月7日、県主催の「やまぐち地域医療セミナー2025」の一環で大学生10人を当院で受け入れました。

同セミナーは、これからの県の医療を担う医学生・看護学生・薬学部生が「地域を通じて医療を、また医療を通じて地域を感じる・考えること」を目的に開催されています。

当日はICTを活用した遠

topics

〈愛媛〉小田特養緑風荘 夏の風物詩といえば……

8月8日、今年も夏の風物詩「スイカ割り」を楽しみました。大きなスイカを囲んで集まった利用者さん34人は、まるで昔懐かしい夏のひとときを思い出すかのように目を輝かせていま



す。

スイカが登場すると「このスイカは栄養がようけ入ってるなあ」「大きいのは甘くて美味いんよ」と、あちこちから弾んだ声飛び交いました。

いざ、スイカ割り開始！新聞紙と割り箸、ビニールテープで職員が手作りのスイカ割り棒で挑みますが、「こりゃ割れん」「固いのお」と悪戦苦闘。そこで登場したのが、竹を使った特製スイカ割り棒。力いっぱい振り下ろすと、ついにスイカにヒビが入りました。

切り分けた真っ赤なスイカを、利用者の皆さんでお腹いっぱい味わいながら、夏のひとときを満喫しました。

（済生記者 富岡優衣）



〈愛媛〉松山病院 献血運動に感謝状

当院の日頃の献血運動に対する功績が認められ、中村時広愛媛県知事から感謝状が授与されました。7月30日に愛媛県庁で行なわれた「令和7年度献血運動推進協力団体等に対する厚生労働大臣表彰状及び感謝状伝達式並びに愛媛県知事感謝状贈呈式」には渡辺浩毅院長と後藤道



洋事務長が出席しました。

当院には年2回、赤十字献血センターから献血バスが来ます。事前に院内ウェブやポスター掲示で日程を職員等に周知し、協力をお願いしています。

献血は病気やけがで輸血を必要とする患者さんを救うために、また医療を支えるためにもとても大切な活動です。これからもできる範囲で献血に協力できるよう職員に呼び掛けていきます。

（総務課 木本薫子）

鹿児島病院

小学生の遠泳大会に 救護班として同行

8月2日、当院近くの松原小学校の水泳同好会が主催する錦江湾（鹿児島湾）横断遠泳に、久保園高明院長と山田愛生看護師が救護班として同行しました。当初は7月31日の実施予定でしたが、カムチャツカ半島地震による津波警報・注意報を受け2日間延期。緊張感の中での支援となりました。

桜島小池海岸から対岸の磯海水浴場までの4・2キロメートルのコースに、4～6年生37人と同好会のOB・OG21人が参加。地元漁協の船など11隻に父兄らが分乗し、子どもたちを見守りました。

久保園院長と山田看護師は遠泳開始直前に参加者の健康診断を実施した後、救護船で随伴し、

不慮の事態に備えました。参加者全員が完泳し、磯で出

迎えた父兄からは感動の涙も。無事救護班としての任務を果たしました。

（医事課長心得 宮脇 恵）

新潟病院

夏休み 子ども病院見学会

地域や職員の子どものために医療の現場を知ってもらうことを目的に、小学4～6年生を対象にした「子ども病院見学会」を7月31日に開催しました。

当日は午前・午後合わせて26人が参加。「病院ってどんなところ？」のお話に始まり、施設見学・医療体験ラリーでは薬剤部での調剤、栄養科での栄養指導、検査科での肺機能検査、病院救急車への乗車、妊婦体験など、さまざまな見学・体験をしてもらいました。

子どもたちはどの内容にも興味

津々で、特に妊婦体験ではあまりの重さにふらつく子どもも多く、印象に残ったようです。

（A6病棟師長 齊藤 和）



topics

認知症への理解を深め サポートスキルを学ぶ

当荘ソーシャルインクルージ

〈山形〉特養ながまち荘



筆者(左)と標語を募集した
医療安全対策室長の池部麻美看護師

(副院長 田村高志)

結果とこのことで押し切られてしまいました。
応募した標語は「『確認』を受ける笑顔がミス防ぐ」です。忙しいときや夜間など、つい不機嫌になりがちな自分を振り返り、自戒を込めて作りました。笑顔で機嫌良く対応することで、「確認」しやすい風土が根付けばミスが防げるのではないかとそんな思いを込めました。こうなったら、2年連続の最優秀賞を目指すぞ!!(笑)



手術支援ロボット 肝胆膵領域に展開

熊本病院

6月3日

当院で手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を使用した肝切除術(ロボット支援下肝切除術)を初めて実施しました。この手術は、肝胆膵領域の低侵襲手術における当院の新たな一歩を示すものです。

当院はロボット支援下手術を2013年に開始。2019年にはロボット・低侵襲手術センターを設立し、これまでにロボット支援下手術の実績は3900件以上になります。

肝胆膵領域の手術については、肝臓の解剖学的な位置が複雑であるため、低侵襲手術の導入が遅れていました。しかし、2022年にロボット支援下肝切除術が保険収載となったことを受け、より多くの患者さんがこの先進的な手術を受けられるようになりました。

今後は症例を重ね、高難度肝切除や膵切除へ適応を広げていく予定です。

(広報室 金子美雪)



ヨシ計画推進委員会が認知症に関する講座を企画し、7月8日と29日、おれんじサポートチームえがおが中心となり開催しました。

8日には「認知症サポーター養成講座」を行ない、12人の認知症サポーターが誕生。認知症サポーターとは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、できる範囲で手助けする人のことです。

29日には前述の12人に地域の認知症サポーターを加えた25人の参加者に向け、「ステップアップ講座」を開催。サポートの実践の場で必要となるスキルを学んでいただきました。

受講後のアンケートには「自

〈滋賀〉守山市民病院 公開講座で学ぶ 子どもの食物アレルギー

7月26日、当院のくすの木ホールで公開講座「小児の食物アレルギー」を開催し、地域の方19人が参加しました。

当日は野々村和男院長が講師を務め、食物アレルギーの症状や診断、近年の傾向について詳しく解説。また、真谷優歌管理栄養士が、除去が必要な食品の栄養素を補うための代替食品の選び方や、レシピ例を紹介しました。

参加者からは「親の食物アレルギーは子どもに遺伝するのか」といった質問が寄せられ、保護者の皆さんの高い関心がう



〈山口〉豊浦病院 看護補助者に対する 期待の大きさを実感

分ごとという意識を持てれば、認知症の方に対する態度や言葉かけも変わっていくと思う」などの意見があり、実りある講座となりました。

(おれんじサポートチームえがお
副主任介護員 池田比呂美)

7月26日、固定チームナー

シグ研究集会第16回中国四国地方会が岡山コンベンションセンターで開催され、当院から林美代子看護師長と筆者の2人が参加しました。

一般演題発表は当院の他に10演題あり、それぞれがより質の高い看護ケアを提供するために取り組んだことを発表。当院は、前年度から重点的に取り組んでいるタスク・シフト／シェアについて発表を行ないました。



林美代子看護師長(右から2番目)と筆者(中央)

かがえました。
講座後には「とても勉強になった」「分かりやすかった」といった感想をいただきました。

(済生記者 中嶋元香)

山口総合病院 自戒を込めた作品が 最優秀賞に

職員の医療安全の意識を高めるために、以前行なっていた医療安全標語の募集を昨年復活させました。

今年は応募総数150点の中から、なんと医療安全対策委員会の委員長である筆者の作品が最優秀賞に選出。7月22日に



表彰を受けました。

委員会内の投票は応募者名を伏せて実施。後日その結果が会議で報告された際は「さすがにそれはダメでしょう!」と言ったのですが、厳正な態度なしの

「近年注目されているタスク・シフト／シェアに看護補助者が積極的に関わっていることには大きな意義がある」と評価していただきました。

他の参加者からも「とてもよかった」「看護補助者の役割はとても重要だと思った」とお声がけいただき、看護補助者に対する関心や期待の大きさを実感することができました。

(5階西病棟 看護補助者

主任 新井 智)

支部内の病院間で
情報共有・人事交流

7月19日、愛媛県済生会病院業務 Up to date 研修会がホテルアジュール汐の丸で実施され、53人が参加しました。



この研修会は、愛媛県済生会の病院間での人材育成や業務改善に関するノウハウなどのさまざまな情報共有・人事交流を目的としたもので、年に一度行なっています。

今回は、臨床工学部門・放射線部門・事務部門の三部門が発表。さらに部門ごとに2グループ計6グループに分かれ、それぞれの発表テーマに沿ったグループワークを行ないました。意見交換会では「他病院の技師同士で交流でき、大変貴重な時間となった」「大変勉強になった。部門の参加人数を増やして、若手技師にも参加してほしい」「よかった」などの意見もあり、親睦を深める時間となりました。

(済生記者 村上景助)

〈熊本〉児童発達支援センター
済生会なでしこ園

発達支援の5領域を学ぶ

6月23日、熊本市こども部会区部会合同研修会（機能強化事業取扱）を開催しました。210人もの参加があり、意識の高さを感じました。

当日はこども家庭庁支援局障害児支援課・課長補佐／統括専門官の鈴木久也さん、NPO法人銀河・理事長の菊池健弥さんが「ガイドラインと5領域」をテーマに講義。児童発達支援および放課後等デイサービスにおける子どもを総合的に捉え支える5領域（健康・生活・運動・感覚・認知・行動、言語・コミュニケーション・人間関係・社会性）の視点を深めました。

子どもの発達する力や生きる力の育成、丁寧な「発達支援」を振り返り、地域を面で支えるこれからの一歩となりました。

（機能強化員 山田美輝）

〈栃木〉宇都宮病院

人生会議（ACP）を
地域から広げる一歩に

7月5日、豊郷地区市民セン

ター・ホールで宇都宮市豊郷地区社会福祉協議会主催の合同研修会が開催されました。これは済生会地域包括ケア連携士としての活動の一環で、自治会長、民生委員・児童委員など地域の要となる102人が参加し、「人生会議（ACP）」をテーマに学び合いました。

前半は、地域包括支援センター・豊郷の松澤浩子さん（看護師・介護支援専門員）が、令和6年度豊郷地区「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」の結果を報告。続いて、当院の澤村謙太MSWがACPの意義や、エンディングノートなど記録と共有の重要性について講演しました。後半はグループワークを実施。



「もしもの時に望む医療やケア」「地域で人生会議を広げるためにできること」をテーマに、活発な意見交換が行なわれました。

（地域連携課 川田綾香）

滋賀県病院

外来受付を彩る季節の折り紙
広がる障がい者の活躍

当院の障がい者専用業務室（SDEAP）では、外来受付を飾る季節の折り紙作品を制作しています。

この取り組みは、本誌の「てづくりおもちゃ」のコーナーを参考に始まり、通院中の患者さんにも折り紙を通して季節の訪れを感じてもらい、気分転換につながればという思いから毎月交換・設置を行なっています。

6月2日の制作当日は5人が参加。それぞれが得意なことを生かしなが、協力して作品を完成させています。

SDEAPでは知的障害や精神障害などさまざまな特性を持つジョブサポーターが、コイチ2人の支援のもと、病棟ベツドメイク、シュレッダー作業、

陰洗ボトルの洗浄、車椅子の清掃など、院内の多様な業務に従事しています。折り紙の制作もその一環で、社会参加や達成感を得られる機会にもなっています。

（済生記者 鵜飼健成）

〈奈良〉老健シルバーケア
まほろば

利用者さんと完成させた
向日葵・万博コラボ作品

当施設では毎月テーマを決めて作品作りをしています。8月の作品は「向日葵×万博」のコラボ。利用者さん20人と職員で、ひまわり畑でミヤクミヤクが楽しんでる様子を折り紙などで表現しました。



職員が作品のテーマについて話すと「こんなはどう？」と皆さん次々にアイデアを出してくれま。また、利用者さん同士で作り方を教え合い、つながりの輪が広がっています。職員が作った折り紙の見本集は、一工程ずつ説明していて、利用者さんが持ち帰って家で作ることもできます。



（済生記者 林 嘉夏）

topics

〔福岡〕大牟田病院 絆を深められた一日

6月8日、佐賀県唐津市で第49回済生会九州ブロック親善ソフトボール大会が開催され、当院は総勢27人で参加しました。試合序盤には、豪快なホームランが飛び出し、会場の期待が一気に高まりました。しかしその後は試合を思うように運べず、最終的に2敗1引き分けという悔しい結果に。Aパート残留は残念ながらありませんでした。



も、試合中はベンチから絶え間なく声援が飛び交い、新人選手が初ヒットを放った瞬間には、全員一丸となって

喜びを分かち合いました。普段はあまり話す機会がなかったメンバー同士も、笑い合い、励まし合う姿が見られました。気づけば、当院の中にたくさんのおさなっつながりが生まれていました。勝敗を差し置いて、仲間との絆を深められた一日。これこそが、この大会の最大の魅力だったと実感しています。

（放射線科 技師長 中村晋士夫）

新潟県中央基幹病院

専門学校と連携して 病院見学ツアー

三条看護・医療・歯科衛生専門学校とのオープンキャンパスの一環で、7月19日と8月10日に当院で病院見学ツアーを開催しました。

看護師志望や進路に迷っている高校生とその保護者を対象とし、1回目は計8人、2回目は計20人が参加。病院全体を見学する中で、看護師が働く各病棟の特徴を知ること、重点を置き、主にスタッフしか立ち入ることができない場所を案内しました。学生からは「専門学校のすぐ



近くに実習先の病院があることがとても魅力的」「専門学校の卒業生が県中央基幹病院に勤務していることが知れてよかった」などの声を聞くことができました。

専門学校からは「この機会をそれぞれの進路選択に生かしていただき、県内で活躍する医療人が1人でも増えたらうれしい」とのコментарがありました。（総務広報課 富澤 環）

〔愛媛〕松山在宅生活復帰支援 センターハートフル済生会 移動スーパーがやって来た

6月30日から、毎週月曜日から後、当施設の玄関先へ、移動スーパー「とくし丸」が来てくれます。入居者さんにとって



は買い物をする久しぶりの機会です、初日は大にぎわいでした。お肉や生魚、握り寿司など品揃えも豊富で、第2回の販売となった7月7日も12人の入居者さんで活気にあふれました。特

に「ところてん」と「たこ焼き」が大人気で、「何十年ぶりに食べたんだよ」と嬉しそうに話す入居者さんも。また、いさき（三枚おろし）を購入し「その夜は刺身と煮魚にしたよ」と料理の写真を見せてくださる方もいました。

ラジオでプレコンセプションケアを解説

（東京）中央病院

が、パーソナリティーの2人ととても和やかな雰囲気話していました。放送内容は番組のYouTube公式チャンネルにも公開されていますので、ぜひ聴いてみてください。

（事務次長代理 町田洋治）

プレコンセプションケアの 企業向けセミナーを開催

（東京）中央病院

7月23日、東京都港区にある日本電気株式会社（NEC）本社で「一緒に働く人の体調変化」に気づけていますか？家庭でも職場でも役立つ、女性の健康の話」と題して、企業向けプレコンセプションケアセミナーを開催しました。



ラジオ出演は初めてという柏原医師でした



YouTube
公式チャンネル



講演後には会場から多くの質問があり、参加した皆さんに関心を持っていたのだと実感しています。

（事務次長代理 町田洋治）

topics



備蓄しています。これは患者さんと職員の3日分に相当する分量です。今回の寄贈は

回寄贈は

備蓄のアル

ファ米の入

れ替え検討

中に、生活

困窮世帯へ

の支援物資

が届いてい

ないという

新聞記事を

目にしたこ

とがきつか

けでした。

贈呈式に

は、池田

智明病院

長、松本由

紀管理栄養

課長、堤洋

子MSWと筆者が出席。池田

病院長は、「支援物資を求める

一人でも多くの方にお役立

ただければ、引き続き支援、協

力したいと思っています」と挨拶

し、担当の方からは「米の価

格が高止まりする中で非常にあ

りがたい」と喜びの声をいた

しました。

(用度課長/施設課長 山川 剛)



8月7日、ホームケア支援課主催で「第10回在宅をともに考える会」を開催しました。多職種100人近くが集まり、研修医の積極的な参加も目立ちました。

今回は2部制で、前半は循環器内科の川上利香科長が登壇し「心不全ってどんな病気？」をテーマに講義を行いました。後半は「地域で支える心不全患者の暮らし」についてカンファレンスを実施。各課題について、時間が足りなくなるほど活発な議論が交わされました。

在宅医療・介護・福祉の連携と体制構築を目指して

〈大阪〉吹田病院

〈北海道〉小樽老健はまなす 2年目のはまなす農園野菜や果実を出荷開始

収穫2年目を迎えたはまなす農園では、農園長の本間勝利事務長・看護介護長が丹精込めて育てたトマト、ピーマン、ブルーベリーなどが順調に生育しています。

7月に入ってから少しずつ収穫し、当施設の窓口で販売していましたが、22日には就労継続支援事業所ぶらっそに本年度初出荷。同施設での販売やジャムなどへの加工を行なう予定です。



今年のブルーベリー収穫の際はは入所者で果物農家のSさんも

手伝ってくれました。農家だけあって手際が良く、我々も勉強させていただきました。

ちなみに、どこから聞きつけたのか、はまなす特製の甘酸っぱくおいしいブルーベリーを食しにスズメバチが現われて、収穫前の実をおいしそうに食べています。自然のままの環境の中で栽培することができていることを実感しました。

(済生記者 伝法俊和)

〈鳥取〉境港総合病院 看護管理者の指導力、マネジメント力を高める

看護部主催の「看護管理研修」が、当院看護管理者計23人を対象に毎月当院会議室で行なわれています。この研修は看護管理者のリーダーシップやマネジメント力を高めることを目的としており、主に大田麻紀看護部長が講師を務めています。

今年度の看護部の目標は「看護をデータで評価し患者満足度を向上させる」「職責を果たし自己を成長させる」の二つです。直近の研修は7月24日で、「当院の看護部教育の現状」をテーマに行ないました。

(済生記者 亀尾美子)

〈三重〉松阪総合病院 非常食を生活困窮世帯へ

7月9日、松阪社会福祉協議会・フードバンク松阪に3000食のアルファ米を届けました。

当院は災害等の発生に備えて延べ5400食の水と食料を



身近な事例を交えながらの実践的な内容に、参加者たちは熱心に耳を傾け、メモをとっていました。また、「看護の現場で日々直面している課題に、ぜひ生かしていきたい」との声も聞かれました。

看護管理研修は今後も月1回、続けて実施していきます。

熱い思いで採用に全力

〈埼玉〉川口総合病院

採用担当の筆者のモットーは「丁寧・タイムリーに動く!」。今年の夏も猛烈に採用活動に励んでいます。

7月9日はソニックシティで開催された2025年度埼玉県内高校生対象合同企業説明会に出展し、38人の高校生が当院ブースを訪れてくれま



地域全体で在宅医療を考えることを目的に始まった本会は3年目を迎え、「顔の見える関係性づくり」から新たに「在宅医療・介護・福祉の連携と体制構築」のステージへと進みます。今後とも会の継続とともに医療・介護連携を「机上の理想」ではなく、「現場で機能」するものにしていきます。

(地域医療支援部長 和田陽子)

した。「地元で誰かの役に立ちたい」という声に触れ、筆者らも元気をもらった一日でした。

8月4日には、高校卒業予定の2026年度新卒事務職員・看護助手向け病院説明会を開催し、13人の高校生が参加。スライドや動画で当院を紹介し、院内見学も実施しました。

「仕事のやりがいとは?」「職員寮には入れますか?」など多くの質問が飛び交い、進路に向き合う姿が印象的でした。最後に私から「自分の判断軸を持って企業選択を」とエールを送りました。

(人事・総務課 本橋和宏)

再び看護現場へ！初の再チャレンジ研修

山口総合病院

山口県看護協会からの要請で、当院初の「再チャレンジ研修」を6月5・12・26日の3日間開催しました。

この研修は、看護の現場から離れていた看護師が再び看護技術を習得し、自信を持って復帰するためのもので、今回の受講者は1人でした。

研修では医療シミュレーターを使用し、注射の実施や急変時の対応といった実践的な体験に加え、医療安全や感染対策などの講義も組み入れ、受講者が充実した3日間を過ごせるように工夫しました。

受講者は来年4月の再就職を目指しており、「プランクがあることで再び看護技術習得と自信をつけた」と意欲的に研修に取り組んでいました。まだまだ子育てなどで看護

護の現場から離れている方も多い中、今後も看護職への復帰の支援活動を継続していきたいと思っています。

(看護部 伊藤慶子)

滋賀県済生会訪問看護ステーション

ゼストスケジュール導入事例紹介がウェブ公開

訪問看護ステーション管理者にとって毎月のスケジュール作成は多くの労力を要します。100人以上の利用者さんの希望とスタッフの力量や訪問日の業務量を考慮しつつ、入退院による変更や新規利用者の調整もあり、変更のない日はありません。

当事業所は済生会法人内共同購入を利用し、昨年11月に「ゼストスケジュール」のトライアルを始め、3月から本格使用に至りました。

このサービスでは、利用者さんと職員の情報を入力すると暫定スケジュールが組まれます。日々の調整は必要ですが、労



力は半分以下に減少。空き状況も一目で分かり、新規相談にも即応できるようになりました。

ゼストのホームページでは当事業所の導入事例が紹介されています。興味のある方はぜひご覧ください。

(滋賀県済生会在宅支援センター センター長 安井明子)

熊本福祉センター

ドキドキワクワク！3施設親睦ベタंक大会

利用者間の交流を目的として、6月28日に当センターの3施設(かがやき、ほほえみ、ウイズ)



た、一緒に試合を見て楽しんだり、仲間と話したりと利用者同士との交流も進み、たくさん笑顔が見られました。

筆者所属のほほえみチームは

勝てそうな試合もあったものの、結果は……。次回大会に向けてさらなるレベルアップを目指して練習を積んでいきたいと思っています。

(支援員 岩下慶子)

茨城 神栖済生会病院 夏休みメディカル教室 今年度は病院で医療体験

8月3日、神栖市主催の「夏休みメディカル教室」が市内3病院で開催され、小学5年から中学3年までの84人が参加、うち28人が当院に来院しました。

子どもたちに命の尊さと思いやりの心を教え、医療に対する興味を高めることが目的で、当院は3年前から協力。今年度は



神栖市制20周年記念事業として規模を拡大し、病院が各学校に出向くのではなく、病院に訪問してもらいう形で実施されました。当院では手術体験、薬剤科での軟膏調剤体験などを行ない、特に腹腔鏡下手術の模擬体験では、外科の医師からアドバイスを受けながら真剣な表情で鉗子を扱う姿が印象的でした。

子どもたちからは「もっと練習したら上手になって、人の役に立つことができるのかなと興味を湧いた」などの感想が寄せられました。

(済生記者 江口裕紀)

三重 明和病院 食糧品など計1060個をフードバンクへ寄付

令和2年のコロナ禍で始めた年2回の食料支援事業が、今回で10回目となりました。全職員の家庭から提供できる食糧品や日用品を募り、8月4日はNPO法人フードバンク松阪、5日はフードバンクISE、7日はNPO法人みんなの食堂こむすび舎めいわ町に、合計1060個の食糧品や日用品をお届けしました。



フードバンクの担当者からは「企業からの寄付が減少傾向にある中、ひとり親世帯からの支援の依頼が増加。対象者を絞ったり、今まで支援してきた方へ支援の中止を行なわなければな

らない状況です」との声がありました。

一般の物価高騰により、何とか生活ができていた世帯が困窮するような状況となっており、当院のこの活動に対して感謝の言葉をいただきました。

(医療社会事業課

医療相談員 小竹恵美)

〈新潟〉 特養長和園 大迫力の作品披露

今年3月頃から、利用者さんが日々緻密な手作業で作り上げた「貼り絵」の作品を施設のロビーで展示しています。

細かく切りそろえた色とりどりの折り紙を、一枚一枚丁寧に貼りながら作品を制作。出来上がった作品は壁いっぱいに表示され、多くの方々に楽しんでいただきました。



この作品展は、普段から貼り絵を楽しんでいる皆さんが作品



を披露できるようにと企画。作品を観た方からは「すごい!」「きれいで迫力がある!」といった感嘆の声が聞かれ、皆さんも大喜びでした。

今後もこのような作品作りの取り組みを通じて、皆さんが楽しみながら日々を過ごす活動の場を提供していきたいと思えます。

(済生記者 布施優子)

〈山形〉 はやぶさ保育園 気合十分のスイカ割り 甘くておいしく大満足

夏といえば、なんといっても山形県産の「尾花沢スイカ」。山形県済生会の濱崎允支部長から子どもたちに、大きな大きな



スイカをいただき、7月31日に5歳児クラス23人と4歳児クラス22人でスイカ割りを行ないました。

大きなスイカを前に子どもたちは大喜び。気合は十分で、順番に挑戦するものの、なかなか当てることができず、悔しさをにじませていました。「次こそは絶対スイカを割るぞー!」と気合を入れ直し、棒を振りかざすと、ついにスイカに命中! 割れ目から真っ赤なスイカが見え、皆は大喜びでした!

給食の際に全園児でいただき、大きな口を開けおいしそうに頬張って食べていました。「うわあ! 甘くておいしい!」と次々に子どもたちの声が上がって、赤い部分がなくなるまで食べるほどでした。

(済生記者 熊谷舞寿美)

〈東京〉 向島病院 食育で笑顔をつくる

6月18〜22日、墨田区役所で開催された食育の啓発イベント「すみだ食育フェス2025」食育でみんながつくる笑顔の環



」にポスター参加しました。墨田区には区内の医療・福祉・介護分野で働く管理栄養士や栄



養士が活動する「すみだ地域栄養ネットワーク」という組織があり、当院の栄養管理科も参画しています。当院は今回、この組織の一施設としてポスターの掲出を行いました。

当院はフードパントリーを毎月開催し、ひとり親家庭の食の支援に取り組んでいます。墨田

区の北部地域では唯一の活動ということもあり、より多くの方々に知ってもらいたく、食育フェスを通じて紹介しました。当院の食育に関わる活動が、皆の笑顔をもっともつとつづいていけるよう、これからも熱意を持って取り組んでいきます。

(済生記者 加藤建志)

小学校児童との交流が笑顔と活力の源に

特養なでしこ香川

6月12日、近隣にある多肥小学校の4年生が、入居者さんとデイサービス利用者さんとの交流学習のため来所しました。

この交流学習には4年生約210人が参加し、3回に分かれて実施。「今日会えることを楽しみにしていました」と挨拶をすると、児童が丹精込めて育てた鉢植えの花をプレゼント。そしてソーラン節のパワフルな演舞披露の後は、交流の時間です。

児童は「好きな色は?」「昔やっていた遊びは?」「この辺りの昔の様子は?」などと質問。交流の会話の中には職員も知らなかった利用者さんの新たな一面も見られました。



組の親子が参加しました。

医師、栄養士、看護師による食物アレルギーについての各講義後、子どもたちが自身の食物アレルギーを考えながらお買い物体験やレストランでのメニュー選びを実施。子どもたちは食品の裏に書かれている表示を見ながら、楽しそうに食品サンプルやメニューを選んでいました。

その後、エビメンの打ち方について、練習用のトレーナーを用いて親子で一緒に練習を行いました。皆が真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。

(済生記者 鈴木亜希乃)

6年ぶりの親子教室再開

〈大阪〉 中津病院

7月29日、小児科・免疫アレルギーセンターによるアレルギー教室を開催しました。コロナ禍を経て約6年ぶりの再開となりました。

今回は「親子で学ぼう! 親子食物アレルギー教室」で、3

topics



〈山形〉養護（盲）老人ホーム 山静寿 のど自慢大会で12人が熱唱

7月30日、当施設2階のなでしこ集会所で「のど自慢大会」を開催し、12人の入所者さんが熱唱を披露しました。

歌うことはストレス解消や脳の活性化につながるといわれて

健康相談・血圧測定40人、医療相談・脳卒中相談20人、骨密度測定100人、歩行チェック70人、脳年齢チェック85人、ベジチェック・糖化測定109人、フレイルチェック85人と予想を大きく上回り、大勢の来場者でにぎわいました。

来場者からは「脳年齢チェックがゲームのようで楽しかった」「看護師さんに健康相談ができてよかった」などの声が寄せられました。

（済生記者 米井 悠）



います。また、歌うことが大好きという入所者さんも多いことから、このイベントを企画しました。

事前に参加者から歌いたい曲を聞き取りし、当日はくじ引きで歌う順を決定。歌いながら振り付けをするなど、参加者自身

も場を盛り上げてくれ、会場は一体感に包まれました。聞いている方も、知っている曲を口ずさんでいて楽しそうでした。

「楽しく参加できた」と話す参加者がいる一方で「昔より声が出なく、歌えなくなった」という声も。それだけに、歌声を披露する機会は貴重であると感じていただけではないかと思えます。

（済生記者 丹 秀樹）

〈島根〉老健高砂ケアセンター かき氷で暑い夏をしのぐ

8月6日、気温32度超えの中、通所リハビリテーションの屋外で利用者さんにかき氷を食べてもらいました。暑い中、通所リハビリテーションの盆子原篤科長はじめスタッフがかけ氷機で水を削り、シロップをかけ利用者さんに提供しました。



ボーかき氷を作っていたいただきました!! とてもおいしかったです。スタッフの皆さん、暑い中ご苦労様でした。

（済生記者 木下 英）



ワクワクいっぱい！ 病院お仕事体験ツアー

〈新潟〉三条病院

8月3日、当院で「小学生病院お仕事体験ツアー」を開催し、三条市と燕市の小学5・6年生19人が参加しました。

8回目の今回は内容をパワーアップし、医師・看護師体験に加え薬剤師・臨床工学技士体験もできるように！

薬剤師体験では、ラムネを薬に見立てて粉砕や分包の作業にチャレンジ。普段見ることできない調剤の裏側に子どもたちは興味津々。

臨床工学技士体験では、エコーで友だちの血管を観察。本物の機械を手に、驚きやワクワクした表情を見せていました。

体験後はおながペコペコ。院内レストランで、皆で仲良くカレーを食べました。

子どもたちからは「医療機器を操作するのがおもしろかった」「将来、薬剤師になりたい」「新しい友だちができた」など、うれしい感想がたくさん寄せられました。

（済生記者 樋口 拓也）



〈静岡〉川奈臨海学園 高校生が温泉旅館で おもてなしを体験

伊東市にある温泉旅館「青山やまと」で、7月25・29日の2日間、当園の高校生5人が職業体験を行いました。昨年の交流をきっかけに旅館業に興味を持った子どもたちが、実際の業務を通して、旅館の仕事とおもてなしの心に触れる貴重な機会となりました。

現場では客室清掃とチェックイン時のお出迎えを体験。社員の方の指導のもと、効率的な掃

多種多様な健康測定で 予想を上回る盛況ぶり

〈奈良〉中和病院

7月4日、イオン桜井店のリニューアルイベントで「知って、測って、健康アップ」をテーマに医療・健康相談会を開催しました。

当日は開場前から多くの人が並び、多種多様な健康測定を実施。当院職員12人、老健シルバークケアまほろば職員2人、地域包括支援センターきぼう職員5人の計19人がスタッフとして参加しました。

各コーナーの延べ来場者数は

除の手順や備品の配置、打ち合わせの要点などを学び、お出迎えでは荷物のお預かりやウエルカムドリンク等の提供を通じておもてなしを学びました。

参加した子どもの一人は「すごく足が疲れた！ 半日しかやっていない私でもこんなに辛いの、旅館の人は毎日働いていてすごいな」と話し、体験を通して労働の大変さとそれを表に出さないプロの姿勢を感じ取っていました。

（自立支援担当職員 石井結希）

寄付総額 3000万円超 救急車更新のためのCF

新潟病院

4月21日から7月18日まで実施した病院救急車の更新を目的としたクラウドファンディング（CF）は、最終日に第3目標の3000万円に到達し、成功裏に終えることができました。



申し込み総数は個人・団体合わせて延べ536件で、寄付総額は3110万1287円となりました。多くの方々から寄付とともに心温まる応援メッセージをいただき、職員一同感激しています。ご支援くださったすべての皆さんに心より感謝申し上げます。

新しい救急車は、被災地での救急（DMAT）活動のほか、新潟市の救急拠点病院として患者さんの転院搬送にも活用する予定です。

納車された際には報道機関にも発表し、改めて市民・県民・医療機関の方々に広く当院の取り組みを知っていただきたいと考えています。

（経営企画室 五十嵐道徳）

〈山形〉特養やまのべ荘 短冊に願いを込めて

7月初旬から中旬まで、毎年恒例の七夕祭りを開催しました。施設職員が提供してくれた本物の竹の葉に、25人ほどの入所者さんが思い思いに願い事を書いた短冊や美しい七夕飾りが吊るされ、慣れ親しんだ伝統行事を楽しむことができました。

竹飾りの前で「今年も七夕が来たなあ」「願い事なんか思い



つかない」と笑顔で語り合う皆さんの姿に、日々の暮らしを彩る年中行事の大切さを改めて感じました。

伝統的な暮らしの文化を継承し、四季の節目を祝うことは生活に潤いを与えてくれます。これから入所者の皆さんが楽しみにしている七夕行事を続けていきたいと考えています。また、日頃の健康管理にも気をつけ、来年も元気に七夕を祝ってもらえるよう、職員一同努めます。

（済生記者 岩田恭寛）

滋賀県病院 外傷診療施設機能評価 断らない救急をアピール

7月31日、当院は外傷診療施設

設機能評価を受審しました。審査は面接に加え、救急病棟や救命救急センターを巡る訪問審査、さらに過去症例を振り返るケースレビューで実施されました。

面接では「断らない救急」を実践し、すべての外傷患者を受け入れていることをアピール。部門間の連携も良好で、特に輸血部との協力体制が高く評価されました。

その後、サーベイヤーが救急病棟を訪問し、緊急輸血の体制や初療室の手術設備が確認されました。ケースレビューでは、現場での判断や評価方法について指摘がありました。

講評では「患者を断らない」という理念の徹底や修正予測外



みどりの里の見学では、入所さんが「你好」と書かれた紙を掲げて出迎え、学生たちから大きな拍手が沸き起こった



台湾の看護大学生が学ぶ 最前線の医療・福祉

7月30・31日、台湾の美和科技大学の看護学生11人が日本の医療・福祉現場を学ぶため、当院と済生会ビレッジを訪れました。

初日の午前はオリエンテーシ

死亡の低さが評価され、自己評価より8点アップの136点を獲得。審査結果は9月頃に出る予定です。

（済生記者 鶴飼健成）

〈北海道〉小樽病院

ヨンの後、モルック体験で北海道済生会職員と交流を深めました。午後は済生会ビレッジを見学し、清水雅成ソーシャルインクルージョン推進室長がフードバンク事業などの取り組みについてレクチャーしました。

2日目の午前は当院と、重症心身がい児（者）施設みどりの里の紹介を行いました。当院の中川尚美看護部次長が看護部の概要、教育方針、部署紹介、チーム医療に関する説明を行い、学生のみならず引率の先生からも多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行なわれました。

今回の訪問を通じて得た学びが、今後の台湾での看護・福祉の実践に生かされることを強く願っています。

（広報室長 松尾寛志）

ものづくりフェスタで 健康と医療を楽しく体験

8月9日、大正区役所で「大正ものづくりフェスタ2025」が開催されました。区内企業や学生、行政が協力し、ものづくりの魅力を伝えるイベントで、



多数の来場者がありました。

当院は、筋肉チェックや手洗いチェッカー、制服での記念撮影など、来場者が楽しみながら健康や医療に触れる体験型イベントを実施しました。筋肉チェックは開始直後からほとんど予約が入り、手洗いチェッカーでは「こんなに汚れが残っているの!？」と皆さんびっくり。制服体験ブースでは、子どもたちが本物の聴診器を使ってパパやママの心音を聞き、笑顔を見せました。

参加したスタッフは「医療に興味を持ってもらえるきっかけになった」「地域の方と笑顔で交流できた」と感想を寄せています。

（済生記者 高木明日美）

〈滋賀〉 守山市民病院 他部署の取り組みを知り 医療の質向上につなげる

7月12日に院内学術研究発表会を開催しました。今年は8部署と1チームから11演題の発表があり、発表者や審査員を含む54人が参加しました。

審査員による審査と観客投票により、血液透析中の運動療法の効果を比較検討した多賀谷允



人工透析センター長が最優秀賞に選ばれました。また、ロボット歩行練習を行なった症例を報告したりハビリテーション技術科の田井中歩理学療法士が優秀賞を、コスト削減の取り組みを報告した総務課の玉井凱さんが観客賞を受賞しました。



取り組みを知ることができ、とても刺激になった」との声が多数寄せられました。

（済生記者 中嶋元香）

〈大阪〉 吹田病院 コロナ禍で休止していた 病院ボランティアを再開

コロナ禍により病院ボランティアの活動を休止せざるを得ない状況となっていました。活動再開することになり、5月28日に地域に向けて募集を開始しました。

8月現在、ポスターやホームページを見て問い合わせをしたという2人が登録。患者さんの誘導や自動再来受付機の案内など、職員だけではフォローしき



れない患者さん対応を行なっていたら大変助かっていました。病院ボランティア募集を始めてまだ2カ月ほどしか経過して

（医事2課 中川祐紀）

〈大阪〉 泉尾病院

「LINEな先生誕生！」 LINEスタンプ配信開始

当院ではオリジナルLINEスタンプを制作し、7月22日に



配信を開始しました。誕生したのは、地域に根差したキャラクター「LINEな先生」。モチーフは、リトル沖繩とも呼ばれる大正区の文化に着想を得たシーサーと、大正区の花・ツツジです。名前の「LINEな先生」は、シーサーと済生会の紋章「ナデシコ」を組み合わせました。キャラクターの考案からイラスト制作まで、すべて薬剤科で広報委員の奥田彩水さんが担当しています。

現在は、患者さんを対象に無料配布を実施中。LINEスタンプページ（二次元コード）か



第45回済生会関東ブロック 親善ソフトボール大会

未勝利も次への一歩 来年度は主催病院として

〈埼玉〉 鴻巣病院

6月8日、第45回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会が東京都大井町中央海浜公園で開催され、全国大会出場を目指す16病院で熱戦が繰り広げられました。

1回戦は静岡済生会総合病院との対戦で、結果は1対4で敗戦となりました。その後の敢闘賞をかけたトーナメントで〈千葉〉習志野病院と対戦するも健闘虚しく敗退となり、今大会はまさかの未勝利……。結果は残念でしたが、大きなけがもなく楽しく試合を終えることができ、次への一歩として大切な経験となりました。

来年度の関東ブロック大会は

ら購入可能です。今後も80周年のタイミングなどで、新たなスタンプ制作を予定しています。「LINEな先生」を通して、地域とのつながりや病院の温もりを感じていただければ幸いです。

（済生記者 高木明日実）

〈兵庫〉 地域密着型小規模特養

「願い事がかなうように」 なでしこ神戸

七夕行事を7月7日に開催し、入居者さん29人、職員7人が参加しました。

季節を感じるイベントを通して、少しでも日常生活に変化を感じてもらえればと思い企画。それぞれ短冊に「願い事」を書き、大きな笹とミニ笹を作り写真撮影を行いました。昼食に



短冊には「病気をしないように」「家族が健康でいますように」「美味しい物が食べたい」などたくさんの願い事が書かれていました。

これからも入居者さんの「願い事」が少しでもかなうように、毎日の生活の支援を行なっていきます。

（なでしこ介護課 介護士 石飛裕子）

topics



気で、画用紙を編み込む遊びに夢中になり、完成時の達成感もとても大きい様子が見られます。子どもたちの力作は、サッカ



楽しんでいきます。保育士全員が、子どもの自主性を育み、個々の成長に合わせた環境を作るモンテッソーリ教育の資格を持つ職員から研修を受け、子どもたちがやりたい時に自分でできるように、道具の置き場所や置き方などを工夫しました。その結果、子どもたちは今まで以上に集中して遊び込むように。特にモンテッソーリの遊びが人

教室のコーチへのお礼や、地域の方との交流の際のメッセージカードとして活用。机上でじっくり取り組む時間と、友だちと身体を動かす時間を切り替えることで、「静」と「動」のメリハリを付けた活動を行なっています。

(保育士 久保田美紀)

**福井県済生会病院
病院で働く親の仕事
身近に感じて**

7月23日、職員の子どもを対象にした夏休みの職場体験「サマースクール」を実施し、31人が参加しました。

2010年から開催し毎年好評で、申し込んだ家庭には事前に院長からの招待状をお届け。当日は親の職場見学に加え、心肺蘇生法やAEDの使い方を学ぶ「BLSジュニアコース」、手洗い検定、職場体験(医師・看護師のほか医療職の中から選択)など、盛りだくさんのプログラムを用意しました。

参加した子どもたちからは「お父さんお母さん、いつもありがとう」「自由研究に生かしたい」といった声がありました。

**PEMECコース開催で
顔の見える関係づくりへ**

8月9日、当院で日本臨床救急医学会主催の第4回千里PEMECコースを開催し、受講者18人、インストラクター23人が参加しました。

豊能医療圏の救急隊と当院の医師・看護師がともに



PEMECを受講することで、内因性救急症例における緊急度・重症度の判断に関して共通認識を持つことが目的です。

2023年から年2回、継続的に開催していますが、運営スタッフの赤井知香子看護師は「受講を修了した消防職員の皆さんがインストラクターとして参加してくださるようになり、これまで以上に顔の見える関係づくりが進んでいます。今後も、豊能医療圏の救命率向上につなげていきたい」と話していました。

(済生記者 二階堂潤江)



今年度開催された「CVIT 2025」で、当院の志手淳也院長が大会長を務めました。CVIT(日本心臓血管インターベンション治療学会)とは、カテーテル治療を行なう循環器内科医、血管外科医などが所属する学会です。

学会企画として7月15〜21日、大阪・関西万博にCVITブースを出展。来場者は当院で行なわれたカテーテル治療をVR(仮想現実)で体験したり、心臓の血管モデルを使ったコミュニケーションでカテーテルの操作に挑戦しました。

出展初日には心筋梗塞の啓発講演が行なわれ、当院循環器内科の上月周副部長が出演。「お

しえて！ドクター」と題し、心筋梗塞の症状、カテーテル治療などについてクイズ形式で学ぶことができる講演で、子どもから大人まで約80人が参加し大盛況でした。

(済生記者 鈴木亜希乃)

**三重 明和病院
地域包括ケアシステムの
構築をリードする**

7月24日、地域包括ケアシステム構築に向けて、明和町主催の「在宅医療と介護の多職種連携会議」が当院パレスホールで開催され、明和町長をはじめ行政関係者、医療機関、薬局、介護保険事業者などで働く専門職約70人が集まりました。

会議では「介護予防大作戦vol.3」難病(パーキンソン病)実践事例に学ぶ多職種支援について」と題して、講演会と事例検討会を実施。事例提供者およびパネリストとして、富本秀和院長をはじめ多くの職員が登壇しました。

参加者からは「多職種が連携し支援することにより、重度化防止につながっていることが学べた」「介護重度化予防に向け

**暑い夏は机上遊びに夢中
長野保育園**

今年の夏は猛暑が続く、当園でも子どもたちが室内で過ごす日が多くなっています。3〜5歳児の55人は机上遊びを中心に



万博にブース出展で医療を身近に

(大阪) 中津病院

三重 明和病院

長野保育園

暑い夏は机上遊びに夢中

長野保育園

〈山形〉 特養愛日荘
甘くておいしい！
真っ赤なサクラランボ

6月23日、今年も当施設の家族会から入居者さんに、果物のプレゼントが贈られました。これは家族会の恒例事業の一つで「入居者の皆さんに旬の果物を味わってもらい、季節感を感じてほしい」というものです。今年は異常気象の影響で山形県産のサクラランボが豊作という状況ではなく、購入先の選定に苦労しましたが、無事提供できました。



入居者の皆さんは、真っ赤な実を見て思わず笑顔に。「赤くておいしい」「やっぱりこの時期はサクラランボだね」などの喜びや感動の声が聞かれました。今年の果物のプレゼントも入居者さんにとって「食」

〈大阪〉 泉尾病院
もしもに備え真剣訓練
命を守る行動力を育む

による季節を感じ、思い出を振り返る大切な機会になりました。今後も家族会と連携しながら、入居者の皆さんの生活が潤うようにしていきたいです。
(済生記者 高橋 睦)



7月28日、大正消防署の協力のもと夏季消防訓練を実施。全職種約40人が参加し、消火器や消火栓の取り扱い、搬送訓練、防火シャッターの操作、煙テント体験、伝言訓練など、多岐にわたる内容を行いました。

煙テントでは、一歩前が見えない状況の中で避難する怖さを体験。伝言訓練では、焦りの中で情報を正しく伝えることの難しさに気づかされました。

最後の想定訓練では、透視室での火災を想定し、実際に本番さながらの緊張感の中で職員が動きながら、通報・初期消火・避難誘導・搬送までの一連の対応を行いました。

参加者からは「頭では分かっているけど、実際の場面では優先順位をつけることや周囲を冷静

山形済生病院
災害備蓄食を2団体へ寄付

当院では、7月に二つの団体へ災害備蓄食の寄付を行いました。

ひとり親家庭や生活困窮者などへ直接配布するフードパントリーの活動を行なっている子育て支援ほほえみ食堂へは、7月18日、カレーライス180個・鶏そぼろ玉子とじ丼240個・ハヤシライス198個を寄付しました。

若者相談支援や女性の居場所



石井政次院長(左)が発達支援研究センターへ寄付

づくり、障がい者就労や生活保護就労など幅広く活動している認定NPO法人発達支援研究センターへは、7月30日、カロリーメイト180個分を寄付しました。

(済生記者 柏倉汐里)

〈栃木〉 宇都宮病院
ふれあい看護体験で
夢への第一歩を

7月2・16日、栃木県内の高

毎年ふれあい看護体験が「看護師になりたい」「看護師の仕事を経験してみたい」と考える高校生の背中を押すきっかけとなることを祈っています。
(済生記者 川原彩花)

〈山口〉 下関総合病院
看護師になりたい！
一日ナース体験

7月29日、県内の中学生を対象に「一日ナース体験」を開催し、12人が参加しました。

希望の白衣に着替えた後、感染管理・救急看護・集中ケア認定看護師などの指導の下、さまざまな体験を行いました。

手洗い体験では感染対策のための手順通りでも洗い残しが見られ、しっかりと丁寧に洗う重要性を学びました。AEDの取り扱い、心臓マッサージ体験では、こういった状況で行なうかなどを学んでから体験。その後、病棟で看護師が行なう手浴や洗髪などのケアを見学しました。

最後に首藤悦子看護部長が「看護の仕事が少しイメージできたと思います。将来ここで一緒に働くことを楽しみにしています」と挨拶。看護師、医療従事者になりたいとほぼ全員が答え、「ケアをしている看護師の姿は素敵だった」との意見もありました。
(済生記者 安岡佳成)



〈東京〉 向島病院 防災意識の重要性を 審査会参加で再確認

7月30日、向島消防署職員4人の立ち会いのもと、自衛消防訓練審査会が行なわれました。本審査会は日頃の自衛消防訓練の成果と自衛消防技術の向上を図るため、事業所ごとに実施されています。

当院は2号消火栓の部に2隊4人が参加。当日は消火・通報・避難誘導といった各役割を遂行しつつ、病院職員同士の声かけ



による細かな連携が安全な避難につながることを実感しました。チームワークとともに、心と体で「もしも」に備える一人ひとりの防災意識が患者さんの安心・安全を守るために重要だということ忘れずに、これからも防災業務に取り組んでいきます。

2号消火栓の部の参加12隊（9事業所）はそれぞれが審査を受け、9月中旬に速報メールで結果が届く予定です。

（リハビリテーション科

中川昌樹

〈埼玉〉 川口総合病院 病院機能評価を受審

7月10・11日の2日間、日本



医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。

約半年にわたり準備を進め、無事に本番を迎えることができました。病院機能評価は、病院全体の運営や医療提供体制が適切かを外部の専門家が確認し、課題の把握と医療の質向上を目指すもので、5年に1度実施されます。

今回の審査では、サーベイヤ16人をはじめ計8人が来院し、30部門訪問やカルテレビューなど多岐にわたる調査が行なわれました。筆者は事前準備を初めて担当したため、前回の更新に携わった人や機構に確認を重ねながら、一つひとつ丁寧に対応を進めました。



当日、大きなトラブルもなく終えられたのは、職員の皆さんの協力のおかげです。本当にありがとうございます。結果は6〜8週間後に届く予定です。

（経営企画課 井上美智子）

香川県済生会病院 看護の奥深さを体験学習

8月8日と12日の2日間、地域の中学生・高校生を対象に「ふれあい看護体験」を実施しました。看護師を志す生徒が各日2人ずつ参加し、スクラップに着替



えて血圧や脈拍の測定、車椅子やストレッチャーの乗車・搬送、ベッドメイキングなどを体験。また、AEDの使用や心

臓マッサージの実習にも挑戦しました。

参加者からは「思っていたより体力を使う仕事だと感じた」「もし急に倒れた人がいたら救命救助ができるようになりたい」という声もあり、実践を通じて看護の奥深さを学んだ様子がうかがえました。

終了後には、スタッフ手作りの修了証書と、看護師をモチーフにしたワッペンをプレゼント。いつか同じ仲間として地域医療を支える日が来ることを、職員一同心より期待しています。

（済生記者 長尾美甫）

〈山形〉 小白川ケアセンター 地元大学生と利用者が 壁画を共同制作

8月4日、当センター1階のエントランスの壁に、山形大学地域教育文化学部の学生5人とデイサービスセンターの利用者さん5人が協同して壁画制作を行ないました。

はじめに、利用者が大切にしているものや興味のあるものについて、学生が聞き取りを実施。魚釣り、歌、家庭菜園、テニスなど聞き取った内容をもとにモ

チーフを厚紙に描いて切り取り、型どりをした上からローラーで絵具を塗っていきました。

機会が少ない利用者さんにとっても、「この色を塗った方がいかな」「大学ではどんな勉強をしているの」など自然な会話をしているの、楽しい時間を過ごすことができました。

（済生記者 岩城多香代）

〈新潟〉 特養長和園 夜空に大輪の花が咲く 花火観覧会

7月26日に第21回三条夏祭り花火大会が開催され、約4000発の花火が打ち上げられました。当園は花火の打ち上げ会場にとても近く、大迫力の花火を間近で観ることができました。

今年も三条の夜空に大輪の花火が打ち上がり、とても素敵な夏の思い出となりました。

（済生記者 布施優子）

当日は花火の打ち上げ開始時間に合わせて19人の利用者者さんが当園の駐車場に集まり、花火の打ち上げを待ちわびていました。





北海道済生会

夏の小樽を彩る潮ねりこみ 101人が元気に踊りきる

小樽最大の夏祭り「第59回たる潮まつり」が7月25日から3日間開催され、約5000人が練り歩く26日のメイン行事「潮ねりこみ」に、北海道済生会から総勢101人が参加しました。

あいにくの雨模様でしたが、午後6時25分に市中心部のサンモール一番街をスタート。ゴールの小樽港第3号ふ頭中央ステージまで約1キロの道のりを、沿道の市民の皆さんから温かい応援をいただきながら、元気いっぱいに踊りきることができました。

今年は新入職員や職員の小さなお子さんたちも多数参加し、笑顔あふれる「ねりこみ」とな



りました。小樽の夏を彩る一助となったことをうれしく思います。

(小樽病院 広報室長 松尾寛志)

「島根」老健高砂ケアセンター 移転前最後の納涼祭

7月18日に施設の2階フロアを使用して高砂納涼祭を行いました。来年度、当施設は江津総合病院の5階フロアへ移転するため、この場での最後の納涼祭となりました。

今回は猛暑のため屋外ではなく、室内でできるだけのことをしようと、森脇伸哉納涼祭実行委員長を中心にスタッフが頑張って準備を進めました。その甲

前は残念ながら通らず、入居者さんは見ることができませんでした。

今年は自治会にお願いをしたところ、快くルートを変更し、当苑に来てくれることに！皆さんは今かかと少しそわそわ



斐あつて約50人のご家族が来場入所者さんと楽しいひと時を過ごしていただきました。

食べ物はかき氷、たい焼き、ゼリーを提供し、ジュースやお茶なども用意しました。中にはノンアルコールビールもあり、入所者さんが昔を懐かしむかのようにおいしそうに飲んでいま



した。

出し物はボランティアグループ・バアジューズさんによる演奏。楽しい音色に自然と入所者さんやご家族に笑みがこぼれていました。

(済生記者 木下 英)

「静岡」特養小鹿なでしこ苑 こども神輿がやって来た

8月2日、小鹿自治会の夏祭りが小鹿公園で開催されました。当苑が毎年用意する焼きそば400食とフランクフルト



650本は、大盛況の中、全て1時間半で完了しました。

小鹿自治会では毎年こども神輿を行なっていますが、当苑の

しながら「わっしょい、わっしょい！ お・し・か!!」と掛け声の練習をしてお神輿が来るのを待ちました。

20人弱の入居者さんが子どもたちが担ぐお神輿を見ることが

「和歌山」特養潮光園 ベランダで夏祭り

8月7日に当園の2階ベランダで「ベランダ夏祭り」を開催し、スタッフを含め約20人が参加しました。このイベントは日頃、室外に出る機会の少ない利用者の皆さんに、暑い夏の祭りの雰囲気味わっていただくために企画しました。

当日は金魚すくいや手持ち花火、噴出し花火などを実施。参加者の皆さんからは「子どものとき以来、80年ぶりや」「終戦後に花火をした。懐かしいわ」「などの声が上が



でき、皆さん穏やかさ、優しさ、笑顔が入り混じったような表情をしていました。入居者さんと地域の方々との関わり大切さを改めて感じる場面でした。

(地域ケア担当 望月亜紀)

「しんどい」「部屋に戻りたい」といった言葉は一切聞かれず、皆さん童心に戻って楽しんでいました。今後も室外でのイベントを企画したいと考えています。

(介護職員 染谷由美)



山口地域ケアセンター

「なでしこ法被」で 5年ぶりの参加！

山口祇園祭は、室町時代から600年以上続く伝統ある祭り、毎年7月20〜27日にかけて開催されています。今年も中日となる24日の夜には市の中心商店街を舞台に、市民総踊りが盛大に行なわれました。

当センターは、今年5年ぶりにこの市民総踊りへ参加。当日



は20人以上の職員が「なでしこ法被」を身にまとい、「大内の殿様」の曲に合わせて踊りを繰り返して披露しながら、活気あふれる商店街を練り歩きました。

私たちは今後も、地域とのつながりを大切にしながら、積極的に地域活動へ参加していき

いと考えています。

(済生記者 楊 玉華)

山形済生病院 手作りの緑日セットで 水ヨーヨーや金魚すくい

7月19日に当院の職員が利用している院内保育所で夏まつりが行なわれ、園児13人と保護者18人が参加しました。院内保育所では、季節に合わせてさまざまな行事を行なっています。

今回は、手作りの緑日セットで焼きそば屋さん、ジュース屋さんごっこなどお祭り気分を楽しみました。水ヨーヨーや金魚すくいの時間は、保護者の皆さんと子どもたちの笑い声であふ



もにぎやかに。甚兵衛を着て楽しむ子どもたちもいました。参加した子どもたちからは「水ヨーヨーが楽しかった」などの声が聞かれました。

(済生記者 柏倉汐里)

〔北海道〕小樽老健はまなす 焼き物の匂いにつられて みんな大集合！

8月に入り、北海道では例年になく暑さが続いています。皆さんに楽しんでもらおうと、8月6日に夏祭りを開催し、3階フロアの入所者さん40人ほどが参加しました。

メニューはお稲荷さん、焼きそば、フランクフルト、たこ焼き、焼き鳥、つくね、綿あめ、アイスクリーム。飲み物はジュース、甘酒、生ビール……と聞きたいところですが「ノンアルコール」でガマン(笑)。

朝からスタッフが準備を始めると、フロア内、エレベーター内に焼き物のいい匂いが……。匂いにつられて、入所者さんが集まって来ました。

食べ物がふるまわれると「おいしい」「久しぶり」など声が上がり、中には「食べすぎた」という方も。皆さん祭気分を満喫していました。

午後からも、ゲームやカラオケなどで楽しみました。

(済生記者 伝法俊和)



山形 特養ながまち荘 大迫力の「花笠踊り」と 出店で大盛り上がり

7月23日、長期入所、短期入

所の利用者さん約100人を対象に夏パーティーを開催しました。

パーティーでは山形夏の風物詩「花笠踊り」を民族文化サークル四方山会の皆さんに披露してもらいました。番傘を使用した大迫力の踊りを見て、皆さん「すごい!!」「上手だな」と拍手を送る姿が。カラオケ大会では職員がデュエットし、普段シヤイで口数の少ない利用者さんも美声を披露、大いに盛り上がり

ました。

〔大阪〕泉尾特養第二大正園 ピンポン玉入れや射的 スイカ割りに夢中！

7月29・30日、3階と4階の各フロアで夏祭りを開催し、利用者98人、職員約20人が参加しました。当日は新旧の夏らしい音楽を流し、フロアは明るく

ぎやかな雰囲気になりました。ガラガラ抽選会では色とりどりの景品を用意し、ピンポン玉入れゲームや射的では皆さん真剣な表情でチャレンジしていました。

お面コーナーでは懐かしいキャラクターなどが並び、いろいろなお面を手に取り、笑顔になる人も多く見られました。

そしてイベントの締めくくりはスイカ割り。力いっぱい棒を振る利用者さんの姿に、応援の声が飛び交い、大盛り上がりとなりました。

今年の夏の思い出の1ページになればうれしいです。

(済生記者 黒木洋輔)





伝統の山鉾を担ぎ 地域とともに汗をかく

7月26日、当院から大坪仁院長を筆頭に8人のスタッフが日田祇園（祭りは7月26・27日）に初参加しました。そろいの法被を着て、山鉾を担ぎ、沿道の皆さんから声援を受ける体験は想像以上に熱く、誇らしいものでした。来以降もぜひ継続参加したいと考えています。



地域のお祭りに参加することは医療と直接関係ないようにも思えますが、地域に根差した病院として、地域の皆さんと同じ空気を吸い、汗をかくことの大切さを実感しました。

〈大分〉 日田病院

たことも大きな収穫でした。また、当日現地まで足を運び、声援を送ってくれた職員にも感謝しています。今後も祇園や日田の行事を、職員とともに盛り上げていきたいと思っています。

（婦人科医長 佐藤祐輔）

〈北海道〉なでしこキッズ クラブ

夏祭り恒例おみこし 元気にわっしょい！

8月1日、小樽病院の院内保育所なでしこキッズクラブ恒例の夏祭りが開かれ、子どもたち23人がおみこし、山車の各チームで病院の周りを一周しました。今年の先生方お手製の山車はピカチュウ。おみこしの側面には、当日参加できなかった子も含む園児たちの顔写真を貼りました。

30度近い炎天下の下、浴衣や甚平でばっちり決めた子どもたちは帽子をかぶって元気に出立。先生の吹く笛に合わせて「わっしょい！ わっしょい！」と元気いっぱい。見守る父母たちは「がんばれ！ がんばれ！」と目を細め、先生方も懸命にうちわをあおいでいました。

園内に戻った子どもたちは、麦茶で一服した後、園庭で金魚クラゲすくいを楽しみ、緑日気分を味わいました。

（北海道・小樽病院
済生記者 定 淳志）



〈大阪〉富田林特養富美ヶ丘荘 夕涼み会でお祭り気分

8月8日に当荘で夕涼み会を開催し、特養・デイサービス・ショートステイの利用者さんが120人ほど参加しました。

りました。

（済生記者 長屋優治）

〈愛媛〉松山特養 6年ぶりに家族と過ごす 彩り華やかな夏祭り

7月13日、夏祭りを開催しました。新型コロナウイルス感染症が流行してから、利用者さんだけで楽しむ夏祭りを実施していましたが、今年は6年ぶりに家族を招いて開催することができました。子どもから孫、ひ孫世代の総勢100人が来所。甚平や浴衣姿で夏祭りを華やかに彩ってくれました。

ゲームコーナーでは、昔を思い出しながら親子で楽しんだり、



孫やひ孫の頑張る姿に目尻を下げたり、微笑ましい光景が見られました。

でも、やはり一番のにぎわいは屋台コーナーで、から揚げや焼きそばの香ばしい匂いにつられて大盛況。久しぶりの家族との会食の場となり、話が花が咲きました。

来年も今年の反省点を生かしながら、家族と楽しめる夏祭りを開催したいと思っています。

（済生記者 畑中利恵）

〈静岡〉特養小鹿苑 たくさん笑顔で 暑い夏を乗り切ろう

7月31日、特養部で恒例の夏祭りを開催しました。当日は入居者80人、ショートステイ利用



新型コロナウイルスの影響で、模擬店が各フロアを訪問する形で開催していましたが、今年度から1階事務所前で行なうことに。室内での開催ですが、祭り特有の雰囲気を感じてもらえるよう工夫しました。模擬店のメニューも冷やしぜんざいやアイスなど、涼しさを感じられるメニューを中心にしました。

模擬店で楽しんでもらった後、フロアに戻るときには普段無口な入居者さんが「もう終わりなん」と寂しそうに話す場面



も。ゲームコーナーの射的では、皆さんじつくり的に狙いを定めて発射！ 何度も外れておまけの1回でついに命中し、好みの景品をゲットする方もいました。笑顔あふれる楽しいお祭りとな



者13人の計93人が参加。浴衣や法被を着て、いざ、夏祭りへ！ 午前の部は、ゲームや太鼓で体をたくさん動かしました。午後の部は、ボランティアによる演奏会、御神輿行列と盛りだくさん。おやつにはかき氷と綿菓子を楽しみました。利用者さんたちの楽しそうな姿に、職員も含め、皆で笑顔が止まらない一日となりました。

当苑ではそれぞれの部署で季節を感じるイベントを、工夫を凝らして提供しています。この夏祭りでは、利用者さんのたくさんの笑顔に、暑い夏を乗り切るパワーをもらいました。早くも次のイベントに期待する声が上がっています。次は秋……楽しみに待っていてください！

（済生記者 本間佐知子）

施設の垣根を越えて 看護師の人事交流

〈熊本〉みすみ病院・熊本病院

材交流を進めていく予定です。
(みすみ病院 経営企画室長
折田智史)

〈群馬〉前橋病院

大盛況のまちなかフェア

無印良品前橋南店のオープン1周年の記念イベントとして7月19～21日の3日間にわたり開催された「みなみ market」に、当院も「まちなかフェア」と銘打って2日間参加しました。



ロゴ・ネーミングに込めた想い

さいくま (SAIKUMA)

本事業が、支那熊本県済生会の協賛事業であること

にじ (Niji, 虹)

本事業を通して、急性期だけでなく、回復期、地域医療、在宅医療など幅広い人材を育成すること。本事業にかかわるスタッフが、両施設の「架け橋」となって、両施設の発展に寄与すること

エール (英: Yell 仏: Aile) ※ ロゴマークは、翼の形をした比喩がモチーフ
英語でエールは、応援・励ましを意味し、両施設を助け合うことを意味する
フランス語でエールは、翼を意味し、両施設を飛び交うスタッフをイメージしている

熊本病院とみすみ病院における看護師の人事交流事業の一環で、現在、熊本病院の3人の看護師がみすみ病院に赴任し、業務にあたっています。本事業は両施設の人的資源の有効活用に加え、職員のスキル向上やキャリア形成に寄与する取り組みとして今年4月から開始。2003年のみすみ病院開院当初からしばらく熊本病院の看護師が派遣されており、もともと人材交流の土壌はありました。

7月15日には両施設の院長、看護部長をはじめ関係者19人が一堂に会し、施設間異動者を激励する会を開催。本事業と施設間異動者自身を「さいくまエール」と称し、活動を活性化させていくことが確認されました。今後は看護師に限らず、多職種への展開も視野に入れ、より広範な人



健康について楽しく気軽に考えるきっかけづくりと、当院の知名度・認知度向上を目的として、血圧測定、血管年齢チェック、ベジ(野菜摂取量)チェック、白衣試着体験、お菓子のつかみ取り、DMATカー展示などを実施。家族連れなど、2日間で目標を大きく上回る400組以上の来場があり、準備した測定記入用紙が足りなくなるほどの反響がありました。

イベント初参加のスタッフからも「緊張したが楽しかった」との声が寄せられました。イベントの様子は当院インスタグラムでもご覧いただけます。今後は恒例イベントとして定着させていきたいと考えています。
(経営企画課係長 大木浩次)

〈三重〉松阪総合病院

地元高校生を招いたオープンホスピタル

7月30日、医療従事者の業務を楽しく知ってもらうことを目的として、オープンホスピタルを開催しました。地元の4高校(松阪・三重・松阪商業・相可)から34人の高校生が参加し、5グループに分かれて進路相談・



体験コーナーを回りました。進路相談コーナーでは参加者が医療従事者に直接相談できました。看護師中心の例年に比べ、今年は希望職種が医師から公認

心理師まで、多岐にわたりました。

体験コーナーでは模擬血管を使用する注射体験、ラバ鉗子でチューリップの折り紙を行なう模擬手術体験のほか、救急蘇生法体験や内視鏡体験など、さまざまな体験を実施。

垣本斉副院長の閉会挨拶で締めくくり、ソーシャルインクルージョンの一環で福祉事業所が製造する災害備蓄用パンをお土産として配布しました。

(済生記者 岩崎貴穂)

〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑
防災かまどベンチ
製作スタート!

7月20日、当苑での防災かまどベンチ製作がスタートしました。

当日は西豊田学区支え合い体制づくり実行委員会から7人、地域の方3人、当苑職員9人、職員の子ども2人、計21人が参加しました。

炎天下での作業になるのでテントを張って日陰を作り、大型



扇風機を回して15分ごとに水分補給。普段このような作業経験の少ない職員や地域の方も、実行委員会の方々に教えていただきながら、楽しく作業を行なうことができました。参加者全員で協力し、楽しみながら出来上がった土台はとてもきれいに仕上がりに、感動しました。

今後、あと3回の製作工程があります。暑い中の作業は大変ではありますが、完成を想像するとワクワクが止まりません。
(地域ケア担当 望月亜紀)

済生会看護部リクルートサイトオープン!

あなたも「なでしこナース」になりませんか?



<https://www.saiseikai.or.jp/nurse/>

topics

応募倍率6倍！ 大人気の病院体験

滋賀県病院

7月26日、小中学生向けの病院体験イベント「ミッション・イン・ホスピタル」を開催しました。15回目の今年は過去最多の183人から応募があり、抽選で選ばれた30人が参加しました。

今年は体験内容を一新し、脳血管治療の「カテーテル体験」や白杖を使った「視野狭窄体験」など、より実践的なプログラムを用意。特に注目を集めた「電気メス体験」では、臨床工学技士と医師のサポートのもと、手羽先の血管を取り出す手術体験や縫合体験に挑戦しました。

参加者からは「ドラマでしか見たことがなかった医療機器を実際に使うことができて楽しかった」「将来は電気メスを扱う医師になりたい」との声が寄せられ、アンケート平均評価も4・



9点(5点満点)と高評価でした。

(済生記者 鶴飼健成)



山口地域ケアセンター

美しい海岸を守るため

7月27日、当センター「ラン



&ウォーク部」のメンバーと家族計20人が、阿武町・清ヶ浜で行なわれた「鳴き砂復活隊」のボランティア活動に参加しました。「ラン&ウォーク部」は、健康のために体を動かしたい人からフルマラソンを目指すランナーまで、走ることや体を動かすことが好きな職員が集まるクラブです。

当日は天候にも恵まれ、穏やかな波と美しい日本海が広がっていました。しかし、その美しい海岸にもごみが散見され、「この海を守りたい」という思いで、午前9時から約1時間、ごみ拾いに取り組みました。子どもたちも一緒に参加し、砂に埋まったプラスチックや発泡スチロールなど、自然分解しないごみを真剣に回収しました。

(済生記者 楊 玉華)

福井県済生会病院

世界・日本肝炎デーに 無料肝炎ウイルス検査

7月28日の「世界・日本肝炎デー」に合わせ、肝臓週間の一環として啓発イベントを開催しました。当院は2008年に県内唯一の肝炎診療連携拠点



病院として指定されており、地域に向けて毎年啓発イベントを開催しています。

当日は正面玄関に特設スペースを設け、肝炎の早期発見と治療の重要性を伝えるパネルを展示。また、これまでに検査を受けたことがない人を対象にした無料の肝炎ウイルス検査も実施しました。30人を超える来場者のうち、11人が検査につながりました。

検査を呼びかけた当院看護師の肝炎医療コーディネーター・橋本まさみさんは、「検査は一生に一度、少しの血を採るだけです。自分や大切な家族を守るために、検査をぜひ受けてほしい」と語りました。

(済生記者 橋本来林)

〈山口〉下関総合病院

主催者としての苦労と 若手の活躍で絆深まる

6月29日、第46回済生会中・四国ブロック親善ソフトボール大会を山口県下関市の乃木浜総合公園グラウンドで開催し、11チーム209人が参加。当院主催のため、事前準備、当日運営を行ないました。当日は非常



に暑く、飲み物を冷やす氷がすぐに溶けて何度も買い足すなど、いろいろ苦労がありました。しかし、大きなテントを24張り準備して休憩場所を確保したことが功を奏し、熱中症患者を出すことなく終了できました。

試合はA・Bの2ゾーンに分かれ、当院はBゾーン(6チーム)。戦績は、1試合目の香川県済生会病院戦では最終回に同点に追いつくも、抽選の結果敗退。2試合目の〈広島〉呉病院戦は初回から打線が爆発し、20対0で圧勝しました。選手の高齢化が進む中、20〜30代の新戦力が加わり、チームに新たな風が吹き込まれました。

(看護部 副看護師長 國弘健二)

大分県地域生活定着支援 センター

ささやかな贈り物

6月下旬、刑務所を出てアパートで暮らし始めたAさん。生活用品はそろいましたが、ごはんを食べる丁度いい台がありませんでした。経済的な余裕がないため買うことができず、少し不自由な身体で食事の準備を



して、冷蔵庫の前に座り込み、床にそのまま食器を置いて食べるという状況でした。

相談員からこの状況を聞いた筆者は、ダンボールを使って丈夫で汚れに強いテーブルを作り、相談員と一緒にAさんを訪問。事務員として初めて支援の現場に出て、刑務所を出た人の暮らしを目にしました。

テーブルを受け取ったAさんは「大切に使います」と言って穏やかに笑みを浮かべました。筆者はそんなAさんに「頑張つて」と心からのエールを送りました。

(事務員 江藤弘子)

神奈川県病院

神奈川県医師会から
「断らない医療」へのお礼

7月24日、神奈川県医師会の岩田篤人会長と監事の中村直樹医師が来院し、当院が取り組む「断らない医療」に対して、感謝の気持ちを伝えてくださいました。

特に、日々さまざまな患者さんに対応し、現場の最前線で尽力している看護師をねぎらいたいとのことで、感謝の手紙とお菓子を直接手渡しするために、病棟・外来・救急外来へ。

現場の看護師に対して「どんな大変な患者さんでも受け入れてくれて、本当に助かっています」「暑さが厳しい季節ですが、どうか体調に気をつけて、これからよろしくお願いします」と、温かい言葉をかけてくださいました。



病棟を訪問した岩田会長(右から2人目)と中村医師(右)

医師会と病院がこうした交流を通じて信頼を深められることは、

地域の医療を支える私たちにとっても心強く、現場の努力が確かに届いている証だと感じました。

(済生記者 小山友輝)

福岡 二日市病院

新規採用職員50人が
防災意識を高める

7月25日、「令和7年度新規採用職員防火研修」を実施しました。新規採用職員50人が参加し、火災発生時の対応や院内の消防設備について学びました。研修では、講義形式で初期対応や通報・避難・消火の役割分担、消防設備の種類と使用方法について説明がありました。そ



の後、病棟内で非常通報装置の設置場所や避難経路を確認し、屋外では消火器の取り扱いを体験しました。研修後も参加者は皆真剣にメモを取り、設備を確認する姿が見られました。

いざという時に落ち着いて行動するためには、日頃からの備えが大切です。今後も防災に対する意識を高める取り組みを続けていきます。

(済生記者 大園晶洋)

大分 日田病院

タスク・シフト／シェアで
検査がスムーズに

当院検査部では、昨年度からの目標として、看護師から臨床検査技師へのタスク・シフト／シェアの取り組みを行なってきました。今年5月から「超音波検査のために静脈路に造影剤注入装置を接続する行為」「造影



剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為」「当該造影剤の投与が終了した後に抜針および止血を行なう行為」を、研修を受けた2人の臨床検査技師が行なっています。輸液ラインと造影剤を接続する三方活栓の操作に慣れるまで時間がかかりましたが、検査中に看護師に造影剤注入を依頼することがなくなり、検査がスムーズになったと感じます。今後も継続して取り組んでいきます。

(検査部 西村悠希子)

国民の権利・入居者の投票権を守る

7月15日、特養入居者の第27回参事院議員通常選挙の不在者投票を当園4階会議室で園長・事務長・事務課長を立会人とし

大阪 野江特養城東園

で実施しました。投票を希望した7人は、直前まで自宅で新聞・テレビ等で綿密に情報収集。投票会場では、

投票用紙に支持する候補者・政党を真剣なまなざしで記入していました。

候補者などを記載後は内封筒に入れ、外封筒に封をして氏名を署名。鍵付きの投票箱へ自ら投函していただき、7人全員の投票は無事終了しました。預かった投票用紙は、不在者投票実施日などの必要事項を記入し、各区役所の選挙管理委員会へ即日提出しました。

(係長 佃 一博)



北海道 小樽病院

小樽朝野球で春連覇果たす

当院野球部が小樽朝野球春季大会(2部)で2連覇を果たし、7月16日に和泉卓郎院長と近藤真章名誉院長(終身名誉監督)に喜びの報告を行ないました。

昨年は敗者復活トーナメント

からの勝ち上がりでしたが、今年は無敗の完全優勝。甲子園出場経験がある好投手・田中雄大選手が新加入、ノーヒットノーランを達成し優秀選手賞に選ばれた活躍をしました。「小学生以来の軟式球に苦勞しましたが、チームのサポートもあり、楽しくプレーできた」と田中投手は語りました。強豪が集う1部に昇格する秋季大会(8〜9



月)に向けて、谷川原英志主将は「優勝と全道大会出場が目標」ときっぱり。選手の多くは9月に岩手で開催される済生会東北・北海道ブロック親善ソフトボール大会にも出場し、そこらでは初の全国大会出場を目指します。(済生記者 定 淳志)

topics



また、手首と足首に重りをつけての「高齢患者さん体験」では、「体が思うように動かせないのは大変ですね」と患者さんの気持ちになって考えることを学びました。

嚥下治療に取り入れる「トロロミ茶体験」では、かき混ぜるにつれてお茶がトロトロに変わる様子に「すごい」と感心して

未来のナイチンゲール

8月1日、「一日看護体験」に地元高校生2人が参加しました。

看護師のユニホームを身にまとい、看護師体験で互いの胸に聴診器を当てて心音が聴取できると「おお！」と思わず声を上げていました。

（三重）明和病院



「山形」特養やまのべ荘 久しぶりの外出行事で 自然の美しさを満喫

コロナ禍でなかなか行なえなかった外出行事を、6月末〜7月前半に3回実施しました。「外出ドライブ」と名付けたこのイベントでは、入居者さん7人と職員が出塩文殊堂と玉虫沼を訪れ、見頃を迎えたアジサイとラベンダーの花を鑑賞しました。

花々の美しい風景を眺めながらドライブを楽しみ、休憩所ではジュースを飲んで一息つくという、シンプルながらも心地いい時間を過ごしました。

「昔はこの辺をバイクで走り回ったんだっけ」「ここまで歩いて行ったことあったっけなあ」



入院患者さんとの「コミュニケーション体験」で「高齢の患者さんとのコミュニケーションが楽しかった」と話す。未来のナイチンゲールは、多くの「初めて」を経験し、看護の道を志す気持ちがより強くなったようです。

（副看護部長 椿 真戸）

福井県済生会病院

俳優の佐野史郎さん 闘病経験を語る

8月2日、集学的がん診療センター市民公開講座を福井県県民ホールで開催し、約400人が聴講しました。

テーマは「佐野史郎さんと知ろう。がんのこと。がんの基礎知識とがん予防（生活習慣病改善）」。

各分野の専門職による講演、特別ゲストの俳優・佐野史郎さんによるトークショー、佐野さんと院長との特別対談など、充実した内容となりました。

佐野さんは2021年に血液がんの一種である多発性骨髄腫を患い、闘病を経験。現在は症状が治まった寛解状態が続いており、「俳優として患者役に



といった声も聞かれ、参加者の皆さんが昔の思い出や日常からの小さな脱出を楽しんでいる様子うかがえました。

これからも入居者の皆さんが安全に外の空気を味わうことができるよう、気温が落ち着いたら時期に再び外出行事を計画しています。

（済生記者 岩田恭寛）

岡山済生会総合病院 病院理念を実践する2人に ホスピタリティ賞の表彰

6月24日、医課長会議で第5回ホスピタリティ賞の表彰が行なわれました。この表彰は、当院の理念に基づく「思いやり・優しさ・信頼」などの行動を



表彰式にて。左から仁徳健文院長、村上さん、楠戸さん、千田茂樹事務部長

ピッド・レスポンスチームの臨床工学技士・村上幸司さんです。楠戸さんは認知症の患者さんの身体拘束最小化を目的に、昨年「マフ編み会」を発足。患者さんだけでなく関わる医療者にも安心と笑顔を届けています。村上さんは患者さんの急変の兆候を早期に察知するため、ア



徹し、「病気を治す」という作品を完成させるために治療に臨んだ」と独自の表現で治療について語りました。

がんについて知り、学べる機会を通じて、病院としても地域とつながる大切さを改めて実感しました。

（済生記者 橋本来林）

（神奈川）横浜金沢若草園 昼食環境の快適性向上と 熱中症リスク軽減

利用者さんの利便性向上と熱中症予防の対策として、7月1日にマルチドリンクディスプレイを設置しました。利用者さんの水分補給に加え、昼食時間をさらに楽しく快適にすること



を目指しています。

昼食時にお茶やコーンスープ、味噌汁などを提供し、「今日はコーンスープにしてみました」「選べるのが良いです」といった声が聞かれました。また、熱中症リスクへの対応として、すばやく塩分やミネラルを摂取できるスポーツドリンクの提供も可能になりました。

利用者さんからは「暑い日にスポーツドリンクがうれしい」「いろいろあり、楽しい」といった感想が届いており、これらの取り組みの成果を感じています。

快適な昼食環境の提供だけでなく、熱中症リスクの軽減といった効果も期待しています。

（済生記者 日高 純）

静岡医療福祉センター 成人部 ナスの収穫に緊張？

5月に当センター成人部の花壇にナスの苗を植え、収穫がいつできるのか楽しみに待っていました。今年は梅雨らしい雨も少なく、ナスの生育が心配でしたが、手のひらサイズの小さなナスができました。

6月27日、暑い日差しの下、手伝ってくれた利用者さんは貴重な体験に緊張しているのか、なかなか切ることができず戸惑っている様子でした。職員も野



菜を一つ作るだけでも大変であることとともに感じ、この暑さの中でも働いてくれている農家の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

次はヒマワリを植える予定です。きれいに咲いたヒマワリに負けない利用者さんの明るい表情を、たくさん写真に収められたらと思います。

（済生記者 奥川詩織）

〈茨城〉神栖済生会病院

医学生が現場に触れる

7月23日、茨城県医療人材課主催の「修学生サマーセミナー」の一環で、県の奨学金を受けた医学生19人が当院を訪問しました。

田村照悟副院長兼事務部長からの病院概要説明後に院内見学を行ない、現場の空気を肌で感じてもらいました。続いて金沢義一院長から、地域に寄り添う医療を提供するという当院の方針と、地域の特色を理解する大切さについて話がありました。

最後に濱田修平内科部長から訪問診療を通して見た当地の医療について話がありました。学生の中には怖がらずにどんどん



外に出て、今だからこそできる形でたくさん学んでほしい。当院はいつでも実習ウエルカムです」との言葉に、参加者の硬かった表情も少し和らいでいました。

（済生記者 江口裕紀）

〈新潟〉オープンテラス

花そーて

eスポーツを通して 世代間交流

7月29日に「三条市eスポーツプロジェクト」の一環として「eスポーツ体験会」を開催し、当施設の利用者さん14人が参加しました。eスポーツ



は年齢や性別に関係なく誰もが参加でき、楽しみながら健康対策や新たな生きがいづくりにつながることも期待されています。今回の体験会では、コントローラーを使ってパズルゲームに挑戦。ゲームの内容やコントローラーの操作方法は高校生ボランティアの皆さんに教えてもらい、世代間交流も図ることができました。はじめはゲームの内容や操作方法に戸惑う人もいましたが、後半には皆さんがゲームを楽しんでいました。

「慣れるまで難しい」「家でもやりたい」という声も上がり、大盛況のうちにイベントを終えることができました。

（新潟・特養長和園 済生記者 布施優子）

滋賀県病院

フライトナースのお仕事

6月27日、京都府立医科大学看護実践キャリア開発センターの「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の一環で、京滋ドクターヘリ拠点地での研修・見学会を開催しました。

当院では2回目の開催で、今回は京都府内で勤務する看護師と看護学生の13人が参加。当院の平泉志保救命救急センター副センター長による講義「病院前診療を知る」フライトナースのお仕事」では熱心にメモを取る受講者の姿が見られ、その後、救急バッグやヘリの機内を見学、使用される医療資材や薬剤の管



理方法などについて、積極的な質問が飛び交いました。

今後もドクターヘリ基地病院の一員として、プレホスピタルケアに関心のある看護職のキャリア形成をサポートし、教育機関との協力を進めていきます。

（済生記者 鵜飼健成）

〈静岡〉ワーク春日

点字用紙を活用した 作品をカフェ等で販売

当施設では、使用しなくなった点字用紙や封筒などを活用してノートやポチ袋を作成し、病院や施設のイベントなどで販売しています。このたび、就労継続支援B型の活動にご理解をいただいている2店で、作品を置いてもらえることになりました。

お茶カフェ「侘助」からは「点字用紙を前面に出してほしい」との要望があり、表にお店のロゴのスタンプを押し、オリジナル商品として企画。また、美容院「hair & spa hana」は店名にちなんで「花柄で作ってほしい」とのことで、かわいい花柄の布や紙を使用して制作しました。



カフェでは6月末、美容院では7月上旬から販売開始。点字を見たことがない方に、手に取って見ていただく機会を得ることができました。

（施設長 阿部ゆかり）

topics

静岡市心身障害児 福祉センターいこいの家

職員奮闘の七夕劇

7月7日に七夕集会を行ない、子どもたちや家族の願い事の紹介に続き、職員による「七夕劇」を皆で鑑賞しました。

心地良いナレーションに合わせ、織姫と彦星、天帝に牛（有田瑞恵施設長が張り切って演じてくれました）まで登場！



織姫と彦星は働き者の若者でしたが、結婚したら遊びほうけて、機織りも牛の世話もしなくなってしまう……天帝に天の川を境に離れにされてしまいます。でも、このままじゃダメだ！と心を入れ替え、再び働き始め、1年に一度、7月7日に天の川を渡って会えるようになりました。大雨が降ってもカササギが飛んできて渡らせてくれるから毎年会えるよ、というお話です。

子どもたちは最後までじつくりと見ていてくれました。皆の



願い事がかかりますように。

（済生記者 齊藤知夏）

〈大阪〉千里病院

病診連携の研修会に 多職種132人

7月12日、千里阪急ホテルで吹田市医師会主催の「第28回開



業医と勤務医との研修会」が開催され、医師を中心に社会福祉士、看護師、事務職員など総勢132人が出席しました。

当日は、吹田市内の8病院から病診連携に関するプレゼンテーションが行なわれ、各病院の役割や機能について理解を深める貴重な機会となりました。

当日から参加した患者支援センターの井上千代看護師長は「情報交換会では、普段の診療情報提供書や電話などでのやりとりとは異なり、紹介患者の経過や逆紹介患者の在宅での様子などについて直接情報を共有でき、地域連携の重要性を改めて実感することができた」と感想を述べていました。

（済生記者 二階堂潤江）

東神奈川リハビリ

テーション病院

専門学校生から入院患者へ 素敵な体験をプレゼント

当院近くの横浜ビューティーアート専門学校と連携し、8月6日に特別なイベントが開催されました。

このイベントは、リハビリテーションで長期入院が続く患者



さんたちに癒やしの時間を提供することを目的として企画。当日は同校の学生ボランティア9人により、ハンドマッサージ、ネイルケア、パーソナルカラー診断の三つの体験が提供されました。

入院患者さん25人と職員33人の合計58人が参加。体験後は笑顔の患者さんから「気持ちよかった」との声が多く聞かれ、職員とともに癒やしを実感する様子うかがえました。

初めての試みではありましたが、学生ボランティア、入院患者さん、職員と全ての参加者から好評で、今後も定期的に開催できないか検討中です。

（済生記者 濱崎啓郎）

はしご車体験に歓声

防災ラボ大盛況

北海道済生会

小樽市と締結した地域共生包括連携協定の一環で、6月21日にイオン小樽店の平面駐車場で「防災ラボ2025」を開催しました。

パネルや道具の展示を行ない、消防団は参加者にAEDの使い方をレクチャー。民間企業による災害救援車の展示もあり、盛りだくさんのイベントとなりました。

（済生記者 清水雅成）

〈兵庫〉特養ふじの里 オムツマイスター3人誕生

6月13・16日、当施設で大王

製紙によるオムツマイスター研修を実施し、職員3人が受講しました。

そのほか海上保安本部、小樽開発建設部が災害対応に関する



「排泄ケアの基本知識」「パンツタイプの装着体験」「テープタイプの当て方実技実習」「排尿体験」「実技・筆記試験」を経て、無事に認定証を受けることができました。

受講者は皆入職して20〜30年



（介護部長 柳川瀬洋志）

topics

セミナーで地域と連携 顔の見える関係づくり

7月29日に第9回豊かなまち
づくりセミナーを開催し、地域

（山口）豊浦病院

（西館介護課 介護主任

畝 和男）

来年も開催できたら良いなと思いました。
が進まない入居者さんがしつかりと食べている様子を見て、面会に来ていた家族も驚いていました。
段あまり食事



り、今年も開催することに。スイカ割りでは大きな声を出して「よいしょ」と力強くスイカをたたき姿が見られました。
スイカ割りの後、入居者さんの目の前でスイカを切っ

て提供すると「こんな大きいスイカ見たことないわー」と驚きの声が上がっていました。また、普



の関係者26人が参加しました。当セミナーは2018年に開始し、現在は年3回実施。地域の医療・福祉・介護関係者と当院が「相談しやすく利用しやすい病院」として双方に連携をとり「住みやすい地域を作っていく」ことを目的としています。
今回は当院の特定看護師・久保千代美師長が講師となり「脱水対策」をテーマに講義を行いました。
講義では「自宅でできる経口補水液」を実際に水に塩と砂糖

8月6日、広島は原爆投下から80年を迎えました。広島市の平和記念公園で営まれた平和記念式典には、被爆者や遺族、石破茂首相をはじめ過去最多となる120の国と地域の代表らが参列。原爆投下時刻の午前8時15分、遺族が「平和の鐘」を鳴らし、参列者全員で黙とうをささげました。



原爆犠牲者の供養に 千羽鶴を献納

（広島）特養たかね荘こやうら
を溶かして作成。好みでレモンや蜂蜜を混ぜ試飲してもらった。「レモンを入れると飲みやすい」「蜂蜜はちよつと甘い」との声も。「トイレが気になるからと水分を取ってくれない」など、参加者からは困りごとや挙げられ、特定看護師が回答する場面もありました。
（看護師長 松岡一子）

当荘がある坂町小屋浦地区でも、原爆投下後に設置された臨時救護所で亡くなられた多くの方の供養のため、平和記念式典と同時に原爆犠牲者追悼慰霊式典が開催されています。この式典には毎年、広島県済生会から特養たかね荘施設長らが参列する他、老健はまな荘・特養たかね荘の利用者さんや職員が折った千羽鶴を献納しています。
被爆80年の節目の年に、坂町小屋浦と原爆の関わりを考える機会となりました。
（済生記者 佐藤 聡）



充実のメディカルラリー 子どもたちに多くの刺激

岡山済生会総合病院

6月28日、第9回岡山済生会子どもメディカルラリーを開催しました。
今年も3人1組で12チームを募集したところ、定員を超える応募があり、抽選で参加チームを決定。抽選にもれたチームのうち希望のあった2チームには、午後からBLS講習を行ないました。
当日は、午前は心肺蘇生やAED操作、災害時の行動について講義と演習で学び、午後は四つのシナリオステーションと三つのサービステーションで、応急処置や避難行動、医療機器の操作、クイズなどに取り組みました。
今年は映像を用いた通報システム「Live119」体験を新たに導入。子どもたちはスマートフォンを操作し、リアルな救急対応を実感していました。また、岡山市消防局の協力により、特殊車両展示や起震車体験なども実施しました。
（済生記者 高畑貴子）



（滋賀）看護小規模多機能型
居宅介護事業所なでしこ草津
買い物レクでスーパーへ
セルフレジにも挑戦！
6月に「おつかいをしよう！」と題して、買い物レクリエーションを5回開催しました。
参加者は合計14人。家族に「おつかいのお願い」を書いてもらい、利用者さんが頼まれた品物を自分で選んで購入しました。慣れ親しんだ地域のスーパーへ出かけ、家族と合流して一緒に買い物を楽しくむ姿も見られました。
普段なかなか買い物に行けない利用者さんにも「楽しかった」と笑顔で話し、昔好きだったお菓子や家族の好きな品を選ぶ姿に、心が温まりました。
中にはセルフレジに挑戦した人もいて、新しい体験が刺激となったようです。「また行きたい！」という声も多く、皆さんの意欲向上につながる素敵な時間となりました。
（看護係長 大平亜紗美）



こんな大きいスイカ 見たことないわー！

（兵庫）特養ふじの里
7月24日、西館各階でスイカ割りを行ない、入居者さん50人が参加しました。
入居者さんから「またスイカが食べたい。スイカ割り楽しかった！」といった声が多く上が

topics

〈山形〉特養ながまち荘 けあらーずカフェで 地域の介護者と交流

7月22日、地区のコミュニティセンターで地区住民を対象とした介護者交流のつどい「けあらーずカフェながまち」を開催しました。カフェには住民17人のほか、社会福祉協議会の生活支援コーディネーター1人、当荘からは職員9人が参加。

前半は、からだ元氣治療院の鍼灸師や指圧師の方から「気持ちよく楽になるツボ押し健康講座」について実践を交えながら講話があり、後半には交流の時間を設け、自身の介護体験や



要介護状態にならないように気を付けていることなど、さまざまな話を聞くことができました。会終了後のアンケートには「楽しいひとときを過ごす

ことができた」「いろんな人の話を聞けて勉強になった」などの言葉をかけられ、開催の意義を感じました。

（済生記者 高見友郁）

静岡市心身障害児 福祉センターいこいの家 51歳の誕生日とプール開き

7月1日、当施設は51歳の誕生日を迎えました。オリジナルソング「ひまわり

の時計台」は代々受け継がれ、どの職員も歌えるよう練習します。今年もずっとその先も、皆が大好きな「いこいの家」であるよう、職員一丸となって子どもたちの成長を応援していきたいと思っています。

同じ日にプール開きも実施。水の星から水の神様（ギャルめの妖精）が来てくれ、魔法で清めの水を出し、子どもたちにかけてくれました。皆が安全に楽しく水遊びができますようにと願いを込めて。まだまだ暑い日が続きます。



大人も子どもも神様がくれた魔法の水で元気に夏を乗り越えたいと思います。

（済生記者 齊藤知夏）

〈愛媛〉松山病院 パーキンソン病治療で 症例登録数全国上位に

当院脳神経内科では8月現在、



3件の治験を実施中です。そのうち進行期パーキンソン病を対象とした治験では、全国的に「L-DOPA」解析（心電図評価）対象者の症例確保が難しい中、当院は全国でも1・2位を争う症例登録数を達成しました。

この実績が評価され、依頼者であるキッセイ薬品工業株式会社から、責任医師の矢部勇人医師と担当治験コーディネーター（筆者）に感謝状が贈られました。

当院の治験外来は2診体制で、採血や心電図も治験外来内で完結できる環境を整えています。治験に関わる医師や関連部署の協力と、こうした体制が成果につながりました。

（治験コーディネーター

渡邊 歩）

〈茨城〉水戸済生会総合病院 救急のエッセンスを体験

7月12・13日の2日間、第24

回水戸医学生セミナーを開催し、全国から医学生13人が参加しました。

セミナーの目的は、救急における迅速な初期対応の重要性を理解すること。

1日目は外傷患者の初期診療や多数傷病者対応などに関する講義や実技研修、2日目は三つのステージに分かれてメディカルラリーを行いました。メディカルラリーで医学生たちは戸惑いながらも難しいステージに対応。終了後には「前回に引き続き参加したが、新たな課題が見つかった」「いざとなると思っていたように動けなくて悔しい」といった感想が聞かれました。

セミナーを主催した臨床研修



センター長の千葉義郎医師は「初期研修医が教える側になることで日常診療を振り返る機会になっており、研修医にとって大切なイベントになっている」と語りました。

（済生記者 今野正俊）

WEB掲載はじまりました！

済生会 topics WEB

機関誌「済生」に投稿された topics から厳選した記事を発信中！

<https://www.saiseikai.or.jp/topics/>

セキュリティ対策と業務負担軽減に注力

7月19日から21日の連休を利用し、新たにクラウド版の電子カルテシステムを導入しました。近年の医療機関を狙ったハッキング事件などの犯罪件数増加を踏まえたセキュリティ対策強化の一環で、患者情報などをより確実に管理することも可能となりました。

さらに、8月4日にはバイタルサイン測定システムを導入。これは、看護師が従来手作業で行なっていたバイタル測定記録を電子化し、データの記録漏れや転記ミスを防ぐためのものです。

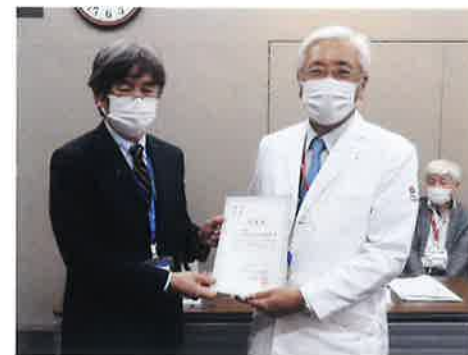
バイタルサイン測定システム導入後、看護師から「記録ミスの不安から解放された」「病室とナースステーションを往復する回数が減った」といった声が寄せられています。業務負担の大幅な軽減

6月10日、NPO法人卒業臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修評価の訪問調査を受審しました。JCEPでは2年ごとの書面調査に加え、原則4年ごとに訪問審査を実施しています。当院では2013年の初回認定以来、途切れることなく更新を継続しており、今年は4回目の訪問審査にあたります。

研修医が安心して学べる環境づくり



（茨城）神栖済生会病院
により、看護職員の離職防止や新入職員の採用増加につながることを期待しています。
（済生記者 江口裕紀）



今回の訪問調査は、研修のプログラム責任者が風巻拓臨床研修医室長になってから初めての実施となりました。副プログラム責任者の馬場毅医師研修センター長、比嘉眞理子専攻医研修室長をはじめ、関係スタッフが一丸となり準備・対応に尽力した結果、2年間の認定継続が正式に認められました。

今後も、研修医が安心して学べる環境づくりを推進し、良質な医療人育成に尽力します。
（臨床研修医室 相澤康恵）

未来の看護師を後押し

7月30日、岩手県看護協会主催の「看護職を目指す中学生・高校生・」

高校生等の進学セミナー」が北上市で開催され、県南地方から27人の学生が参加しました。当院からは佐々木小梅看護師が登壇し、看護師を志したきっかけや仕事のやりがい、目指す看護師像などについて発表。現場での体験を交えながら、看護のやりがいや人とのつながりの



大切さを伝え、参加者の心温かく響くメッセージとなりました。

後半の質疑応答の時間では、一人ひとりの質問に丁寧に回答した佐々木看護師。「自分の経

験を伝えることで、参加者たちが看護師への道を進む一助となれたら」と語る姿が印象的でした。参加者からは「将来のイメージが湧いた」といった前向きな感想が寄せられました。
（広報企画室主任 岩城 達）

リアルな医療体験で医療現場を肌で感じる

8月2日、今治西高校の生徒33人を対象に病院見学会を開催しました。医療に貢献する人材育成を目的とし、今年で10回目を迎えます。見学会では手術室、



超音波検査、内視鏡検査、検査部、薬剤部、放射線部の6セクションに分かれて体験。手術室では鶏肉を使った電気メス体験や、腫瘍に見立てたグミの切除など、よりリアルな医療体験を実施しました。

その後は9職種のブースで質疑応答を行いました。

生徒から「普段触れることのできない内視鏡器具や手術器具を触ることができ、働くことへの実感が湧いた」「専門職から職業選択のきっかけ・やりがいを聞くことができ改めて医療職に興味を湧いた」という言葉もあり、医療現場の雰囲気や肌で感じる貴重な機会となったように感じます。
（総合医療支援室 課長 阿部祥一朗）

居住支援って？事例と課題を共有

6月4日、当院講堂で今年度第1回の「生活困窮者支援ネットワーク協議会」を開催。行政、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、NPO法人などから62人が参加しました。



今年度のテーマは「居住支援」です。近年、高齢化や持ち家率の低下に伴い、住まいの確保に課題を抱える人が増え、市周辺の支援機関でも関心が高まっています。

当日は、埼玉県都市整備部の西川旭さんが、今年度改正予定の「住宅セーフティネット法」について講義、居住支援法人「ピュアホームズ」志村育子さんが実際の支援事例を紹介しました。

居住支援は、住まいを探す段階から契約後のフォローアップまで、継続的な関わりが求められることを学びました。一方で、支援を担う法人の数が限られていることや、大家さんへの理解促進が課題であることも共有されました。

（医療福祉事業課 柳光季恵）



〔静岡〕川奈臨海学園
大相撲体験で笑顔満開！

8月2日、川奈臨海学園で「夏休み大相撲体験」が開催されました。株式会社日本道の山近義幸代表からのお誘いを受け、小学生から高校生までの14人が参加。特別ゲストとして中村部屋から中村親方、西御許関、加藤関が来園し、子どもたちに相撲の魅力をつつりと伝えてくれました。

参加した子どもたちは、四股やすり足、ぶつかり稽古など、力士の基本動作を実際に体験。特にぶつかり稽古では、大きな力士に果敢に挑む子どもたちの姿が印象的で、会場は笑顔と歓声に包まれました。



間近で見る力士の迫力に驚きながらも「また一緒に稽古したい！」という声が多く聞かれ、相撲への興味と親しみがぐっと深まったようです。

1日限りのお相撲さん体験を通じて、子どもたちの笑顔が当園を明るく照らしました。

（済生記者 鈴木一丈）

〔栃木〕宇都宮病院
「命を守る」思いを伝える
ドクターカー見学会

8月9日、作新学院高等学校の「医学探究チーム」に所属する生徒約40人が来院し、救急医



療について学びを深めました。救急救急センター長・小倉崇

に誠実に努めます。
（事務部長付課長補佐

加古川昌憲）



以医師による講演では「救命の連鎖」の重要性や、現場へ医師が駆け付けるドクターカーの意義について、熱意あふれる話に生徒たちは聞き入っていました。その後、ドクターカーの車内見学を行ない、

救命処置の機器や通信設備を間近で確認しました。

生徒からは「自分にもできることがあると感じた」「医療の道に進みたい思いが強くなった」との声が寄せられました。地域と共に命を守る取り組みを、次世代にもしっかりと伝える良い機会となりました。

（済生記者 川原彩花）

〔奈良〕中和病院
慰霊祭で故人・遺族に感謝

7月5日、当院で亡くなった方々の御霊をしのぶ慰霊祭を執り行ないました。

本年度はご遺族の列席はあり



載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介しします

医療的ケア児（者）を
地域で支える仕組みが重要

山本看護部長・岩本看護部長
（山口）豊浦病院

隔月刊「地域連携 入退院と在宅支援」2025年7・8月号（日経研出版）の特集「医療的ケア児と家族を支える地域連携・多職種連携」に、筆者と岩本なお子看護部長が「医療

的ケア児と家族を支える地域連携・サポートの取り組み」をテーマに寄稿した。

記事では、医療的ケア児（者）のレスパイト入院を受け入れるまでの過程や事例、工夫を紹介。レスパイトは多職種連携と地域医療連携で成り立つと考えている。

先の課題は医療的ケア児（者）の



筆者（左）、岩本なお子看護部長

家族の高齢化で、兄のケアが家族だけでは難しくなる時がやってくる。そのため、地域全体で支えていく仕

組みが重要である。筆者らは、済生会の使命の一つでもある「誰一人取りこぼさない」ソーシャルインクルージョンにこれからも取り組んでいく。

（看護部長 山本真依子）



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。
職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

スズメバチご一行様……

派手にやりすぎでは？

はまなす農園そらしぐの初収穫の記事（P46参照）に「スズメバチが現われて、収穫前のブルーベリーをおいしそうに食べている」という



記事を書いてから時がたち……。農園長の本間勝利事務長が駆除するためのトラップなどを畑のあちこちに仕掛けているものの追い付かず、今年のブルーベリーの収穫はほぼ絶望的という悲惨な状況に（涙）。イメージ的には、我々人間による「○○の食べ放題」の制限時間後のテーブルの状態（笑）を想像していただければ。

8月末には小学生がジャガイモの収穫に来ます。それまでにはなんとか無銭飲食のスズメバチご一行様の

逮捕（捕獲）をしなければ。命がけになりますが……。

（北海道・小樽老健はまなす

★子どもたちが安心してジャガイモの収穫ができるよう命がけの逮捕（捕獲）！ お願いします。

（本部広報課 大嶋 薫）

由緒あるシルクフラワー

このたび、〈大阪〉千里病院で大変おめでたい品物が見つかりました。

かつて看護部が使っていた部屋を別の用途で使用する事となり、以前から室内にあったシルクフラワー（造花）の整理を検討していたところ、職員の一部が「これは由緒あるもの



と聞いたことがある」と話したことから、当院の初代看護部長に確認し、思いがけない事実が判明しました。

なんとこのシルクフラワーは、当院が2006年に新築された際に、当時の済生会総裁であられた寛仁親王の妃である信子様からいただいたお祝いの品である、とのことでした。現在シルクフラワーはケースを丁寧に磨き上げ、院長室で大切に飾られています。

（大阪・千里病院

済生記者 二階堂潤江）

★病院にいろいろと安らぎをもたらしてくれる美しい花々。患者さんや職員の心を和ませてくれます。

（本部広報課 河内淳史）

編み物でリアルさいせい！

〈広島〉特養たかね荘こやうらの元パート職員、新矢澄子さんが得意の手芸を生かして、とてもリアルな「さいせい」を作ってくださいました。

新矢さんは在職中からムーミンとその仲間たち、各年の干支などさまざまな作品を制作。利用者さんにも大変喜ばれ、作品を見た方からは「とてもよくできている」「どこへ行けば買えますか」などの問い合わせが来ることも。また、役場や郵便局などにも作品が展示されており、地域ではちょっとした有名人です。

今回の「さいせい」は、前から見たときのハート型、チャームポイントのまん丸しっぽと、とても緻密に表現されており、その完成度の高さには職員も皆ビックリです。

実物は当施設1階事務室をはじめ、済生会本部、呉病院、広島病院、



老健はまなす、特養たかね荘でもご覧になれます。

（広島・特養たかね荘こやうら

済生記者 佐藤 聡）

★さいせいの愛くるしさがばっちり表現されていて、感動しました！ ありがとうございます。

（本部広報課 杉山菜央）

元パート職員が毛糸で編んだ手作り「さいせい」

7月22日に〈広島〉特養たかね荘こやうらから荷物が届きました。差出人は同施設の済生記者・佐藤聡さん。中には毛糸で編んだ15センチほ

どの「さいせい」が入っていました。

「毛糸で編んださまざまな作品を当施設に送ってくれる元パート職員がいる」と、佐藤さんから本部に連絡があったのが6月下旬。以前、本誌に掲載された、〈愛媛〉老健にぎたつ苑の利用者さんがアマビエの人形を本部に贈ったという記事を思い出



し、作品を送ってくれたとのこと。

済生会のマスコットキャラクター「さいせい」の青と緑のラインは「済生会」と「ソーシャルインクルージョン」の二つの「S」が交わり、ハートを形成しています。皆さんもどこかで「さいせい」を見つけたら、機関誌「済生」に情報をお寄せください。

（本部広報課 河内淳史）

ツバメの巣を見守る

7月7日、〈三重〉松阪総合病院のエントランスの見つけづらい場所にツバメの巣ができていると患者さんが教えてくれました。

エントランスは人通りの多い場所ということもあり、ふん害や羽毛などの対応に悩みましたが、「保護」「見守り」の姿勢で職員が急ぎ対応しました。

ツバメの巣の近くに「ツバメの巣があります」と英語も併記して掲示し、注意を促しました。何気なく通行していただけでは分からない場所なので、その下には三角コーンと箱を置いてふん害対策を行ないました。対策を行なう間にも親ツバメが忙しくひなのお世話をしています。

あれから1カ月が経過し、もう巣にはひなの姿も、親の姿もありません。ひなが無事に巣立っていったこ



とを祈っています。



（三重・松阪総合病院

済生記者 岩崎貴穂）

★とかく面倒なことを回避しがちな世相の中、温かな姿勢で即応できるのは日頃の心持ちの賜物ですね。

（メディカル・リーフ 吉村亜矢）

草刈り隊が久々の出動！

7月19日、〈石川〉金沢病院の有志職員とその家族30人余りが参加し、早朝6時から敷地内の草刈りを行いました。

草刈りはコロナ禍前に2〜3回実施しましたが、感染防止のため一時休止に。職員から「またやりましょう」と声が上がり、今回は数年ぶりの実施となりました。

当日は朝から厳しい暑さとなりましたが、全員で約1時間30分ほど作業を行いました。これまで除草が行き届かなかった箇所も整備できたため、清々しい気持ちでいっぱいです。参加者も「草が目立って気になっ



ていたところもきれいになった」と充実した表情を見せていました。

除草ですっきりした当院の外観は患者さんからも好評です。

（石川・金沢病院 総務課

吉村英士）

★草刈り後の匂いが好きです。調べてみるとその正体は「植物が虫の攻撃に備える警告物質」でした……。

（メディカル・リーフ 岩谷純一）

デイで焼き肉！

北海道と言え……

8月7日、今年もこの季節がやってきました……デイ恒例の焼き肉！ 昨年は牛肉・豚肉など複数のお肉を用意しましたが、今回はジンギスカンのみ！ 振替や臨時も含めて37人

の利用者さんと楽しみました！

午前中から準備を進めていると、ダイルムの窓から見える「はまなす農園」のピーマンが大きくなっていてちょうど食べ頃……。さつそく収穫してジジスカンと一緒に焼いて食べることに！ ピーマンの他にも玉ねぎやキャベツなども切って準備完了。

いよいよ焼き肉の開始。いっぱい食べて、その後は緑日ゲームの輪投げと射的でたくさん遊んで、とっても楽しい一日でした。「おなかいっぱい食べた」。1年分くらい食べたよ！」なんて声も聞かれていました。（北海道・小樽老健はまなす

済生記者 伝法俊和）



★久しぶりにジジスカンを食べたくなりました。とれたて野菜もたっ



ぷりでヘルシー！

（メデイカル・リーフ 坂本陽子）

稲賀名蒼院長が卓球大会で見事優勝！

稲賀名蒼院長は（鳥取）境港総合病院の卓球同好会の現役選手です。

5月18日、東京都内で開催された「第40回全日本医師卓球大会」セブンティの部で稲賀選手が優勝を飾りました。

この大会は全日本医師卓球連盟が主催し、卓球をこよなく愛する医師約190人が出場。今回、セブンティの部に出場した稲賀選手は70代前半の医師たちと熱戦を展開、1日で5試合をこなし、見事に栄冠をつかみました。ちなみに稲賀選手は、過去にフィフティの部でも優勝経験があ

ります。

現在は週に2回、自宅近くの公民館で練習に励んでいるそうです。9月14日には東京で開催される東日本医師卓球大会に初参戦の予定。今後、全国各地で熱い戦いを繰り広げることでしょう。

（鳥取・境港総合病院

済生記者 亀尾美子）

★情熱と挑戦を忘れないこともすごいですが、1日5試合をこなす体力はハンパない！

（本部広報課長 河内淳史）



薬と笑顔を届けに！

筆者は7月15～17日の3日間、〈愛媛〉松山病院と今治病院、西条病院の3病院合同で行なう宇和海合同診療に初めて参加しました。

3日間で島民15人に投薬を行な



い、公民館や学校といった普段とは異なる環境での業務に新鮮さを感じました。

診療班の中で薬剤師は私一人でしたが、病院での服薬指導業務の経験を生かしながら処方薬の説明などができました。特に湿布薬の処方が多かったのですが、湿布薬で皮膚がかぶれた際の対処方法などを伝えました。また、他職種・他院の方々と意見交換をしながら交流を深めることができたことも良い経験となりました。

今回得た知識・経験を普段の業務にも生かし、患者さんのより良い治療につながるよう今後も励んでい

たいです。

（愛媛・松山病院 薬剤部

武田慎平）

★貴重な経験を今後に生かす姿勢、素晴らしいです！ 今後のご活躍も応援しています。

（本部広報課 杉山菜央）



ケアポート栗東の夜に

花火が打ち上がりました

滋賀県の夏といえば琵琶湖の花火大会が有名ですが、残念ながら、ここ〈滋賀〉ケアポート栗東からは花火の音しか届きません。

そこで、利用者の皆さんに少しでも夏を感じてもらおうと、当施設でも「花火の打ち上げ」を計画！ 折り紙を折る、糊で張り合わせるなど、7月下旬から花火作りを開始しまし



皆さんに琵琶湖花火の思い出を尋ねると「家から見ていた」「テレビ中継で見ていた」とそれぞれの楽しみ方がありました。中には「打ち上げ場所の近くに住んでいて、空一面に花火が上がって綺麗だったけど、火の粉が飛んできそうでヒヤヒヤした」といったエピソードも。

約15人で2週間ほどかけて出来上がった花火は、本家に負けないくらいに華やかで、当施設にも火の粉が降ってきそうなほどでした。

（滋賀・老健ケアポート栗東

作業療法士 本間めぐみ）

★色とりどりの花火がたくさん浮か

次号予告

済生 No.1156
[令和7年10月号]

済生会の不易流行論 (205) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人

高田聖子

口福にっぽん (97)

てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

株式会社日立システムズ
——表紙見返し[表紙2]

んでいて大迫力！ 一瞬で消えず、いつまでも眺められますね。

（大空出版 田中十和子）

入所者さんが笑顔で穏やかに過ごせるように

私は愛知県三河青い鳥医療療育センターに保育士として勤務し4年目で、重症心身障害児・者が入所している部署に所属しています。

当センターでの保育士の役割は、入所者さんの気持ちに寄り添いながら「できた」や「楽しい」を積み重



納涼祭の様子(野口さん)



支援の糸口を、私たちから

生きづらさを抱える若者を支える福井の力

福井県済生会では、その事業活動を通じて、生きづらさを抱えながら相談先や居場所が見つからない、制度の狭間で支援が受けられていない若い女性や子どもたちに出会ってきました。そこで、このシンポジウムでは、こうした問題を抱えた方々を支援している民間団体の活動や行政の支援施策を紹介し、自ら声を上げることが困難な女性や子どもたちをどのように支援につなげるとよいのか、などについて話し合う場にしたいと考えています。

日時 2025年 10月18日 土 13:00～16:00 (12:30 開場)

場所 福井県済生会病院 本館2階 研修講堂 (〒918-8503 福井市和田中町舟橋7-1)

申込 右の申し込みフォームよりお申込み下さい。FAX・メールでのお申し込みも可能です。詳細は福井県済生会病院ホームページをご覧ください。

入場無料

定員 200名

どなたでもご参加いただけます (当日参加可)

Forms 申込みフォーム▶



基調講演

生きづらさを抱える若い女性や子どもたちを地域で支えるために私たちができること

(一社) 社会的養育地域支援ネットワーク・代表理事 橋本 達昌氏

パネルディスカッション

●コーディネーター (一社) 社会的養育地域支援ネットワーク・代表理事 橋本 達昌氏

こども・若者の支援の入り口をひらく
行政の取り組みと課題

福井県健康福祉部児童家庭課長 藤原 美由紀氏

様々な問題を抱える若者を支援する活動について

(一社) ラシーヌ・代表理事 端 将一郎氏

当事者として考える、
生きづらさを抱える若者への支援について

ケアリーバー (社会的養育経験者) 板谷 ゆり氏

誰にも言えない苦しみに寄り添う
～性暴力救済センター・ふくい「ひなぎく」の取り組み～

福井県済生会病院 公認心理師・臨床心理士 車屋 知美

橋本 達昌氏 プロフィール

昭和41(1966)年福井県武生市(現・越前市)出身。これまで全国児童家庭支援センター協議会会長、厚生労働省社会保障審議会社会的養育専門委員会委員など官民の児童福祉、社会福祉関係の要職を務める。近著『社会的養育ソーシャルワークの道標』。



【主催】 社会福祉法人 福井県済生会支部 福井県済生会

【共催】 福井県

【後援】 福井県教育委員会、福井市、福井市教育委員会、福井県社会福祉協議会、福井市社会福祉協議会、福井新聞社、FBC

お問い合わせ 福井県済生会病院 よろず相談外来 TEL: 0776-23-1111 (代)

ねられるように、新たな体験と機会をつくり出すことだと思っています。

例えば今年の納涼祭では、普段スプーンを口に入れるのを嫌がる利用者さんが、かき水をおいしそうと感じてくれたのか、自らスプーンですくって口に運んでくれました。

私が特に気を付けていることは、個性と真剣に向き合った療育の提供です。他職種の方と意見交換をしつつ、皆が最高のパフォーマンスを発揮できるよう努めています。

(愛知県三河青い鳥医療療育センター 1B 病棟保育士 野口遥香)

★かき水で苦手なスプーンを克服……一人ひとりに寄り添う姿、素晴らしいです。

(本部広報課 大嶋 薫)

〈東京〉向島病院では、訪問診療や訪問看護で患者さん宅を訪問する際に、白い軽自動車を使用しています。実は、昨年末に購入した当院初の病院車です(なんでもこの時、機関誌に記事を投稿しなかったらどうしようかと後悔しています……)。

この車両を使用し始めた当初は、A3サイズのマグネットシートに病院名を印刷したものを貼り付けていました。しかし、せっかく院外で活



動するのですから、もつと地域住民の方の目に留まりやすいように、病院名を大きく表示しようということになりました。

検討の結果、施工がしやすく、貼り換え時にも塗装を傷めず仕上がりがキレイな「カーフィルム」を採用、写真のような仕上がりに。どうでしょう? しつかり目立ちますよね?

(東京・向島病院 済生記者 加藤建志)

★新たなカーフィルムで心機一転。多くの人に知ってもらえると思うと、運転中の気分もアガりますね!

(メディカル・リーフ 紫村柊斗)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、福井県済生会を創立した。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部 東京 支部 40 都道府県
病院 83
診療所 20
介護医療院 3
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 116
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 67
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 9
合計 404 (数字は令和6年度)

済生

THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年9月10日発行
通巻第1155号 (第101巻第9号)

編集兼発行人 炭谷 茂
発行所 社会福祉法人 福井県済生会
〒108-0073
東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
FAX: 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1

© 社会福祉法人 福井県済生会

以来今日まで114年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救済」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人 福井県済生会となっている。

職員数は全国で約6万7000人。

団体扱自動車保険のご案内

取扱い保険会社に

\\ **三井住友海上火災** が加わりました! //

職場に入れば 選べて、おトク。

団体扱契約は
一般契約に比べて

約**5%割安**※

本制度は職員の皆さまで、
支えていただく制度です。
たくさんの方が加入することにより
割引率が拡大します。
是非、ご加入を検討ください

お見積り依頼・制度の詳細は済生会団体扱自動車保険パンフレットから
パンフレットの連絡票・保険証券(写)・車検証の3点をご用意ください▶



取扱い保険会社

● 損保ジャパン

● 東京海上日動火災

● あいおいニッセイ同和損保

● 三井住友海上火災

※団体扱分割払いは一般契約と異なり分割割増がかかりませんので、約5%割安となります。団体扱年一括払いは一般契約年一括払に比べて、5%割安となります。

●このポスターは団体扱自動車保険の概要を説明したものです。

●詳細につきましては取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

●団体扱自動車保険にご加入いただけるのは、ご契約者および被保険者が引受保険会社の定める条件を満たす場合のみとなります。